

地理  
教本

理學士瀧本銓三  
榎山榮次 共著

日本之編



東京

株式會社普及舍

地理教本（日本編）

例言

一、本書は、高等女學校およびこれと程度を同じうする女學校の日本地理教科書に充てむ目的にて、教授時數を考慮して編纂せり。

一、本書は、自然地理總説、地方誌、人事約説の三編に分ち、更にこれを多くの章項に分ちて記述せり。自然地理總説編にては、わが國の自然地理を概論し、地方誌編にては、地勢に従ひて全國を數地方に分ち、まづその地方の自然に關する要領を述べ、次に行政上の區劃に従ひて記述し、最後に人事約説編にて、全體を總括せり。

一、本書には成るべく数字の記載を避け、かつ數量に關することは大體に止めぬ。

明治三十五年

著者しるす

地理教本 (日本編)

目次

第一編 自然地理總説 ..... 一頁

第一章 境域 ..... 一頁

(一) 位置。 (二) 廣袤。

第二章 地勢 ..... 二頁

(一) 海岸。 (二) 地形。 (三) 山系。  
(四) 水系。

第三章 氣候 ..... 六頁

(一) 温度。 (二) 風雨。

第四章 産物……………二〇—二

第二編 地方誌……………三—三

第一章 區劃……………三—六

(甲)舊區劃表。(乙)現今の區劃表。

第二章 關東地方……………六—六

(一)總說。(二)東京府。(三)神奈川縣。

(四)千葉縣。(五)埼玉縣。(六)茨城縣。

(七)栃木縣。(八)群馬縣。

第三章 東北地方……………六—六

(一)總說。(二)福島縣。(三)宮城縣。

(四)岩手縣。(五)青森縣。(六)秋田縣。

(七)山形縣。

第四章 北國地方……………六—六

(一)總說。(二)新潟縣。(三)富山縣。

(四)石川縣。(五)福井縣。

第五章 東海地方……………六—六

(一)總說。(二)靜岡縣。(三)愛知縣。

(四)三重縣。(五)岐阜縣。(六)長野縣。

(七)山梨縣。

第六章 近畿地方……………六—六

(一)總說。(二)京都府。(三)滋賀縣。

(四)奈良縣。(五)大阪府。(六)和歌山縣。

第七章 中國地方……………六—六

- (一) 總說。
- (二) 兵庫縣。
- (三) 岡山縣。
- (四) 廣島縣。
- (五) 山口縣。
- (六) 島根縣。
- (七) 鳥取縣。

第八章 四國……………六—一〇

- (一) 總說。
- (二) 香川縣。
- (三) 愛媛縣。
- (四) 高知縣。
- (五) 德島縣。

第九章 九州及沖繩……………六—一〇

- (一) 總說。
- (二) 福岡縣。
- (三) 佐賀縣。
- (四) 長崎縣。
- (五) 熊本縣。
- (六) 鹿兒島縣。
- (七) 宮崎縣。
- (八) 大分縣。
- (九) 沖繩縣。

第十章 北海道……………三〇—三三

- (一) 總說。
- (二) 北海道廳。

第十一章 臺灣……………三三—三三

- (一) 總說。
- (二) 臺灣總督府。

第三編 人事約說……………三三—三三

第一章 住民……………三三—三三

- (一) 種族。
- (二) 人口。
- (三) 教育。
- (四) 宗教。

第二章 政治……………三三—三三

- (一) 國體および政體。
- (二) 兵備。
- (三) 外交。
- (四) 財政。

第三章 生業

- (一) 農業。
- (二) 水産業。
- (三) 森林業。
- (四) 鑛業。
- (五) 工業。
- (六) 商業。

111—110

第四章 交通

- (一) 道路。
- (二) 鐵道。
- (三) 航路。
- (四) 郵便。
- (五) 電信電話。

111—110

目次終

地理教本 (日本編)

理學士 瀧本 燈三

槇山 榮次 共著

第一編

自然地理總說

第一章 境域

位置

わが國の  
好位置

(一) 位置 わが國は、四面みな海に圍まれ、北にオホク海、西に日本海、東海などありて、アジア大陸のシベリア、シベリア韓、清などとあひ對す。東と南とは太平洋にむかひ、東をさして遙に海を渡らば、北アメリカ合衆國に至り得べく、また南に進まば、南洋諸島よりオーストラリアに至り得べし。かくわが國は

東西南北いづれに向ひても、交通便利なる良き位置を占むる國なり。

廣袤

(二)廣袤 わが日本は、大小多くの島より成り、その大なるものは、北海道・本州・四國・九州・臺灣の五にて、その外に、五千餘の小島あり。東北より西南に連りて、長さ一千二百餘里、面積二萬七千餘方里あり。

海岸

第二章 地勢

(一)海岸 わが國の形は、細長く、かつ大小の島々多ければ、海岸線の長さは、世界各國の及ばざることにて、實に七千五百里に近し、從ひて海岸の出入多く、港灣に富み、交通甚だ便

海流

利なれば、商工業の利はいふまでもなく、諸方より智識を導き入れて、大いに國家の文明を助く。概してわが國の南方および西方には、殊に良港多く、四季つねに船舶出入すれども、東岸と日本海岸とには良港少なく、冬の間は風波荒し。

黒潮

わが國の近海に、寒暖の海流あり。暖流は、南方の熱帶地方より來り、臺灣・琉球を経て、九州の南にて二派に分れ、その本派を黒潮といひ、九州・四國および本州の南岸を洗ふ。支派を對馬海流といひ、對馬海峽より日本海に入り、山陰・北陸・羽州および北海道の西海岸を洗ふ。

對馬海流

親潮

寒流は、北方オクシ海より來り、千島群島・北海道より、本州の東岸を洗ひ、黒潮とあひ衝突して消ゆ。これを親潮といふ。

樺太海流  
リマン海流

の外に、樺太海流とリマン海流とあり。海流は、大いに氣候に關係し、また航海者の知り置くべきものなり。

地形

(二) 地形 わが國は、三連の弓形をなし、その内側はアジア大陸に面し、外側は太平洋に面す。内地には山嶽多く、平地少なし。平地のやや大いなるものは、石狩平野、十勝平野、奥州平野、關東平野、濃尾平野、畿内平野、越後平野、筑後平野、臺灣の西部平野等なり。

平野

山系

(三) 山系 内地には、山多くて種々の方向に連れども、その筋をたづぬるときは、カラフト山系とコンロン山系との二大山系より成り、更に多くの山脈を分出す。この二大山系は、飛騨・信濃の地方にて結び合ふゆゑ、この地方には、最も高峻

カラフト山系

コンロン山系

新高山脈

火山脈  
富士火山脈

なる山嶽あり。

カラフト山系とは、カラフト島より來りて、蝦夷山脈となり、本州に入りて、北上山脈、阿武隈山脈、中央山脈、出羽山脈、關東山脈などとなり、その間に多くの高峯聳ゆ。コンロン山系は、遠く支那より來るものにて、二派となり、一は九州北部山脈より中國山脈となり、更に東に走りて濃飛高原を起し、飛騨山脈、木曾山脈に連る。他の一は、九州南部山脈より、四國山脈、紀伊山脈となり、更に海を越えて赤石山脈となり、本州の中部に達す。また臺灣には、新高山脈ありて、新高山その最高峯なり。

右の外に、火山脈あり。富士火山脈は、豆南諸島より來り、伊豆半島を貫き本州を横斷し、富士山、淺間山などの大火山を噴





### 本邦巨流比較圖

1	石狩川	167里	北
2	信濃川	100	本
3	北上川	79	本
4	阿武隈川	77	本
5	天塩川	74	北
6	利根川	71	本
7	最上川	62	本
8	天竜川	60	本
9	利根川	58	本
10	阿賀ノ川	57	本
11	十勝川	53	北
12	神通川	52	本
13	江ノ川	50	本
14	紀ノ川	47	本
15	木曾川	46	本
16	川内川	46	九
17	吉野川	41	四
18	筑後川	35	九
19	球摩川	24	九
20	淀川	20	本

湖常陸の霞浦岩代の猪苗代湖出雲の中海峽湖羽後の八郎潟陸奥の小河源沼下總の印旛沼などは大なり。

### 第三章 氣候

溫度

(一) 溫度 わが國の大部分は、寒暖宜しきを得たれども、南北に細長き國なれば、南方の臺灣は暑さ強く、北方の北海道は寒さきびし。されど、人の生活し難さほどにあらず。またわが國は島國なれば、寒地にてても、温暖なる海流を受くる地方は、清韓などの同緯度の大陸地方にくらぶれば、頗る暖かなり。

風雨  
風の方向  
夏季  
冬季

(二) 風雨 わが國は、西北に大陸を受け、東南に大洋あるゆゑ、風の方向は、多くこの二つのものによりて定まる。即ち夏季には、太平洋より南風もしくは東南風吹き來り、冬季には、アジア大陸より北風または西北風吹き來る。また夏と秋と

颶風

の間には、恐しき颶風の吹き來ることあり、航海者は、心をい

雨量

わが國の雨量は、厄日として最もこれをおそる。殊に九州・四國・紀伊一帯の太平

洋岸・越前・加賀・能登などの日本海岸および臺灣の西北海岸

は、最も多雨なり。また太平洋岸の各地は、夏季に雨量多く、日

梅雨

本海岸の各地は、冬季に雨量多し。また六月頃には、各地とも、

霖雨

陰雨うち續きて、梅雨または五月雨と稱し、十月頃にも、降雨

連日に及ぶ、これを霖雨と稱す。

### 第四章 産物

わが國は、氣候良く、雨量多く、土地肥えたれば、農林の産物に

農業

富み、また四方みな海洋なるがゆゑに、海産物も多し。

農業を營むもの頗る多く、米・麥・豆類・粟・稗・蕎麥・甘藷・綿麻・烟草

藍・茶などを産出し、養蠶の業は、年々に盛んに赴く。森林より

天産物

は、松・杉・檜・樅・檜・樺などの良材を出だし、果樹には、桃・柿・李・林

檎・蜜柑などあり、また臺灣・小笠原島等には、樟・榕樹・椰子・芭蕉

鳳梨などの熱帯植物繁茂す。

陸上動物

陸上動物にては、熊・猪・猿・狐・狸・兔など山野に住み、牛・馬は人に

飼はれ、水牛は臺灣に産し、また林間には諸種の鳥類囀る。水

水産物

産物にては、鯡・鱈・鯉・鮪・鯖・鮭・鱒・鯛・比目・魚・烏賊および鯨・獵・虎・膾

礦物

肭・鱒など多く、礦物にも種類多けれども、石炭・銅は産額最も

多く、その他、金・銀・鐵・硫黃・陶土・石油などを出だす。

### 第二編 地方誌

#### 第一章 區劃

舊區劃 畿内八道	現今の區劃 北海道廳 府 臺灣總督府 府縣
-------------	-----------------------------------

わが國の分ち方は、もと畿内八道八十五國に分ち、京都に近き國々を合せて畿内と稱し、これを中心とし、その東北に、東海・東山・北陸・北海の四道あり、西南に、山陰・山陽・南海・西海の四道ありて、臺灣はこの外なり。また、別に古より中山道・關東・關西・奥羽・中國・鎮西などの名稱もありき。

然るに、現今は、政治を行ふ便宜より、右の分ち方によらず、北海道に道廳、臺灣に總督府を置き、その外の地方に、三府四十三縣を置きて、各地を分ち治めしむ。

#### 舊區劃表

##### (甲) 舊區劃表

(一) 畿内 (五國)	山城 大和 河内 和泉 攝津
(二) 東海道 (十五國)	伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江 駿河 甲斐 伊豆 相模 武藏 安房 上總 下總 常陸 信濃 上野 下野
(三) 東山道 (十三國)	近江 美濃 飛騨 信濃 上野 下野 磐城 岩代 陸前 陸中 陸奥 羽前
(四) 北陸道 (七國)	若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 佐渡 越前 加賀 能登 越中 越後
(五) 山陰道 (八國)	丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲 石見 隱岐 備前 備中 備後 安藝
(六) 山陽道 (八國)	播磨 美作 備前 備中 備後 安藝 周防 長門

現今の區劃表

(乙) 現今の區劃表

本	地方		府	縣	管	轄	區	域
	方	地						
關東	東	關	東京府	武藏の内、一市八郡、伊豆の内、伊豆七島、小笠原島				
東海	東	海	神奈川府	相模、八郡、武藏の内、一市三郡				
北陸	北	陸	千葉縣	安房、一郡、上總、五郡、下總の内、六郡				
東山陽	東	山陽	埼玉縣	武藏の内、九郡				
關西	關	西	茨城縣	常陸、一市十二郡、下總の内、三郡				
北陸	北	陸	栃木縣	下野、一市八郡				
東海	東	海	群馬縣	上野、二市十一郡				

- (七) 南海道六國
  - 紀伊
  - 淡路
  - 阿波
  - 讃岐
  - 伊豫
  - 土佐
- (八) 西海道十二國
  - 筑前
  - 筑後
  - 豐前
  - 豐後
  - 肥前
  - 肥後
- (九) 北海道十一國
  - 日高
  - 十勝
  - 釧路
  - 根室
  - 千島
  - 渡島
  - 後志
  - 石狩
  - 天鹽
  - 北見
  - 膽振

東 北 東					北 國 地 方				東 海 地 方					
彌	宮	岩	清	秋	山	新	富	石	彌	瀨	愛	三	岐	長
島	城	手	森	田	形	海	山	川	井	岡	知	重	阜	野
縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣
岩代、一市十郡、磐城の内、七郡	陸前の内、一市十三郡、磐城の内、三郡	陸奥の内、一郡、陸中の内、一市十一郡、陸奥の内、一郡	陸奥の内、二市八郡	羽後の内、一市八郡、陸中の内、一郡	羽前、二市十郡、羽後の内、一郡	越後、一市十五郡、佐渡、一郡	越中、二市八郡	加賀、一市四郡、能登、四郡	越前、一市八郡、若狹、三郡	駿河、一市五郡、遠江、六郡、伊豆、二郡	尾張、一市九郡、三河、十郡	伊賀、二郡、伊勢、二市十郡、志摩、一郡、紀伊の内、二郡	美濃、一市十五郡、飛騨、三郡	信濃、二市十六郡

國	州													
	方地國中					方地畿近								
高知縣	愛媛縣	香川縣	鳥取縣	島根縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	兵庫縣	和歌山縣	奈良縣	滋賀縣	京都府	山梨縣	
土佐、一市七郡	伊豫、一市十二郡	讃岐、二市十二郡	因幡、一市三郡、伯耆、三郡	出雲、一市六郡、石見、六郡、隱岐、四郡	周防、六郡、長門、一市五郡	備後、一市十四郡、安藝、一市八郡	備前、一市八郡、備中、十一郡	攝津の内、一市三郡、丹波の内、二郡、播磨、一市十三郡、但馬、五郡、淡路、二郡	美作、十三郡、備前、一市八郡、備中、十一郡	紀伊の内、一市七郡	攝津の内、一市四郡、河内、三郡、和泉、一市二郡	大和、一市十郡	山城、一市八郡、丹波の内、五郡、丹後、五郡	甲斐、一市九郡

臺灣	北海道	九州									
		沖繩縣	大分縣	宮崎縣	鹿兒島縣	熊本縣	長崎縣	佐賀縣	福岡縣		
臺灣總督府	北海道廳	琉球諸島	豊後、十郡、豊前の内、二郡	日向、八郡	薩摩、一市七郡、大隅、五郡	肥後、一市十二郡	肥前の内、一市六郡、壹岐、一郡、對馬、二郡	肥前の内、一市八郡	四郡	筑前、一市九郡、筑後、一市六郡、豊前の内、二市、四郡	阿波、一市十郡

現今の區劃は、以上の如くなれば、地方誌を本州・四國・九州・および沖繩・北海道・臺灣の五地方に大別し、更に本州は最も廣き地方なれば、關東・東北・北國・東海・近畿・中國の六地方に分ち

て記述すべし。

第二章 關東地方

東京府 神奈川縣 千葉縣 埼玉縣  
茨城縣 栃木縣 群馬縣

要説

關東平野

(一) 總説 關東地方は、西北に山嶽を負ひ、東南は太平洋に面し、その間の地方は、わが國にて最も廣き關東平野なり。古

武藏野は  
月の入る  
べき山も  
なし草よ  
り出でて  
草にこそ  
入れ

は武藏野と稱せられ、見渡す限り草野なり。多くの河流、この平野を流れ、土地肥え、物産豊かに、氣候良く、漁獵の利も多し、帝都は實にこの地方にあり。

海岸

河流

安房・上總下總は、三面海を受けたるゆる房總半島と稱し、相模の三浦半島と、東京灣を抱く、房總半島より、常陸一帯の太平洋岸は砂濱にて、中央に犬吠岬あり、河流には、利根川、荒川、

東京府

東京市

略史

十五區の  
概況

那賀川などありて、いづれも運輸の便、灌漑の利あり。

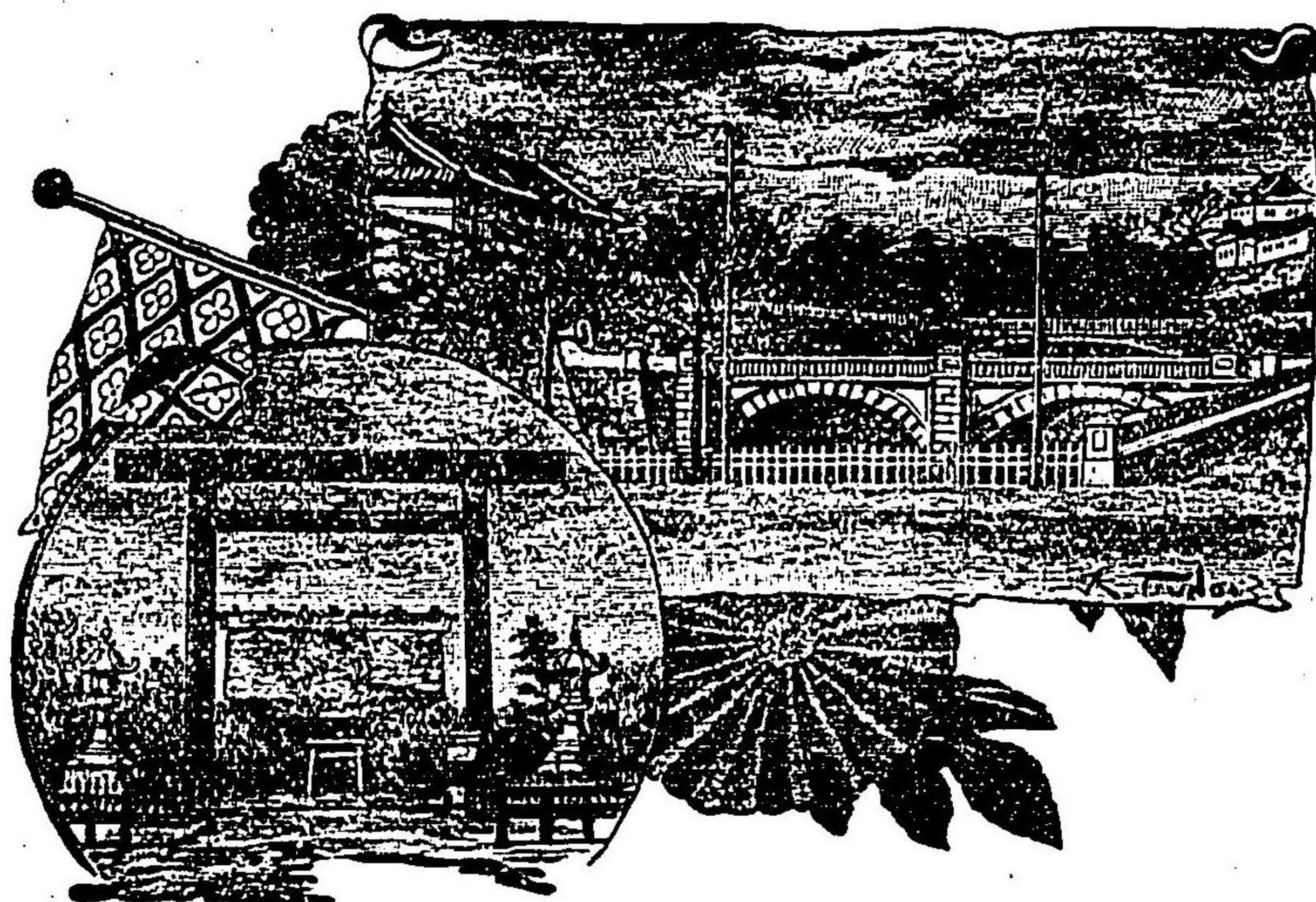
(二) 東京府 管内は、わが國の最も重要なる所にて、帝國の首府、東京市はここにあり。

東京市は、東京灣に臨み、もと江戸と稱せり。今よりおよそ四百五十年前に、太田道灌、この地を拓きて城を築き、その後、徳川家康、幕府を開くに及び、大いに繁榮に赴き、今はわが帝國の首府にて、人口百五十萬あり、世界大都の一なり。

市内を十五區に分ち、宮城は中央にあり、諸官省、近衛師團第一師團、帝國議會、東京府廳など、その周圍にあり、戦死者を祀れる靖國神社は、麴町區にあり。京橋、日本橋、神田の三區は、商業最も盛んにて、深川、本所の二區には製造所多し。本郷區には、東京帝國大學、第一高等學校、男女の高等師範學校などあり。

遊覽の場

水道

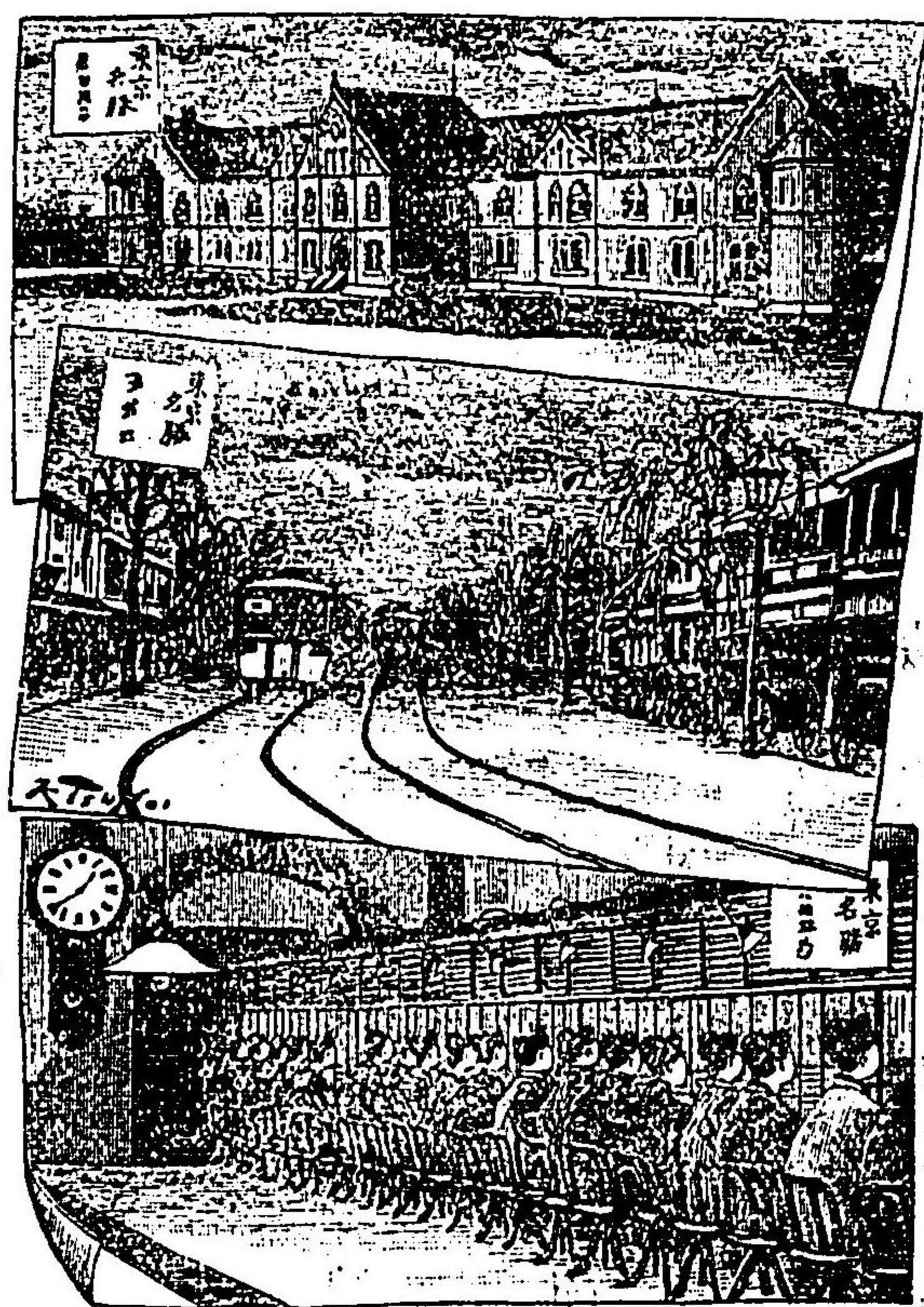


二重橋 靖國神社

り。その他各區に、公私の學  
校甚だ多く、博物館・圖書館・  
動物園・植物園等もありて、  
學問教育盛んなり。  
遊覽の場所も、各所にあり。  
上野・淺草・芝の三公園は、最  
も有名なり。また隅田川の  
左岸を向島といひ、櫻の名  
所なり。多摩川は、秩父山よ  
り發源し、その水甚だ清き  
ゆゑ、水道にて上水を引き  
來り、市内の飲料水とす、海

交通

岸より海苔  
を産するこ  
と多し。  
市内には、鐵  
道馬車、絶え  
ず往來し、上  
野・新橋・飯田  
町・本所に停  
車場ありて、



帝國大學 銀坐通 電話交換局

各地方に通ずる汽車發著し、隅田川には汽船往來す。また當  
市を中心として、諸國に赴くべき道路には、東海道・甲州街道・  
中山道・奥州街道・水戸街道・下總街道などあり。



王子、品川

八王子

青梅

伊豆七島



小笠原島物産

東京の北に、王子、千住あり、南に品川ありて、いづれも東京より市街つづきなり。甲武鐵道驛の八王子は養蠶盛んにて、織物を出だすこと多し。その西北、多摩川の上流に、青梅ありて、綿の産地なり。

伊豆七島とは、伊豆の南方海中に列る、大島、利島、新島、神津島、三宅島、御倉島、八丈島の總稱なり。大島は最も

小笠原島は、群島は、文中の發見にかか

神奈川縣

横濱市

大きく、島中に三原山聳え、常に烟を噴く、昔、源為朝の流されしところなり。八丈島よりは、八丈絹を産す。

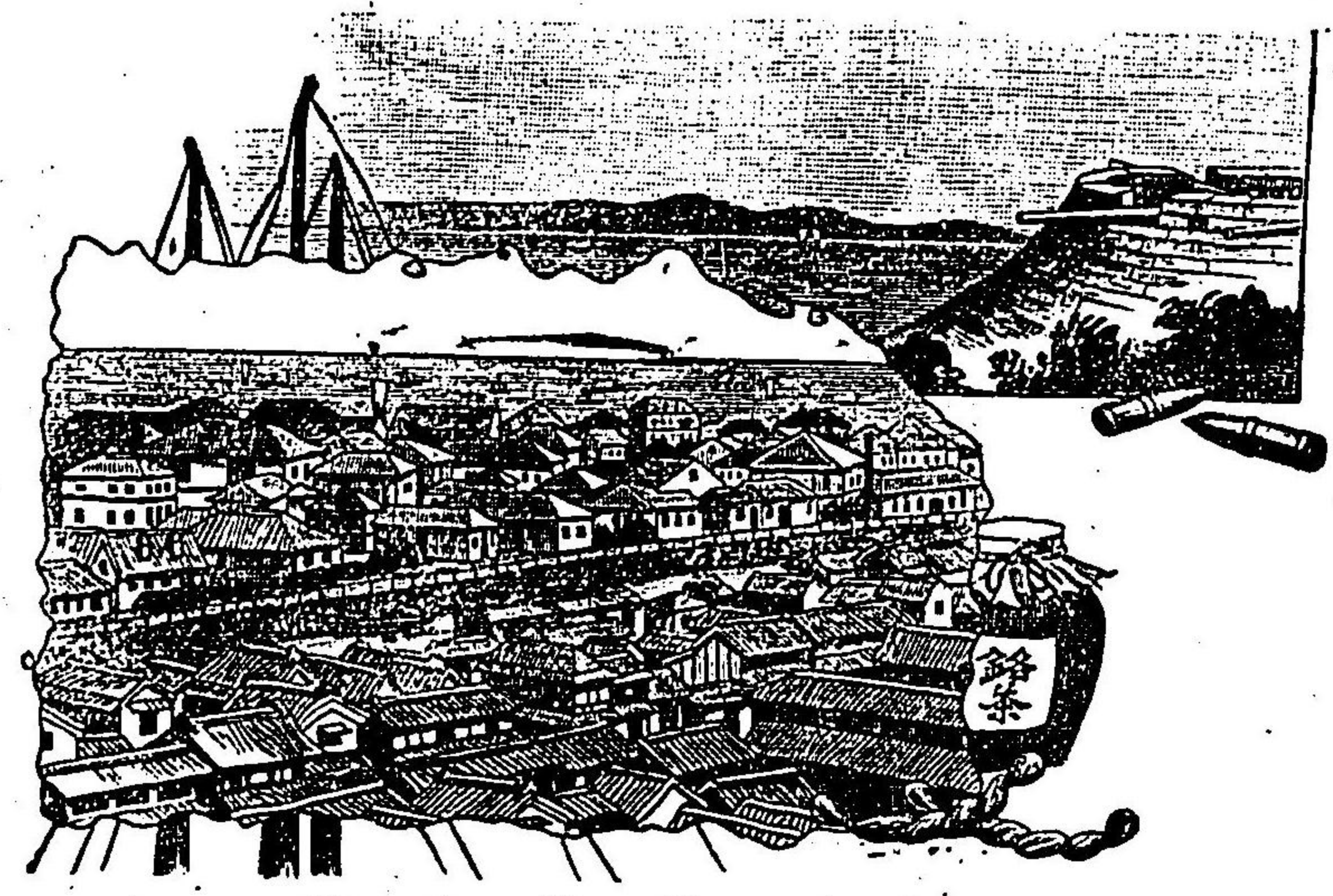
八丈島より東南、およそ百八十里に、小笠原島あり、昔、小笠原貞頼の發見せしものにて、大小九十餘島あり。これを父島、母島、聳島の三群島に分つ。椰子樹、鳳梨、甘蔗、珈琲などよく生育し、海よりは、鱧、鯨、鱈などを産す。その西南に、硫黄島あり、以上伊豆七島、小笠原島、硫黄島を總稱して、豆南諸島といふ。

(三) 神奈川縣 新橋停車場より、東海道鐵道にて、西南に進むこと、およそ一時間にて、横濱市に達すべし。横濱市には、神奈川縣廳あり、ここはもとさびしき漁村なりしに、今より四十餘年前に、開港場となりしより、内外の船舶輻湊し、貿易甚だ盛んになり、今は人口二十五萬の大都會となれり。船舶の

航路は、内國の諸港のみならず、東はアメリカ、西は神戸・長崎を経て、韓・清・ウラヂボストクおよびヨーロッパ等の諸國に至り、南は大洋洲の諸島に至る。

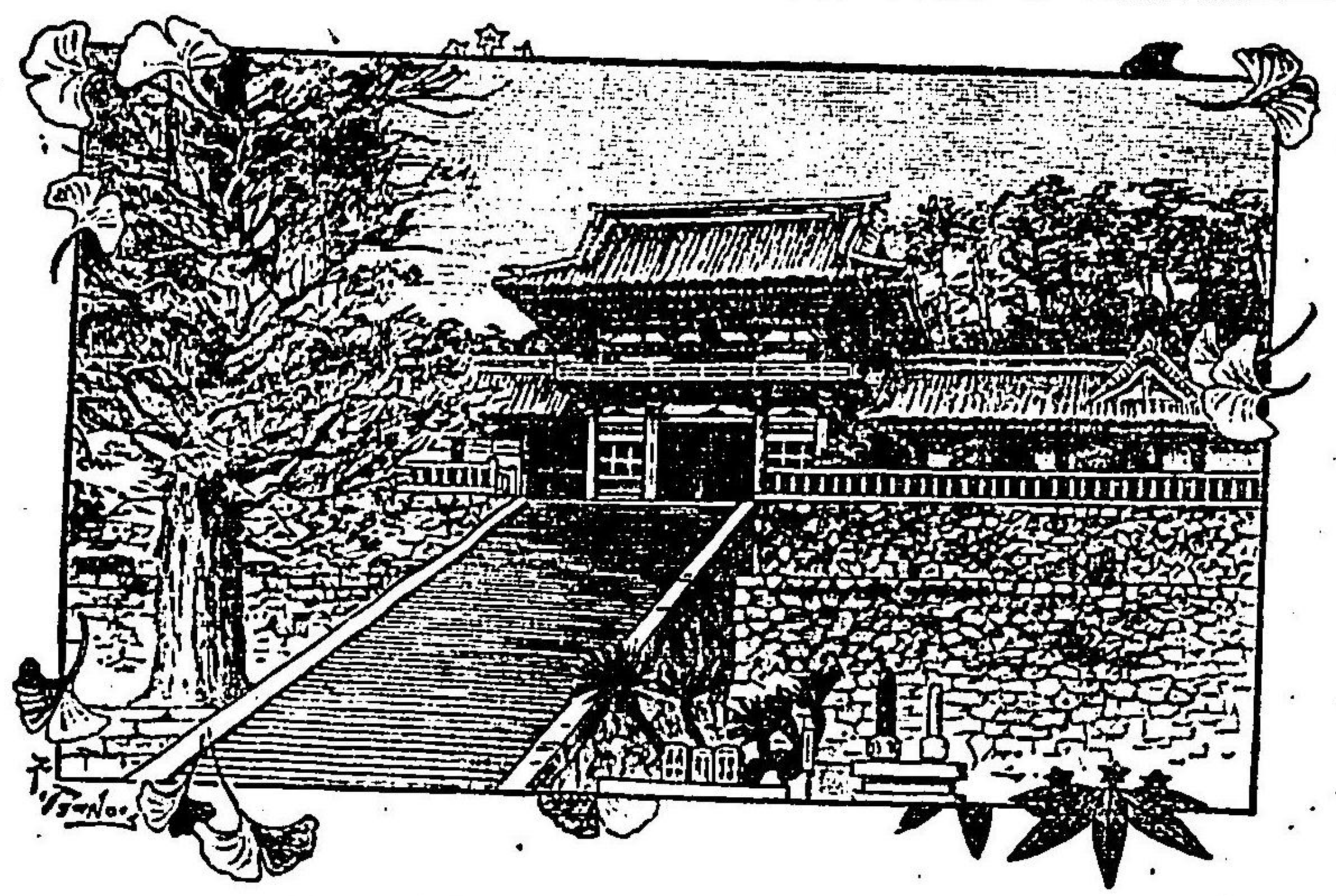
杉田 金澤 鎌倉

横濱より海岸に沿ひて南に進めば、杉田の梅林を過ぎて、金澤あり。ここは、昔、金澤文庫のありし地なり。また横濱より東海道鐵道にて進み、大船より、三浦半島に向へば、鎌倉



砲臺と横濱市街

横須賀 浦賀 久里濱



鶴ヶ岡八幡宮

に至る。ここは源頼朝の幕府を開きし地にて、名高く、名所舊跡・神社佛閣の今に遺れるもの多し。なほ汽車便にて東に進めば、横須賀に至る。この地には、第一海軍鎮守府を置かれ、大造船所あり。その東南に浦賀あり、近傍の久里濱は、嘉永年間、北米合衆國の使節ペルリの上陸せし地なるゆゑ、近時その紀念碑を建てたり。

江戸島

大磯

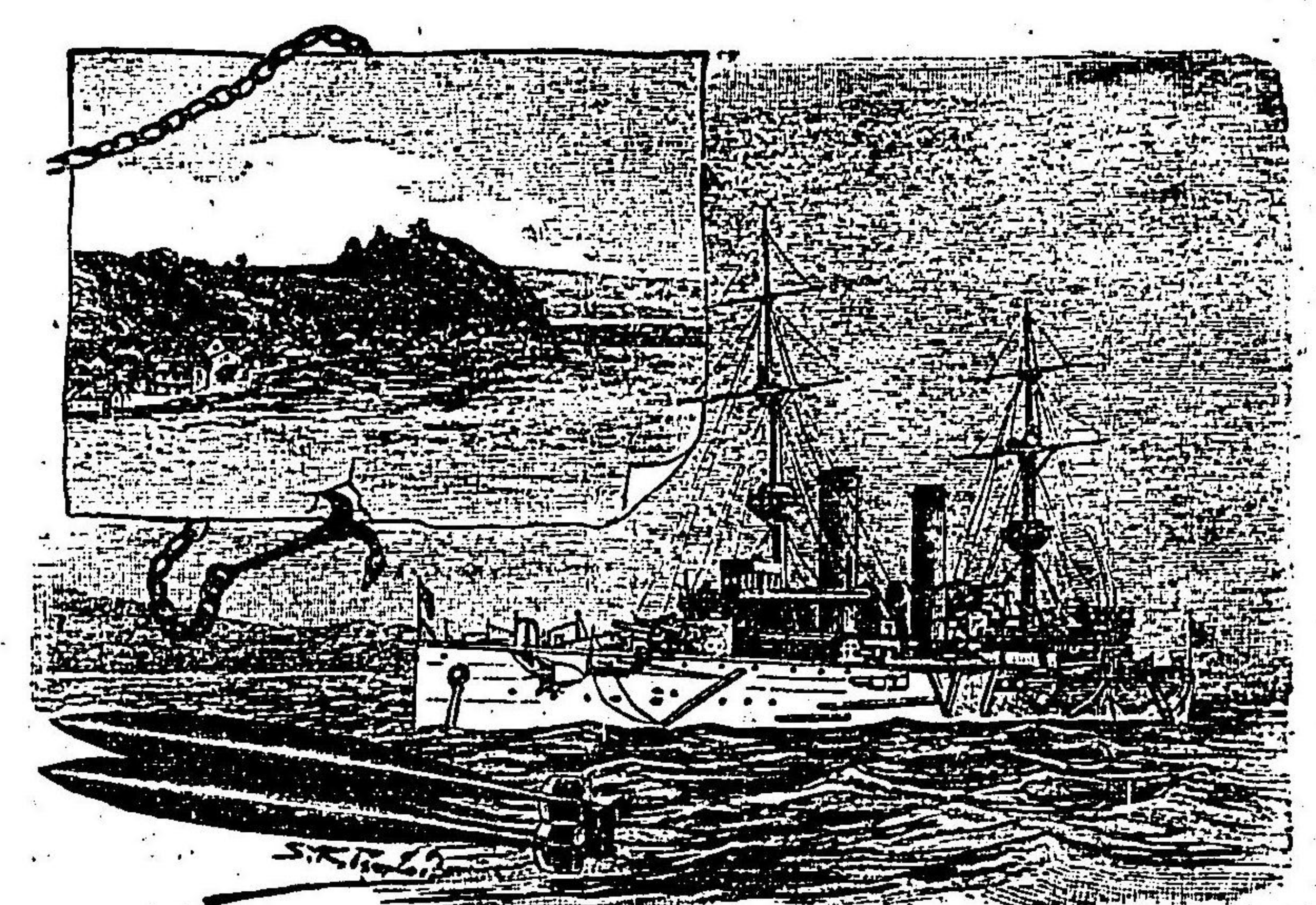
箱根山

小田原

千葉縣

鎌倉の西に江戸島あり。その西方の大磯は海水浴にて有名なり。箱根山は古來有名なる難所なりしが、今はその麓にトンネルを穿ち、汽車にて通行することを得。山中に温泉多く、また蘆湖あり。山の東麓には小田原あり。昔北條氏の據りし地なり。

(四) 千葉縣 本所より、總武鐵道にておよそ一時間



横須賀港

江戸川

船橋、行徳

國府臺

流山

野田

餘、東方に進まば、江戸川を渡り、千葉町に至るべし。千葉縣廳はここにあり。沿道に船橋の名邑あり。鹽の産地なる行徳は江戸川の岸にあり。その北に國府臺の古戰場あり、またその北方に、味噌にて有名な流山、醬油にて有名な野田あり。また千葉より、鐵道にて東に進まば、佐倉炭の産



九十九里濱漁獵

佐倉、銚子

九十九里

成田

木更津

北條、館山、誕生寺

埼玉縣

浦和町

地なる佐倉を経て銚子に至り得べし。ここは銚子縮と醤油との名産を出だし、その東に犬吠岬突出す。この岬より西南の海岸を九十九里濱といひ、鱈、鯉、鮪などを漁すること多し。更に佐倉より東北に向ひて、成田鐵道あり、不動尊にて有名なる成田を経て佐原に至る。また千葉より東南に向ひて房總鐵道あり。

上總の西海岸に木更津ありて、東京より日々汽船の往來あり。安房の沿海は、魚類に富み、内地よりは石材、木材を産す。西方に北條、館山の名邑あり、東海岸の小湊には誕生寺あり、日蓮上人の生地といふ。

(五) 埼玉縣 上野停車場より、日本鐵道にて西北に進むこと、およそ四十分にて浦和町に達す。この地に埼玉縣廳あり。

大宮町

熊谷町

川越

秩父地方

茨城縣

石岡、土浦

縣内は田野開け、ただ西方の一部に秩父の山地あり。

浦和の北に大宮町あり、鐵道ここにて二線に分れ、東北に走るものは、日本鐵道の東北線にて、西北に走るものは、高崎線なり。熊谷町は、高崎線に沿ひ、商業地なり。

大宮の西方に川越あり。この近傍より織物を出すこと多く、また川越諸の名、遠近に高し。川越鐵道ありて、甲武鐵道に連り、東京に達す。秩父地方は、養蠶盛んに行はれ、生絲および秩父絹を産し、また木材、石材を出だす。

(六) 茨城縣 管内の北部には、山岳あれども、その他は平坦なり。日本鐵道の水戸線を進めば、利根川を渡りて本縣に入る。筑波山を左に望み、霞浦を右に眺め、土浦、石岡を経て、水戸市に至る。石岡は酒および醤油の産にて名高く、土浦は醤油

水戸市

の産地なり。  
水戸市には茨城縣廳あり、ここはもと徳川三家の一なる水

那賀川



戸家の城下に  
て、借樂園は、日  
本三公園の一  
と稱せらる。那  
珂川は市の北  
を過ぎて、那珂  
港より海に注  
ぐ。

勿來ノ關  
吹く風を  
勿來の關  
とおもへ

水戸より常磐線にて北に進めば、福島縣に入る。その界に勿  
來ノ關趾あり、源義家の詠歌にて著はる。また水戸より太田鐵

どもみち  
もせにち  
る山さく  
らかな  
太田結  
猿島  
古河

栃木縣

小山

野、水、佐

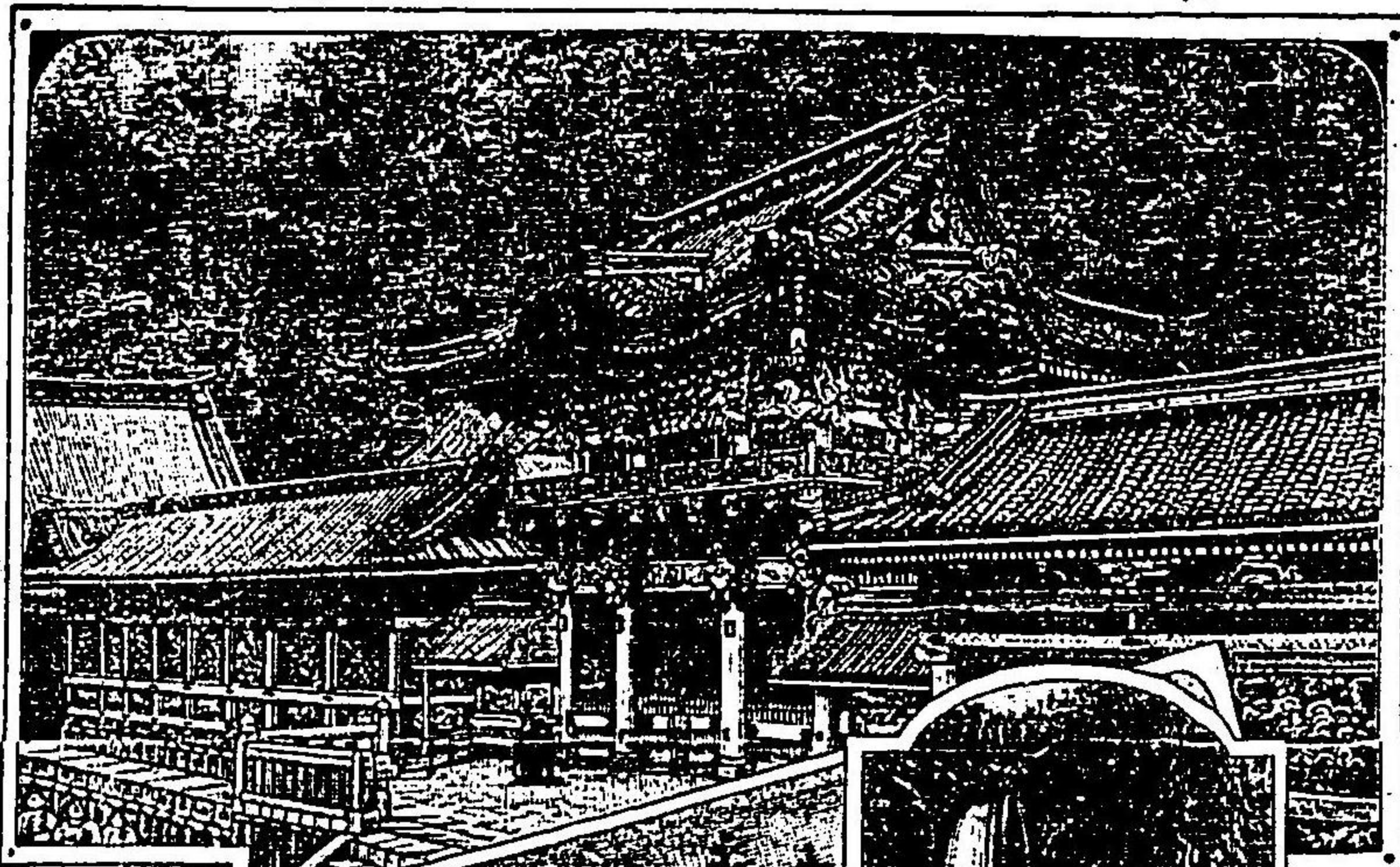
足利

宇都宮市

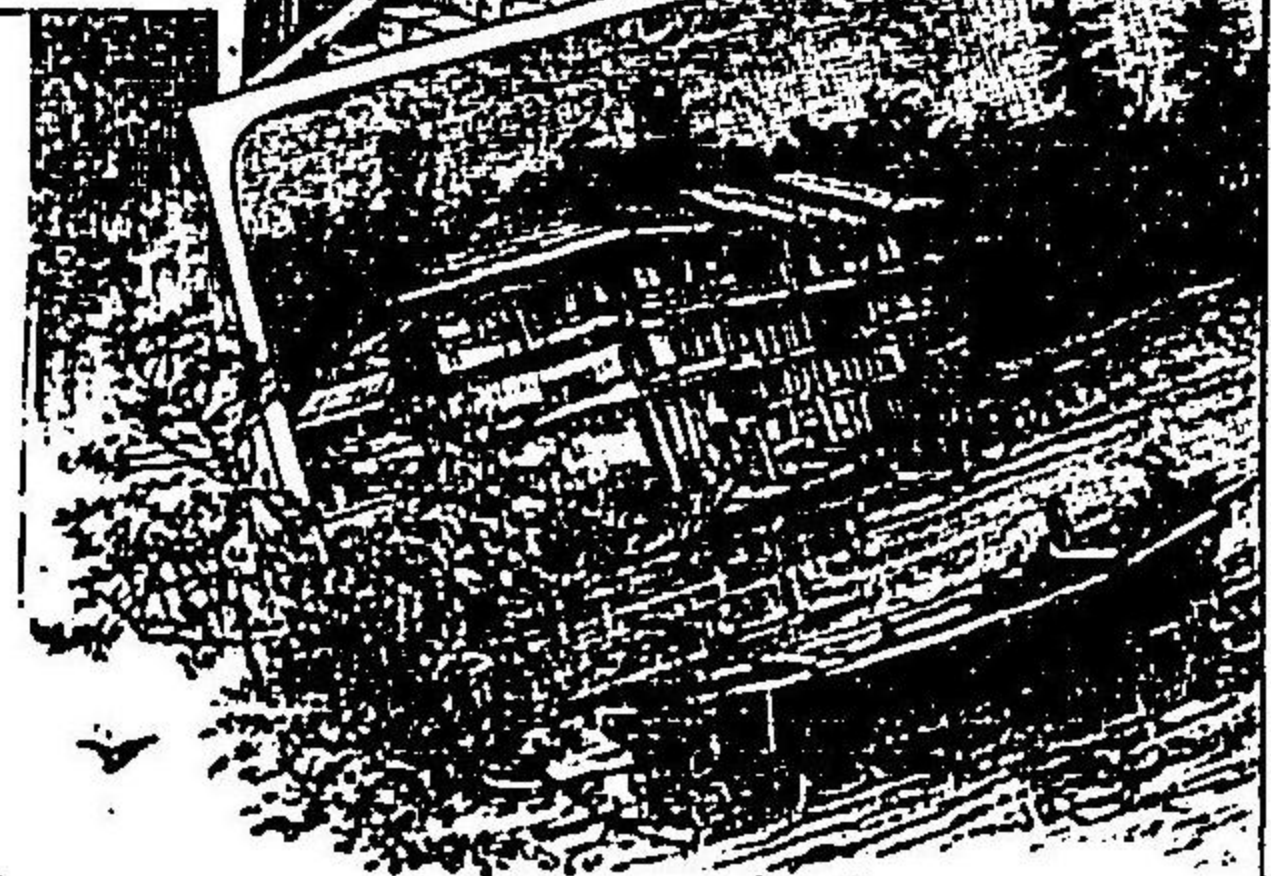
日光

道によりて太田町に至り、小山線にて西に進めば、結城町に  
至る。この近傍より結城紬を産す。結城の南、猿島地方に岩井  
あり、昔平將門の偽宮を造りし地なり。その西南に古河あり、  
足利幕府の中頃、古河御所のありし地にて、歴史上著名なり。  
(七) 栃木縣 東京より、日本鐵道の東北線によりて、下總の  
古河を過ぐれば、栃木縣に入り、暫時にて小山に達す。小山よ  
り東すれば、水戸に至り、西すれば、兩毛鐵道によりて、栃木、佐  
野、足利などの名邑を経て、群馬縣の前橋、高崎に達す。この線  
路の近傍は、蠶業盛んにて、足利絹最も名高し。また足利は、足  
利學校の舊蹟にて有名なり。  
小山より、更に東北線を進む時は、宇都宮市に達す、栃木縣廳  
の所在地なり。この地より日光鐵道ありて、日光に至る。日光

足尾銅山



華嚴瀧



陽明門

山には、東照宮ありて、その美麗比なし。山上に神禪寺湖あり、その水落ちて、中華嚴瀧となり、甚だ壯觀なり。寺なほ山中に、裏見瀧、龍頭瀧などあり。日光の西に足尾銅山

真岡

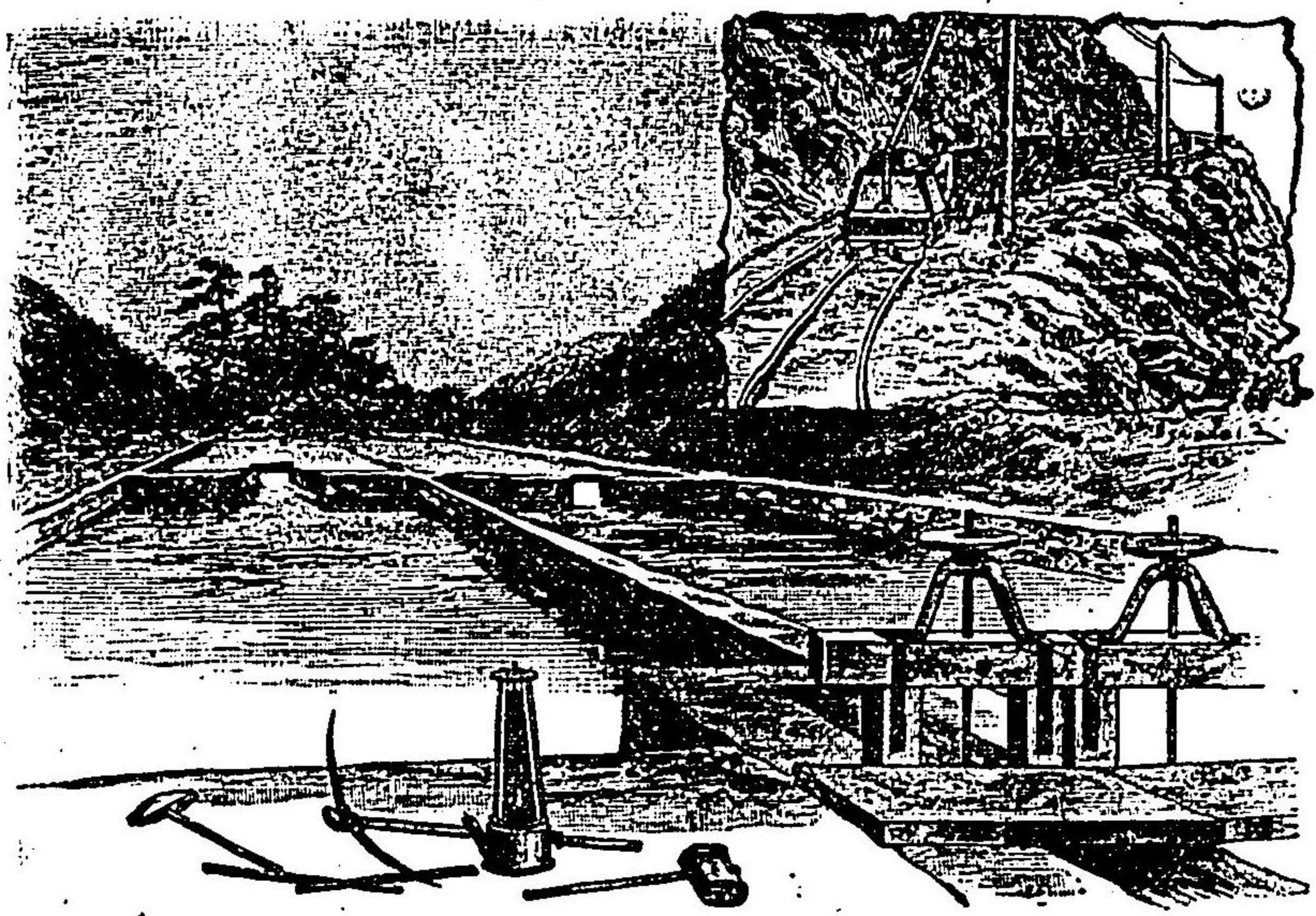
あり、わが國第一の銅產地なり。

宇都宮の東南に、真岡木綿の産地なる真岡町あり。更に宇都宮より東北線にて北方に進む時は、那須山の麓なる那須野原を過ぎて、福島縣に入る。

群馬縣

(八) 群馬縣 東京より

日本鐵道の高崎線にて、西北に進む時は、暫時に



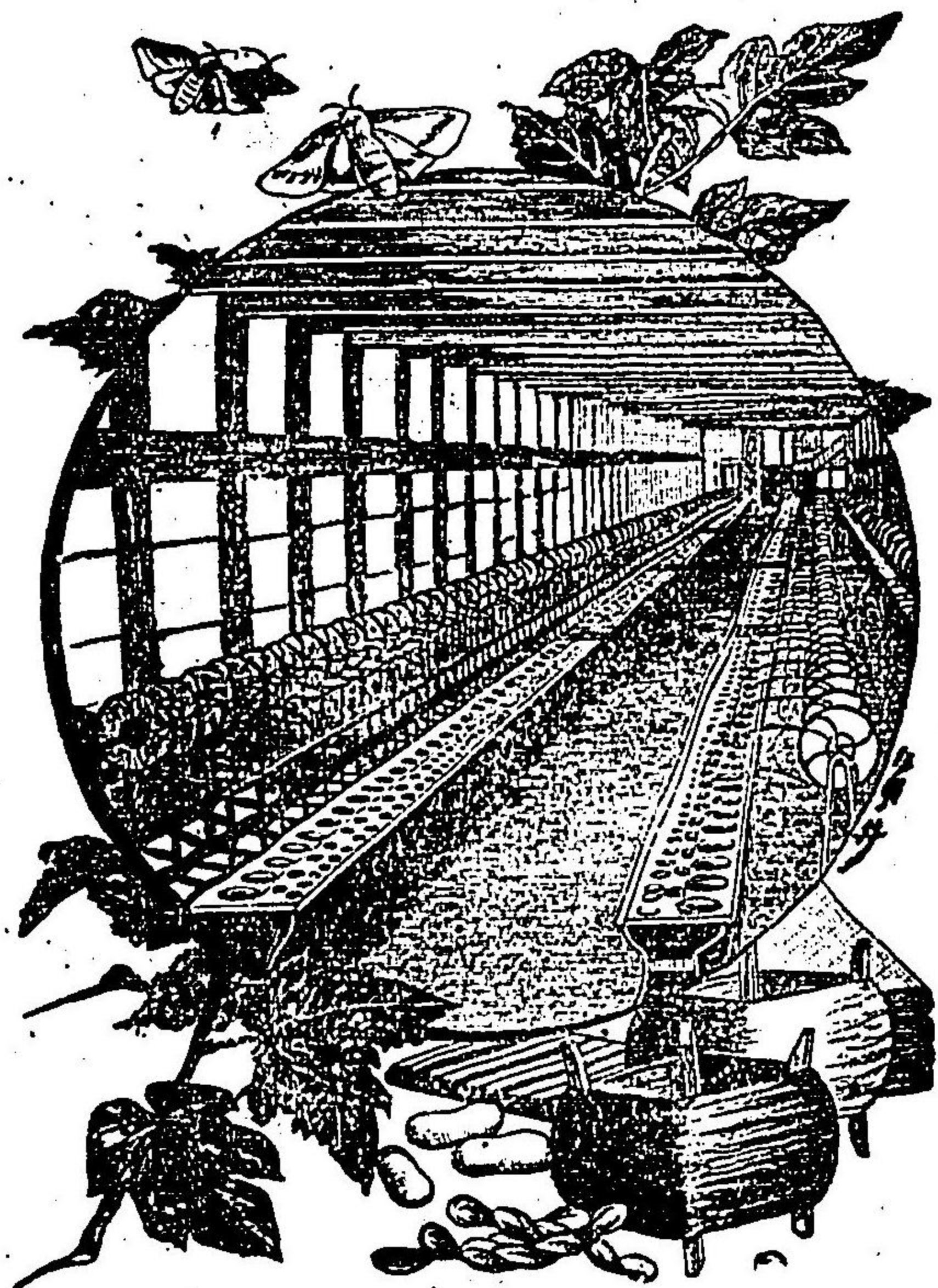
足尾銅山沈澱池

前橋市  
高崎市  
鐵道線

て高崎市および前橋市に達す。前橋市には群馬縣廳あり、高崎市は、鐵道四方に通じ、東北すれば、兩毛鐵道にて水戸に至り、東南すれば

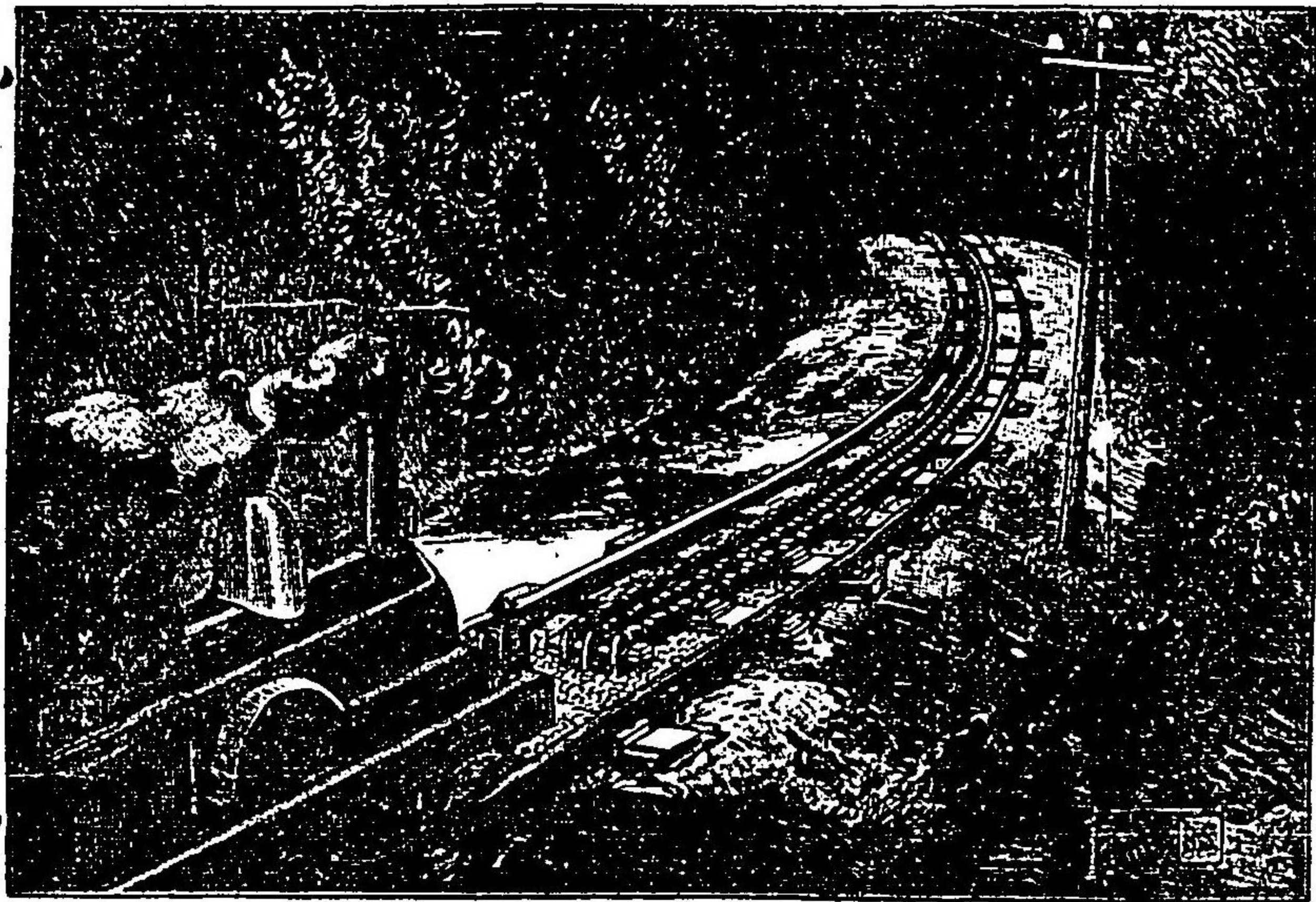
富岡

高崎線にて東京に至る。また西北すれば信越鐵道にて、碓氷信峠を経て、濃より越後に至り、西南すれば、上野鐵道にて富岡を経て、下仁田に至る。富岡には有名なる製絲場あり。



富岡製絲場

伊勢崎  
桐生



アプト式鐵道線路

縣内には山多く、有名な利根川は、本縣の北部に發源す。されど、東南部は平野沃土にて、養蠶製絲の業盛んなり。兩毛線に當る伊勢崎、桐生などを始めとして、この附近織物を出だすこと多く、生絲も各地より産出すること甚だ多し。高崎より、信越線を進む時は、右に棒名山を望み、

碓氷峠

上野の三山  
温泉

左に妙義山を望み、碓氷峠に入る。碓氷峠は、有名なる險坂にて、多くの隧道をうがち、アパート式によりて汽車を通ず。榛名山の東方に赤城山あり、妙義山を合せて上野の三山と稱す。温泉には伊香保、草津最も有名なり。

第三章 東北地方

福島縣 宮城縣 岩手縣  
青森縣 秋田縣 山形縣

總説

(一) 總説 東北地方とは、關東地方の東北一帯の地方を總

海岸

稱す。東西北の三面はみな海に臨む。海岸は概して出入少なけれども、陸前は松島灣を抱き、灣内に日本三景の一なる松島群島あり。その東北には牡鹿半島突出し、金華山。その東の海中にあり。陸中の海岸は、鋸齒の如くにて良港に乏し。

山脈

陸奥は、恰も凹字の形をなし、北方の東西に半島突出し、内に灣を抱く。東の半島を斗南半島といひ、西の半島を津輕半島といふ。また灣も東西に分れ、東を野邊地灣といひ、西を青森灣といひ、灣頭に各同名の港あり。羽後の海岸に、男鹿半島あり、その中に八郎潟を抱く。

河流

この地方は、中央山脈によりて、東西に分たる。その東部を奥州といひ、西部を羽州といふ。故にまた總稱して奥羽地方ともいふなり。奥州部には、また北上山脈、阿武隈山脈あり、羽州部にもまた出羽山脈あり。河流は、これらの山脈に沿ひて、南北に流るるもの多く、その流域地には平野あり。北上川、阿武隈川は、太平洋に注ぎ、能代川、御物川、最上川は、日本海に注ぐ。氣候は、概して寒冷なれども、平野よりは米麥を産すること

氣候



産物

多く、農業、牧畜、養蠶など盛んに行はる。また海よりは魚類、山よりは鑛物、木材を出だすこと多し。織物、漆器、陶器なども各地より産出す。

福島縣

(二) 福島縣 管内には、阿武隈川の流域地と、會津平との平地あれども、その他には山嶽重疊す。平野は肥沃にて米を産し、また養蠶、牧畜盛んなり。

名邑 都をば 都とも 都とも 都とも 都とも

吹く 秋風 吹く 秋風 吹く 秋風

日本鐵道の東北線にて、岩代に入れば、白河、郡山、二本松、福島などの名邑あり。白河町の近傍に、古の白河關趾あり。郡山より、岩越鐵道にて若松市に達す。若松市は、會津平の都會にて、會津塗、會津蠟燭を産し、近傍より會津焼を出す。北に先年破裂したる磐梯山あり、南方に猪苗代湖あり、湖水は西に流れ、越後の阿賀川となる。また磐梯山の東北には、安達太

福島

耶山、吾妻山などあり、いづれも火山質なり。また郡山の東北に三春ありて、馬の産地なり。

靈山

福島は、福島縣廳のある所にて、生絲、蠶卵紙などの市場なり。この近傍は養蠶ことに盛んなり。福島に北に半田、銀山あり、その東に靈山あり、麓に靈山神社あり、北畠顯家を祀る。また福島より鐵道西に分れて羽前に入る、これを奥羽線といひ、後には東北線と環連せしめむる豫定なり。

平、中村

常磐線は、太平洋の岸に沿ひて北行す。勿來關より本縣に入り、平、中村などを過ぐ。平の近傍より石炭を出だし、中村よりは相馬焼を産す。

宮城縣

(三) 宮城縣 本縣は、福島縣の北にあり。東は太平洋に臨み、西方には山嶽多けれども、阿武隈川北上川の流域には沃野

白石

仙臺市

連り、仙臺米の産あり。  
 日本鐵道の東北線は、白石  
 を經て岩沼に至り、常磐線  
 と會し、仙臺市に達す。仙臺  
 市は、奥羽第一の大都會に  
 て、宮城縣廳、第二師團、第二  
 高等學校などあり、仙臺平  
 埋木細工などを産す。市の  
 東北に、古の多賀城趾あり。  
 仙臺より北すれば、鐵道分  
 れて鹽釜町に至る。鹽釜は、  
 松島灣に臨み、漁船の集ま

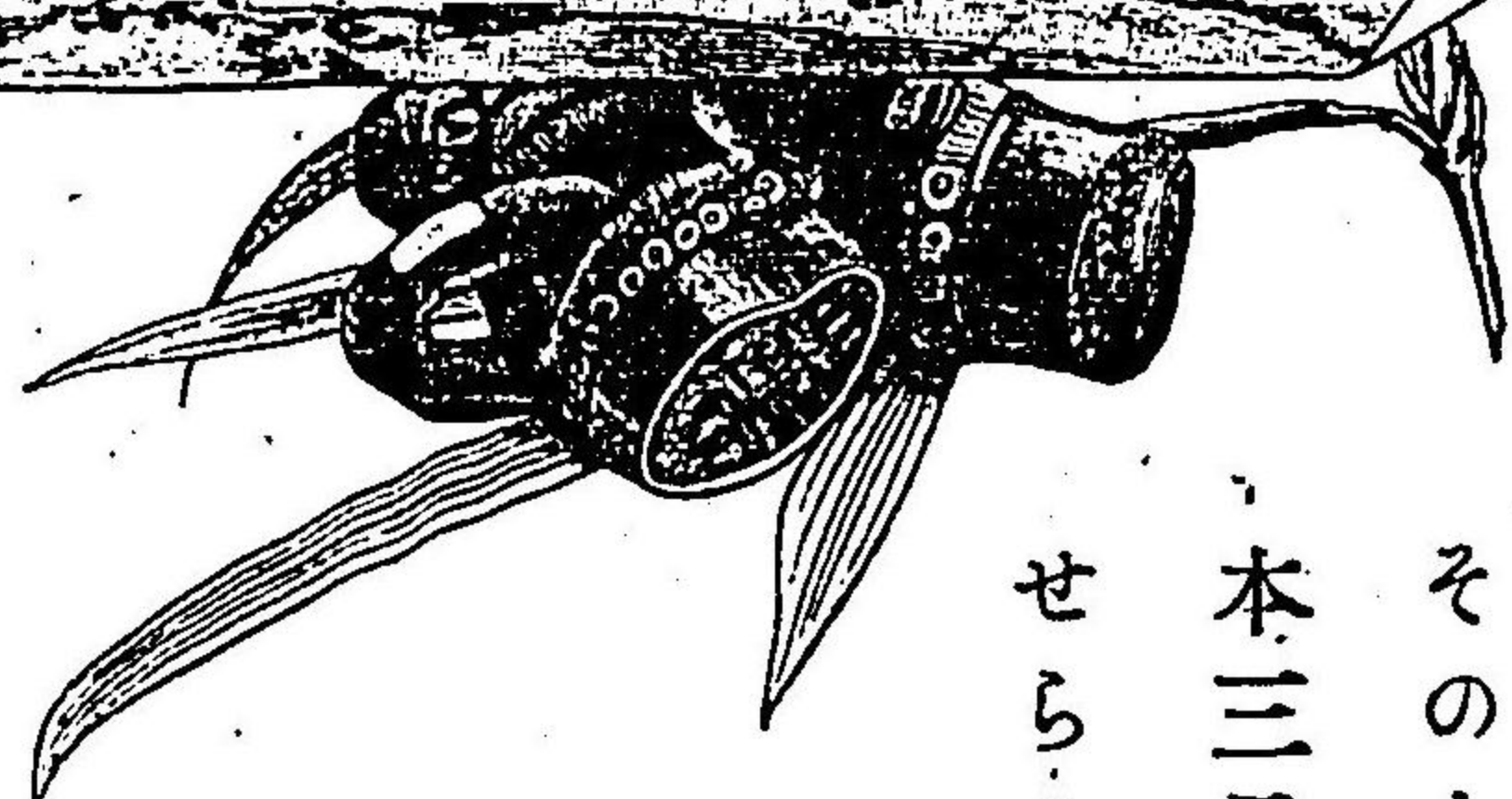
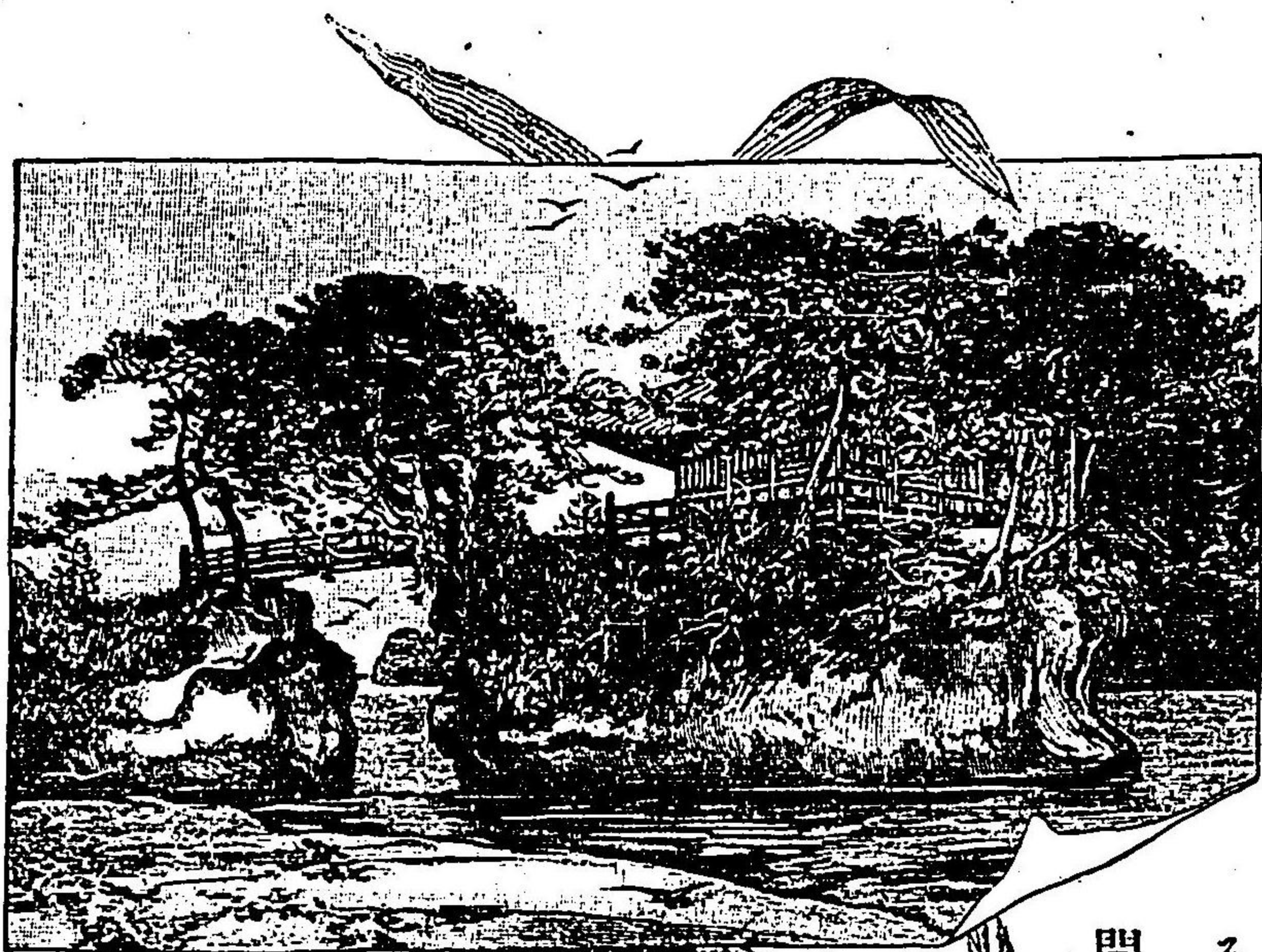


青葉城と仙臺市

松島

石ノ巻

萩ノ濱



船を泊し得べき良港なり。

松島全景

北上川の  
 口に石巻  
 港あり、そ  
 の東方の  
 萩濱は大

るところなり。松島は、數里の  
 間に數百の群島羅列し、青松  
 その上に茂生し、日  
 本三景の第一と稱  
 せらる。松島の東北

岩手縣

(四)岩手縣 本縣は、宮城縣の北にあり、東、太平洋海岸と、西、

中央山脈との間に、北上山脈はびこりて管内山嶽多けれども、北上川の流域には、平地多くして米を産出す。また南部馬は、本縣の特産にてその名、古今に高し。

宮城縣より、汽車にて來る時は、まづ一關を通過す。一關の北に衣川中尊寺など、この近邊には古蹟多し。なほ北する時は、盛岡市に達す。盛岡市には、岩手縣廳あり。細鐵瓶、下駄の表を産す。近傍に厨川の柵



南部牧場

一年ノ關をへみだし  
糸の苦ろし  
れのたろ  
ものたろ  
ははこけり  
びはこけり  
盛岡市

宮古港  
釜石

趾あり、南部富士の稱ある岩手山は、西北に聳ゆ。海岸の中央には宮古港あり。その南方に釜石ありて、鐵の産出多し。明治二十九年の大津波には、釜石の附近最も大害を蒙れり。

青森縣

(五)青森縣 盛岡より、鐵道

にてなほ北に走る時は、青森縣に入る。本州最北の地方なり。東北西の三方は海に面し、南境および管内に山多し。されど河流の沿岸には、平野ありて米を産し、海岸には漁業



青森市ノ雪景

八戸、湊  
野邊地、  
青森市

盛んなり。  
東北線は、尻内より支線を出し、八戸を経て湊に至る。本線は野邊地を経て青森市に達す。青森市は、青森灣に臨み、本縣廳の所在地にて、北海道の函館、室蘭との間に毎日定期航海ある港なり。

弘前市

岩木山、  
岩木川

日本鐵道の東北線は、青森にて終り、更に官有の奥羽線起り、西南に走りて弘前市を過ぎ、羽後に入る。弘前市は、岩木川の上流にありて、西北に岩木山、聳え、津輕富士の稱あり。岩木川の流域は、津輕平野にて、津輕米を産し、また弘前より津輕塗を出だし、この近傍より林檎を産す。岩木川の口に、十三瀉あり。

秋田縣

(六)秋田縣 西方の日本海と、東境の中央山脈との間には、

銅山  
能代港

出羽山脈わだかまる。されど能代川、御物川の流域には、平野ありて米を産すること多し。また山林は、木材、鑛物に富む。鐵道は、陸奥より入り來れども、既成のものは、僅かにて、後には本縣を通過して、羽前に入り、福島より發する奥羽線に連接せむ豫定なり。能代川の上流に、尾去澤の銅山あり、阿仁川の上流に、阿仁の銅山あり、能代川の河口に能代港ありて、春慶塗を産す。その南方の男鹿半島は、八郎瀉を抱きて、風景愛すべし。

秋田市  
土崎港

秋田市は、御物川下流の沿岸地にあり、秋田縣廳の所在地なり。畝織、八丈縞などを産す。その西北に土崎港あり。秋田より東南に進めば、生絲綿布の産地なる横手に達し、なほ南すれば、有名なる院内銀山を過ぎて、羽前に入る。その西方に秋田

院内

鳥海山

富士と呼ばれる鳥海山聳ゆ。

山形縣

(七)山形縣 西は海に面し、東境は中央山脈にて、宮城縣と背中合せをなし、その他にも山多し。殊に湯殿山、月山、羽黒山は、名高し。縣内の諸水は、多く最上川に集まり、その流域の平野より米を産すること多く、また養蠶盛んなり。河口に酒田港ありて、米を輸出す。その南方に鶴岡あり、この地方を庄内と稱す。

酒田港  
鶴岡

新庄

山形市

米澤市

秋田縣の院内より、南に進めば、新庄に至る。綾織を産出す。更に南すれば山形市を経て、米澤市に至る。山形市に山形縣廳あり、この近傍より出羽米を産し、また薄荷を産す。米澤市は、養蠶および絹織物の製出盛んなり。福島より來る鐵道は、すでに米澤山形より、天童、楯岡を経て、船形まで成れり。

#### 第四章 北國地方

新潟縣 石川縣  
富山縣 福井縣

總説

(一)總説 この地方東南は、山脈重疊し、頗る高峻なる山嶽

地勢

あり、西北は、日本海に臨む。地勢は、海に向ひて傾けば、河流は

河流

みなこの方向に流る。信濃川を第一の大河として、次に阿賀、

海岸

川、神通川、射水川、手取川、日野川など、いづれも日本海に注ぐ。海岸を見るに、若狹には小出入多く、能登は象鼻の如く海中に突出し、七尾灣を抱き、中に能登島あり。越中の海岸は、凹入して富山灣をなす。越後に入れば、海岸に親不知の險ありて、往來甚だ困難なりしが、今は新道あり。海岸は、大抵沙濱なり。佐渡は、越後の西方海中にある孤島なり。

氣候

冬季には、西北方の大陸より、日本海を越えて寒風吹き来り、東南の山脈に衝き當るゆゑ、おのづから雲を起して、陰天多く、雨雪従ひて多し。川の流域地には、平野ありて農産物を出だし、殊に越後平野より米を産すること多し。その他、蠶業、漁業は、各地にて營み、織物、陶器、漆器なども諸所より産出す。

新潟縣

(二)新潟縣 本縣は、西北日本海に臨み、東南には山脈連亘す。されど、信濃川は信濃より來り、阿賀川は岩代より來り、その流域は廣大なる平野をなし、米の産出を以て有名なり。

高田、直江津

信越鐵道は、信濃より越後の西部に入り、高田を経て直江津に至る。高田の西北方に、上杉鎌信の居りし春日山の城趾あり。直江津より、更に北越鐵道起り、柏崎、長岡、三條などを經て、沼垂に至る。沼垂は、信濃川の河口右岸にて、左岸は即ち新潟

柏崎、長岡、三條

市なり。新潟市は、もと五港の一にて、新潟縣廳の所在地なり。港口淺く、大船を入るること能はず。新潟の東方に、新發田あり、その北方に村上あり、その傍なる三面川より、鮭を産すること甚だ多し。南方に五泉村、松あり、織物を出だす。また新潟の西南海岸に彌彦山ありて、その麓に彌彦神社あり。更に西南する時は、寺泊、出雲崎ありて、漁業盛んなり。

新潟市

新發田

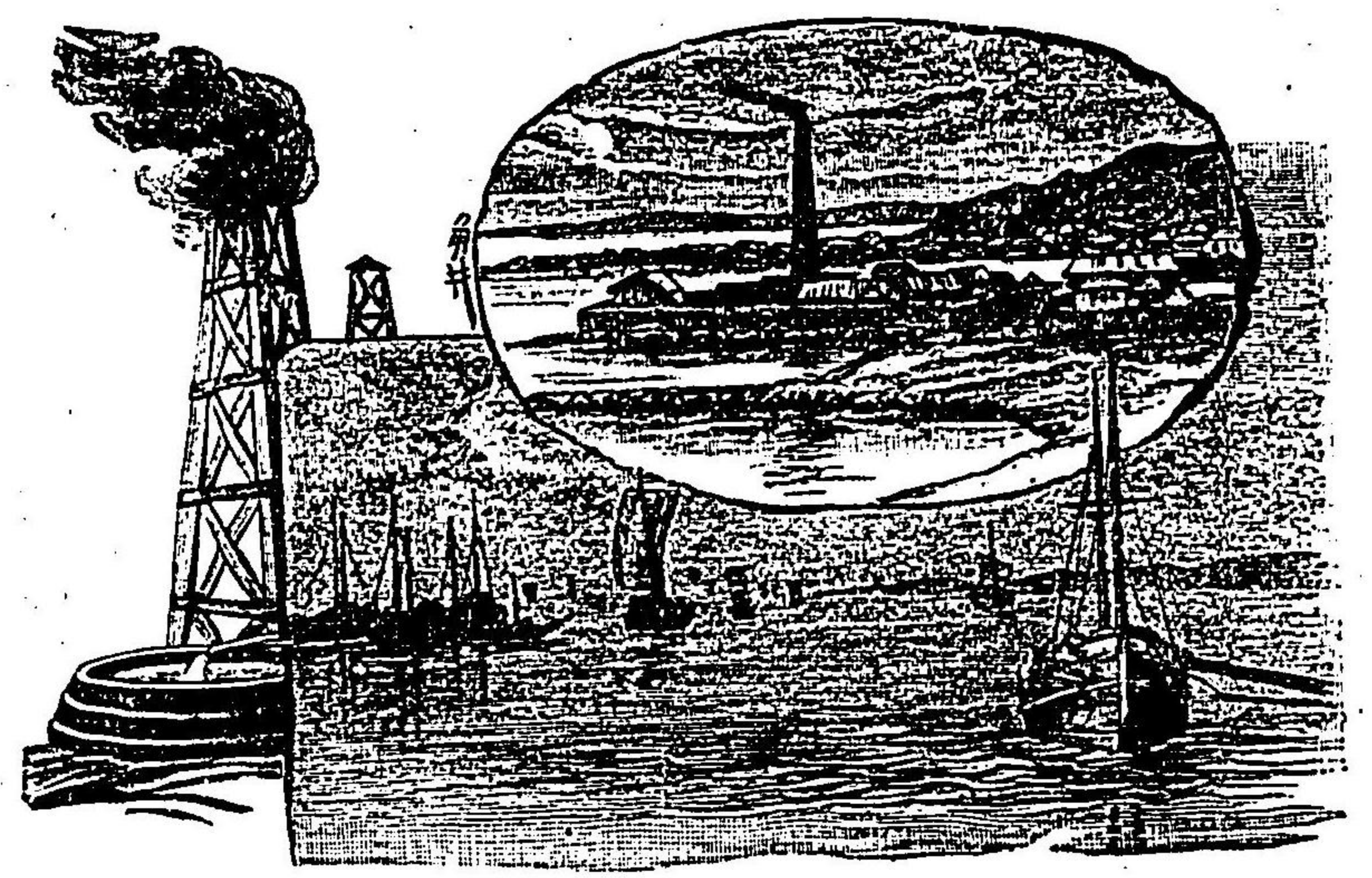
村上

五泉、村松

彌彦神社

寺泊

出雲崎



新潟港ト石油採取場

市なり。新潟市は、もと五港の一にて、新潟縣廳の所在地なり。港口淺く、大船を入るること能はず。新潟の東方に、新發田あり、その北方に村上あり、その傍なる三面川より、鮭を産すること甚だ多し。南方に五泉村、松あり、織物を出だす。また新潟の西南海岸に彌彦山ありて、その麓に彌彦神社あり。更に西南する時は、寺泊、出雲崎ありて、漁業盛んなり。

石油

小千谷  
十日町

この近傍の泥瀨の海岸より石油を産し、その他、長岡の東浦瀨よりも石油を産すること多く、産額實に我が國第一なり。長岡より、信濃川に沿ひて上る時は、小千谷、十日町あり、その附近より、越後縮を産出す。

佐渡島は、東北

と西南とに灣

入あり、東北の

灣内に夷港あ

り。新潟より、汽

船常に往來す。

西南の灣を眞

野灣といひ、灣

夷港

順徳天皇

遙に隠岐

にましま

す。父帝を

慕ひ給ひ

て。いざさら

なば、磯うつ

問は、むに、お



坑 金 渡 佐

きのかた  
には何事  
かある  
と詠ませ  
給ひしか  
ば、土人、  
眞野、入  
江を戀の  
浦と改め  
稱せりと  
ぞ

富山縣

頭の眞野は、承久の亂に、順徳天皇の遷幸し給ひし舊蹟にて、眞野神社と、天皇の御陵とあり。島の北方に有名なる金山ありて、金銀を産すること多く、その西南海岸に相川町ありて、佐渡第一の都會なり。この地より無名異焼を出だす。

(三)富山縣 越後の西方、親不知の險を超ゆれば、富山縣に

入る。東南西の三方には山嶽重なり、殊に東部には立山の高峰聳ゆ。北方は海に臨み、海岸の地および黒部川、神通川、射水川などの流域に平野ありて、米を産すること多く、沿海の地方には、漁業の利少なからず。

富山市

富山市は、國の中央、神通川の下流地にあり。富山縣廳の所在地にて、賣藥を諸國に出だす。北陸鐵道は、西方より來りてこ

の地まで達す。なほ延長して、直江津に至り、信越線に連接せしめむ計畫なり。

魚津 高岡 伏木

富山の東北海岸に魚津ありて、漁業地なり。また西方の射水川に沿ひて高岡市あり、銅器・漆器を産す。射水川の河口にある伏木は、開港場にて、米を輸出す。また高岡より中越鐵道によりて南すれば、絹布の産地たる城端に達す。加賀に入る境に、俱利迦羅峠あり、昔源義仲大いに平軍を破りしところなり。

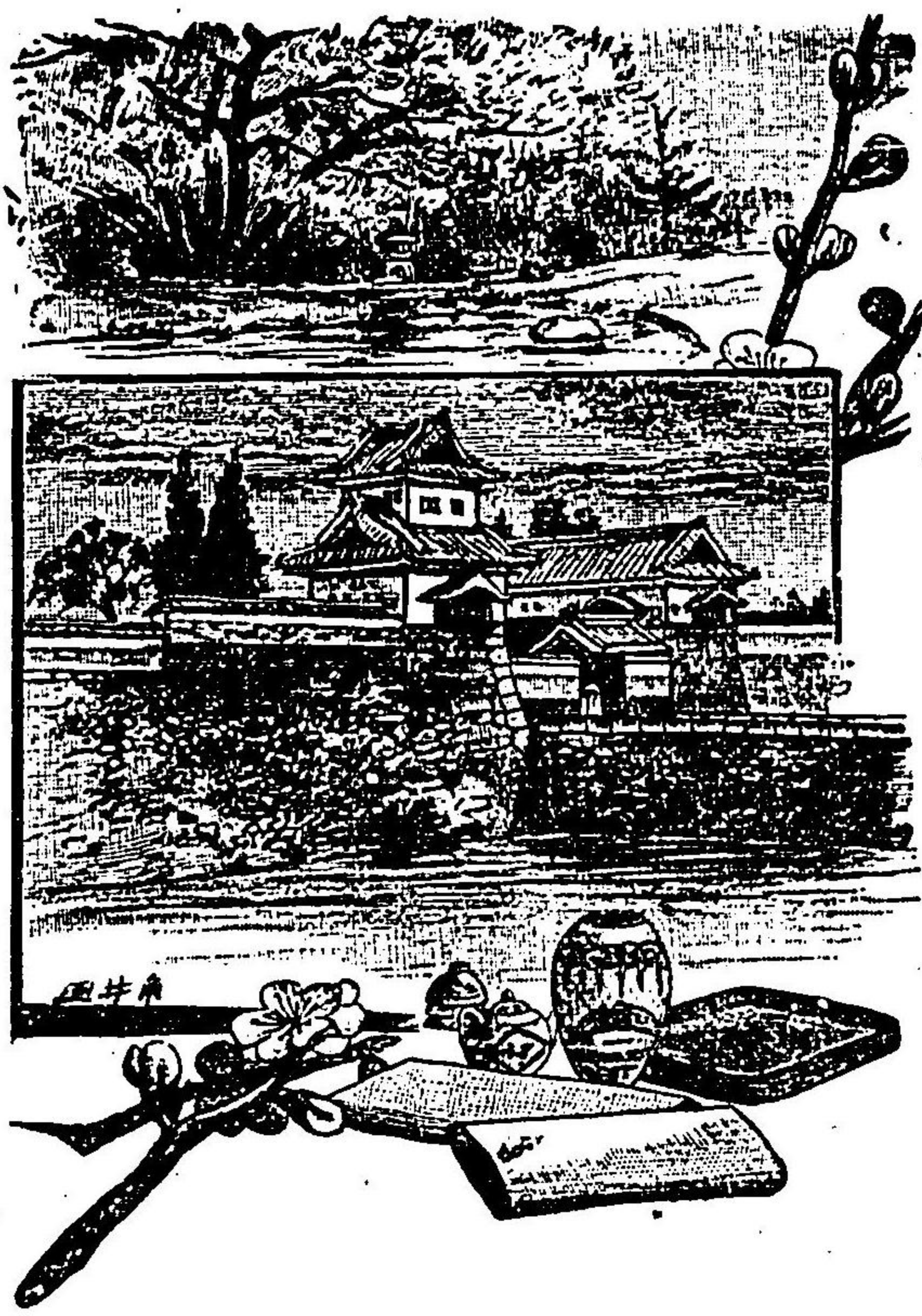
石川縣

(四)石川縣 能登は海中に突出したる半島にて、加賀の東南には、山嶽あひ連り、中に就き、白山最も高し。されど、海岸の地一帯には、平野ありて、農産物を出だすこと多し。北陸鐵道によりて、富山縣より本縣に入り、津幡より支出す。

七尾 輪島

七尾鐵道にて、七尾港に達す。七尾港は、開港場にて、近傍に和倉の温泉あり、北方の輪島は塗物にて名高し。津幡より、本線を西南行すれば、金澤市・小松・大聖寺等を経て

金澤市



兼六公園と金澤城

福井縣に入る。金澤市は、前田氏の舊城下なりしが、今は石川縣廳の所在地にて、北國第一の都會なり。第九



金石港  
小松、大  
聖寺  
九谷焼

福井縣

福井市

藤島神社

師團第四高等學校等あり。兼六公園は、日本三公園の一と稱せらる。市内より銅器漆器絹布を産す。金澤の西北方海岸には、金石港あり。小松、大聖寺よりは、絹布を産し、大聖寺の東南山地は、九谷焼の本場にて、またこの近傍より漆器を産す。その他、沿海各地は、漁業盛んなり。

(五)福井縣 本縣は石川縣の西南にあり。管内には、山嶽多けれども、西方は海に臨み、かつ九頭龍川、足羽川、日野川の流域には、平野ありて、農業養蠶盛んなり。

北陸鐵道は、大聖寺より來り、南に走りて福井市に至る。福井市は、もと北莊と稱し、柴田勝家の居城なりき。今は、福井縣廳の所在地にて、羽二重奉書細を産すること多し。市の北方に藤島神社あり、忠臣新田義貞を祀る。九頭龍川は、その下流、日

三國港

武生

敦賀

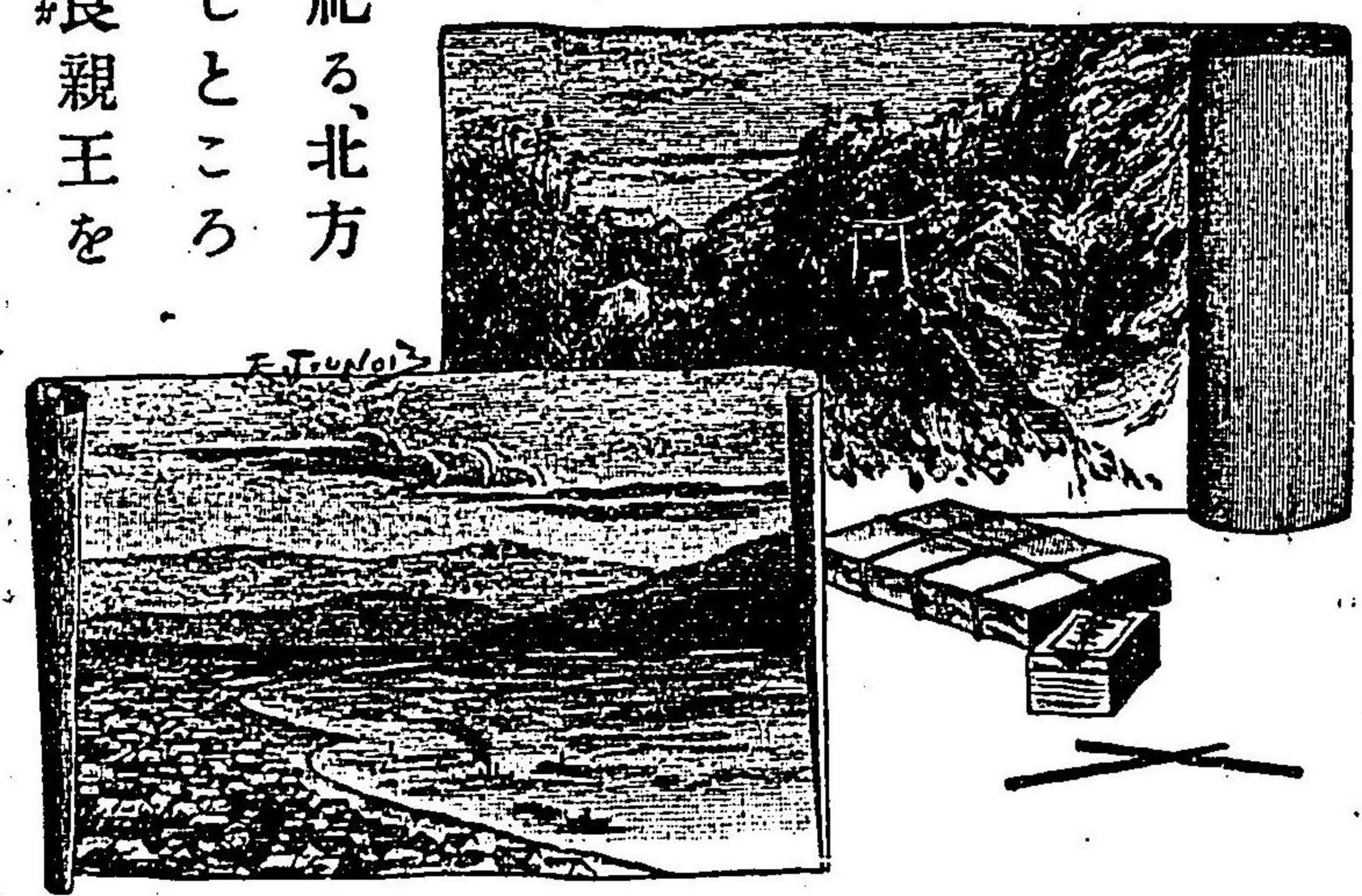
氣比神社

金崎

金崎宮

野川と合し、三國港に注ぐ。

更に鐵道にて南すれば、武生を経て敦賀に至る。武生は、蚊帳、双物などを産し、敦賀は、開港場にて、港内水深く、北海屈指の良港なり。また陸路は、鐵道にて近江の米原に至り、東海道鐵道に接続す。その東に氣比神社ありて、神功皇后を祀る。北方の金崎は、昔新田義貞の據りしところにて、金崎宮には、尊良親王、恒良親王を祀る。



港賀敦ト社神崎+金

小濱

若狹の海岸は屈曲甚だしく、漁業盛んなり。小濱は、國の中央海岸にあり、近傍より若狹塗を出だす。

第五章

東海地方

静岡縣 岐阜縣

愛知縣 長野縣

三重縣 山梨縣

(一) 總説

この地方は、富士火山脈より西方にありて、東は關東地方、北は北國地方、西は近畿地方に接し、南方は太平洋に臨む一帯の地方をいふ。域内に、山嶽多けれども、地勢南方に傾斜して、河流この方向に流れ、その流域には平野あり。管内の北部には、高峻なる山嶽多く、河水はこれより發して南に分流す。南に流るるものには、富士川、大井川、天龍川、木曾川などあり。北部の水は、北國地方諸川の水源となる。

要説  
境域  
地勢

河流

海岸

海岸には、出入甚だ多く、伊勢と尾張とにて内海を抱く、これを伊勢海といひ、沿岸に良港多し。知多半島と、渥美半島とにて、また渥美灣と知多灣とを抱く。渥美半島の最端を伊良湖岬といひ、それより東方は遠州灘にて、航行に困難なり。駿河の海岸は、凹入して駿河灣をなす。いづれも風景よろしく、氣候溫和なるゆゑ、海水浴場多く、また漁業盛んなり。

氣候  
産物

沿海の地は溫暖なれども、山地は寒暑いづれも強く、また平地少なきも、生絲、絹布を産すること多く、殊に木曾は木材に富み、飛驒よりは銀を産す。海岸に近き平野よりは米を産すること多く、また静岡縣、三重縣より、茶を出だし、その他、各地より織物、陶器、漆器、紙を産出す。

静岡縣

(二) 静岡縣

伊豆半島は南方に斗出して、東に相模灘、西に

下田

修善寺

熱海

富士山

駿河灣を抱く。管内の北部は山岳重疊し、半島中にも山脈連  
 互し、中央に天城山あり、良好なる木材および天城炭を出だ  
 す。東海道鐵道は箱根を越え、三島にて豆相鐵道を支出し、狩  
 野川に沿ひて南に走り、大仁に至る。後には、半島南端の下田  
 に達すべし。下田は、屈指の良港にて、徳川氏の末に、外國船の  
 來りし地なり。大仁の西南なる修善寺は、源頼家の幽せられ  
 したところにて、今は温泉場として有名なり。狩野川の流域に  
 は、源頼朝の流されし蛭小島あり。また東北海岸には、有名な  
 る熱海の温泉あり。間歇泉なり。相模の小田原より、人車鐵道  
 設けらる。

東海鐵道は、三島より、沼津に至る。北方甲斐の界には、日本第  
 一の名山富士山聳ゆ。高さ一萬二千四百尺に近く、四時雪の

ゆ子の浦に出  
 て見れば  
 白雲の  
 ぞ富士の  
 高嶺に雪  
 はふりにけ  
 る

興津、清  
 水港  
 静岡市



もと駿府といひ、徳川家康の隠居せしところなり。漆器・竹器

消ゆる時なし。沼津より西方  
 の海岸は、氣候溫和、風景勝れ、  
 至るところに海水浴場あり。  
 殊に田子浦は、古よりの勝地  
 なり。

田子浦を見て、平氏が水禽に  
 驚きたる浮島原を過ぎ富士  
 川を渡り、興津鯛にて名高き  
 興津開港場の一なる清水港  
 を過ぎて西すれば、静岡市に  
 達す。静岡縣廳の所在地にて、

焼津

などを産す。その東南久能山には、東照宮あり。更に静岡より、鐵道にて西南に進む時は、焼津を過ぎて、昔は渡船もなかりし大井川を越えて遠江に入る。焼津は、日本武尊の草薙の古蹟なり。

濱松町

遠江の中央には、信濃の諏訪湖より發源する天龍川あり。川を渡れば、濱松町を過ぎ、濱名湖の冷切口を渡りて愛知縣に入る。

静岡縣下よりは、茶を産すること多く、わが國の産額およそ三分の一を出だす。その他、駿河よりは紙、遠江よりは疊表、石油を産出す。

愛知縣

(三)愛知縣 愛知縣は、東北に山嶽多けれども、西南は海に面し、西部は、濃尾平野に屬し、米を産すること多し。

渥美半島  
豊橋、岡崎

三河には、豊川、太平川、矢野川の三川あり、東より西に向ひて、渥美半島突出す。東海道鐵道は、豊橋岡崎を過ぎて尾張に入る。豊橋よりは、支線の鐵道によりて、豊川稻荷に至るべし。岡崎は、徳川家康最初の居城地なり。

知多半島

さて鐵道は、大府にて支線を出だし、知多半島の龜崎、半田を経て、武豊に至る。この半島にては、醬油、酒を産出すること多く、また岬端の師崎を始めとして、至るところ海水浴に適す。

桶狭間

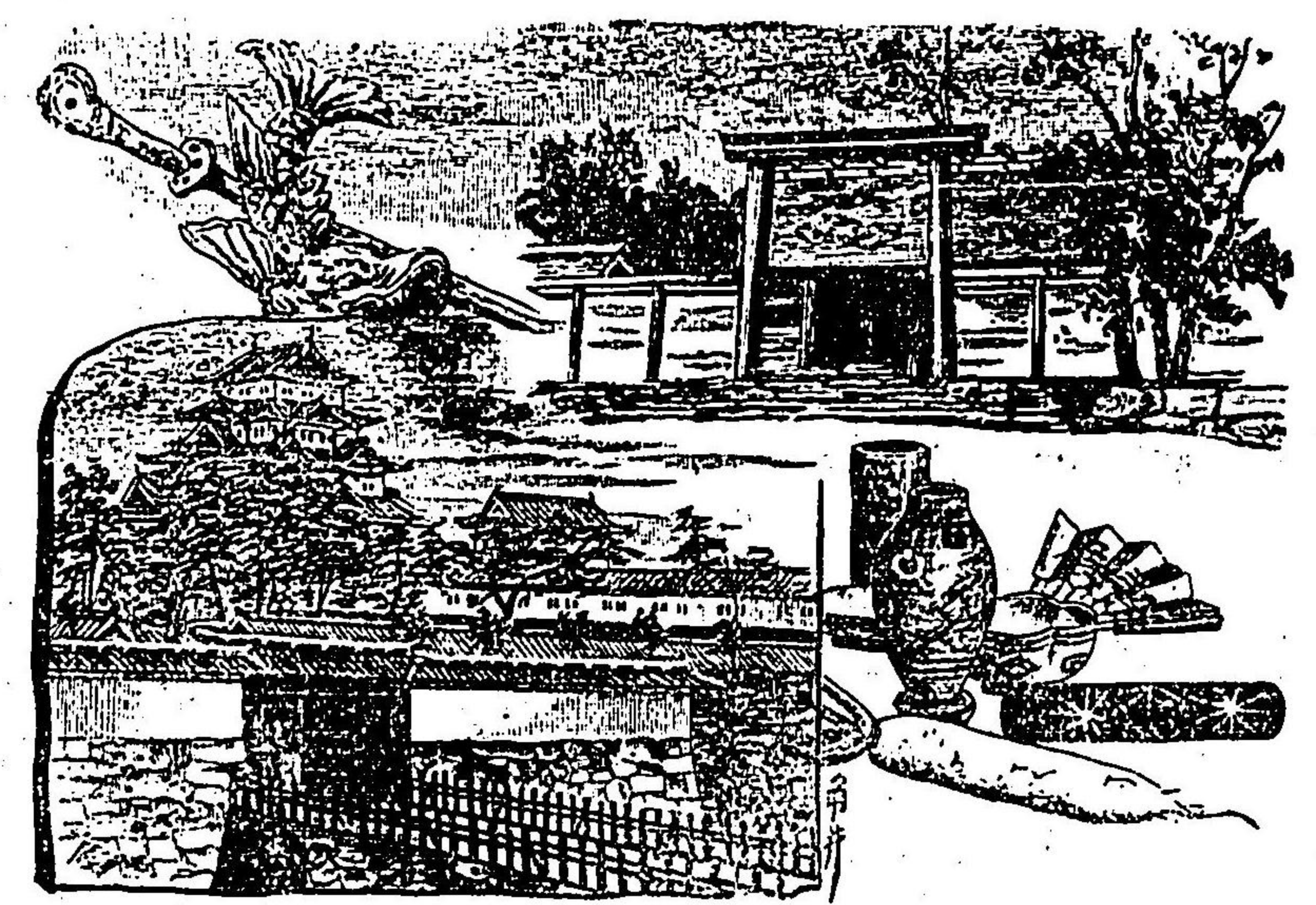
大府の北方には、桶狭間の古戰場あり。鐵道は、熱田、名古屋、清洲などを經て、岐阜縣に入る。熱田には、熱田神社ありて、草薙

熱田

名古屋市

劍を祀る。その東南に鳴海、絞有松絞の産地あり。名古屋市は、三府につぐ大都會にて、人口二十五萬を有し、愛知縣廳、第三師團などあり。徳川氏三家の一なる尾張侯の居城、今に存し、

瀬戸



熱田神社ト名古屋古屋城

金の鯨の名甚だ高し。市街繁盛にて、織物、七寶焼、漆器、扇などを産す。北東に向ひて、中央鐵道あり、美濃の多治見に達す。三河の境に瀬戸村あり、多く陶器を産出す。また西南に向ひて關西鐵道あり、三重縣を経て大阪に達す。

清洲の西北、一宮より尾西鐵道支出して、南に向ひ、關西鐵道に連接す。名古屋の

犬山、小牧山、長湫

北方、美濃の境には、犬山ありて陶器を産し、犬山の南方、小牧山、および東方、三河の境なる長湫は、いづれも名高き古戰場なり。

三重縣

(四) 三重縣 三重縣は、愛知縣の西南にあり、西部と南部とには、山嶽連接すれども、東方伊勢海に臨む地方に平野連り、米を産すること多く、海濱には漁業盛んなり。

四日市市、津市

關西鐵道は、名古屋より來りて、木曾川を渡り、桑名、四日市市を経て、龜山に至り、二線に分れ、南すれば津市に至り、西すれば伊賀に入る。四日市市は、開港場の一なり。米、肥料などの集散地にて、また萬古焼を産す。津市は、また安濃津といひ、三重縣廳の所在地なり、近傍より阿漕焼を産す。

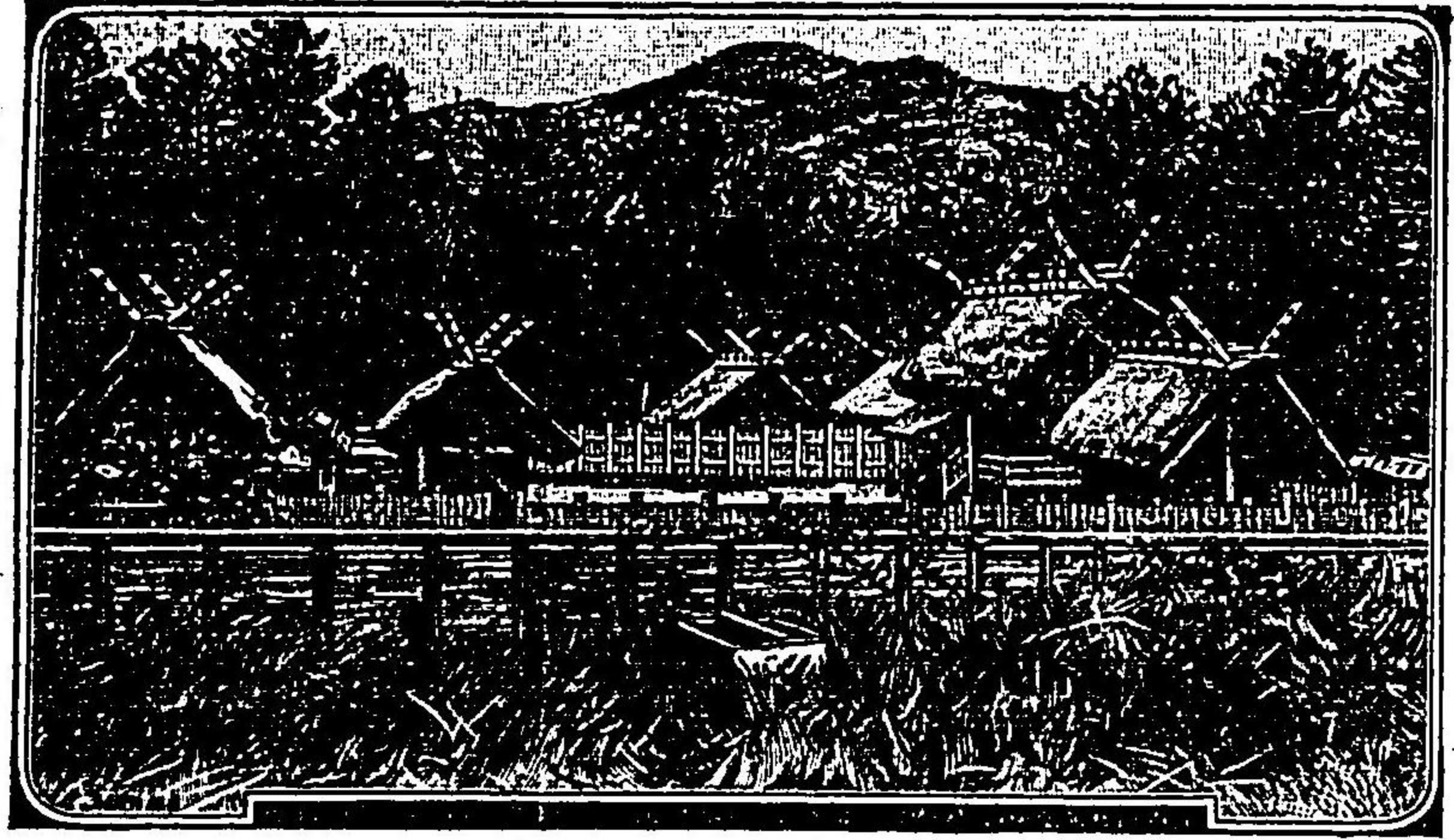
松坂

津より參宮鐵道あり、松坂を経て、宇治山田に至る。松坂は、本

宇治、山田

能褒野神社

上野



居・宣・長・の・出生地なり。宇・治・山・田・  
 には内宮外宮あり、参詣者絶え  
 ず。その東方二里餘に二見浦あ  
 り。その東に鳥羽港あり、それよ  
 り東南の海岸は、漁業地なり。  
 更に還りて龜山の東北方に、廣  
 き能褒野ありて、日本武尊の薨  
 じ給ひしところ、今も御陵存し、  
 宮能褒野神社あり、關西鐵道にて  
 更に西に進む時は、柘植に至り  
 て二線に分る。一線は、近江の草  
 津に至り、一線は上野をへて奈

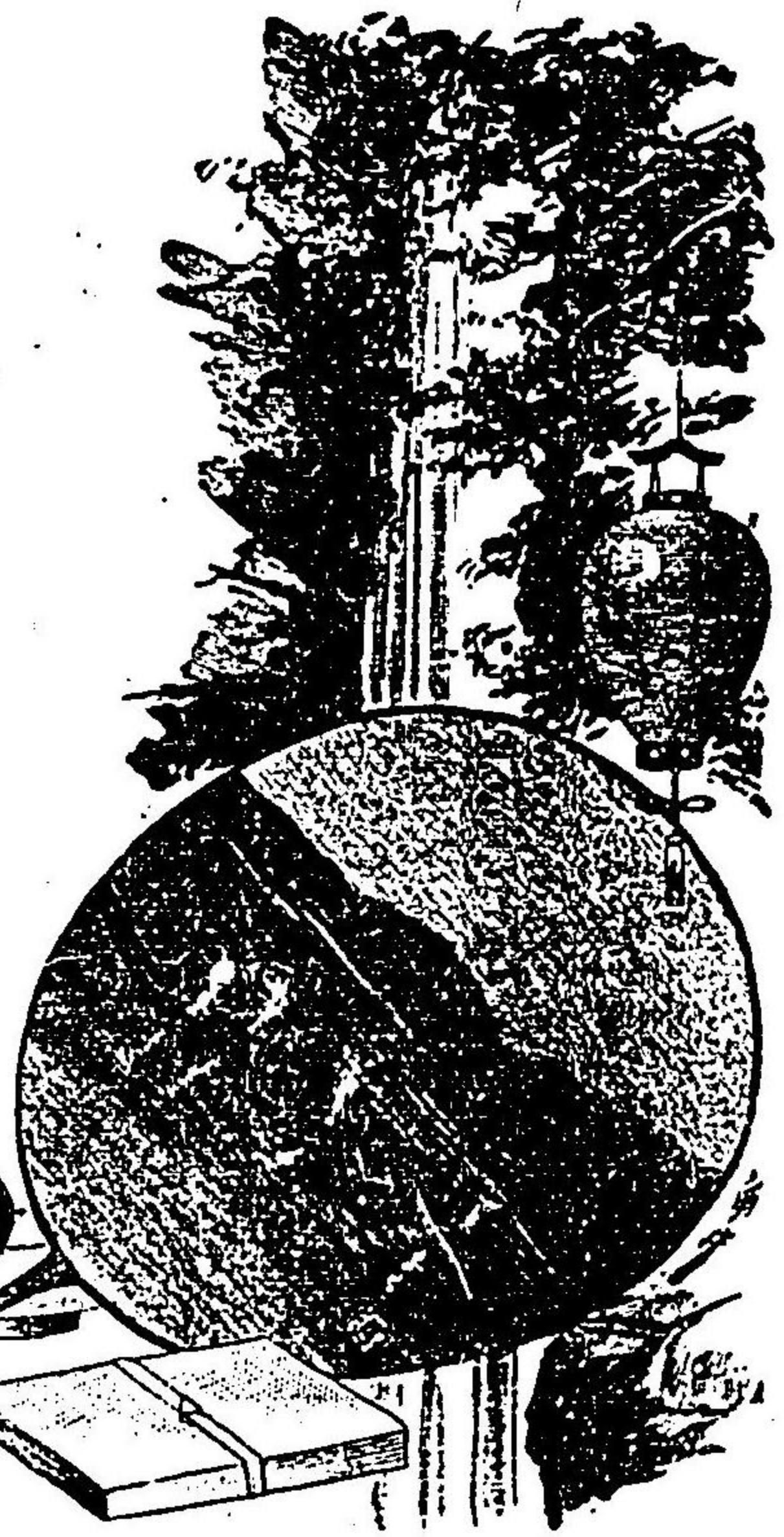
岐阜縣

岐阜市

良に至る。上野は伊賀の名邑なり。

(五) 岐阜縣 管内の北方は、いはゆる濃飛高原にて、地勢高  
 く山嶽多し。されど南部は、尾張に連れる濃尾平野にて、米を  
 産すること多し。飛驒川・長良川・揖斐川・木曾川など、いづれも  
 時々洪水あり。

東海道鐵道は、  
 岐阜大垣を經  
 て、滋賀縣に入  
 る。岐阜市は、岐  
 阜縣廳の所在  
 地にて、提燈團扇などを産す。長良  
 川の鵜飼は有名なり。近江の境に近き



飼 鵜川良長ト瀧老養

關原  
不破關  
養老瀧

關原は、有名なる古戰場なり。その附近に、古の不破關趾あり。關原の南方に、養老瀧あり。

高山町

飛驒は、四方高峻なる山にて圍まれ、土地高く氣候寒し。高山町は、國の中央にある都邑にて、南方に位山聳ゆ。住民は、養蠶をつとめ、生絲を産すること多し。

長野縣

(六)長野縣 本縣もまた帝國最高原の地位を占め、四境悉

く山脈なり。されど、大河、山脈の間に流れ、天龍川、木曾川は南流し、千曲川、犀川は北流し、合して信濃川となる。これらの流域に平野ありて、養蠶甚だ盛んなり。

美濃より、木曾街道によりて木曾谷に入る。木曾街道は、即ち中山道なり。木曾地方は、わが國第一の山林にて、材木を出だすこと多し。西境の御嶽には、行者の登るもの多し。更に中山

諏訪

道を進むときは、諏訪湖邊の諏訪に出づ、生絲の産地なり。湖水は、冬日全く氷り、人馬その上に行く。なほ東北に進む時は、

飯田



諏訪湖ノ遠景ト善光寺

上田

輕井澤に至り、西北走して上田、長野を經、越後に入る。上田は、

和田峠を越

え、淺間山の

麓にて、信越

鐵道線に出

づ。南部の都

邑に飯田町

あり。

鐵道は、碓氷

峠を越えて

長野市  
善光寺

川中島

松本市

上田・細を産して有名なり。長野市は長野縣廳の所在地にて、有名なる善光寺あり、參詣の人甚だ多し。長野の東南、犀川と千曲川と合するところを川中島といひ、上杉・武田の古戰場なり。その南方篠井より、鐵道南に分支し、嬭捨山を通りて松本市に至る。この附近は養蠶盛んにて、松本は生絲蠶卵紙・眞綿などの市場なり。

山梨縣

(七) 山梨縣 本縣は長野縣の東南にあり。四境みな山にて圍まれ、殊に南境には富士山聳ゆ。されど中央にはいささか平地ありて、養蠶盛んに行はれ、生絲・絹布を産し、また葡萄の産あり。管内の諸水は大抵集りて富士川となり、駿河に入る。富士川は頗る急流なり。鐵道は武藏の八王子より來り、本縣に入りて鳥澤まで成る。

猿橋

勝沼

甲府市

天目山

なほ延長して國中を貫通し、終には名古屋より起る中央鐵道に連接すべし、鐵道に沿へる甲州街道には、奇巧なる猿橋驛の猿橋、葡萄の産地なる勝沼あり。ここを経て、甲府に至る。甲府市は山梨縣廳の所在地にて、繭生絲などの市場なり。この附近に、武田信玄の城趾あり、勝沼の東方にある天目山は、武田勝頼の亡びしところなり。また甲府の北



甲州葡萄園ト武田信玄ノ墓



身延山

方なる御岳、および金峯山よりは、水晶などの寶石を出だす。甲府より富士川に沿ひて下るときは、西方駿河の境に近く身延山あり、その久遠寺は日蓮宗の本山なり。また國の東部地方を郷内といひ、甲斐絹郷内縞を産す。

第六章 近畿地方

京都府 滋賀縣 奈良縣  
大阪府 和歌山縣

總説

(一)總説 近畿地方とは、東海地方の西方にて、古來の畿内

および附近の數國を合せたる稱なり。久しく帝都のありし地方なれば、名所古跡等、歴史に關係あるところ多し。

地勢

北方には、中國山脈あり、南方および東方には、紀伊山脈およびその支脈なる鈴鹿山脈などあり。殊に大和の南部と紀伊

河流

とは、有名なる山地なり。南と北の一部とは海に臨み、また淀川・大和川の流域、琵琶湖の周圍には平野ありて、農産物を出だす。河流には、右の外に、北に由良川あり、南に紀川・熊野川あり。

海岸

紀伊の南端に潮岬あり、その東方は熊野浦にて、西方は紀州灘なり。淡路との間を紀伊海峡といひ、その内海は大阪灣にて、灣内には良港あり、丹後の北方は日本海に濱し、海岸の出入多く、與謝灣深く灣入し、内に良港あり、その西方には日本三景の一なる天橋立あり。

氣候

海岸の氣候は溫和なれども、内地は寒暑ともややはげし。大和・紀伊の山地より、材木を出だすこと多く、その他、農業・蠶業・漁業、各地に行はれ、殊に工藝および商業發達す。

産物

京都府

(二) 京都府 管内山多く、ただ淀川と由良川との流域に平野ありて、農産物に富む。淀川の上流を宇治川といひ、茶の名所なる宇治を過ぎて淀に至り、北より流れ来る桂川、賀茂川の水を合せ淀川となり、伊賀より来る木津川を合せて西南に流れ、攝津に入る。

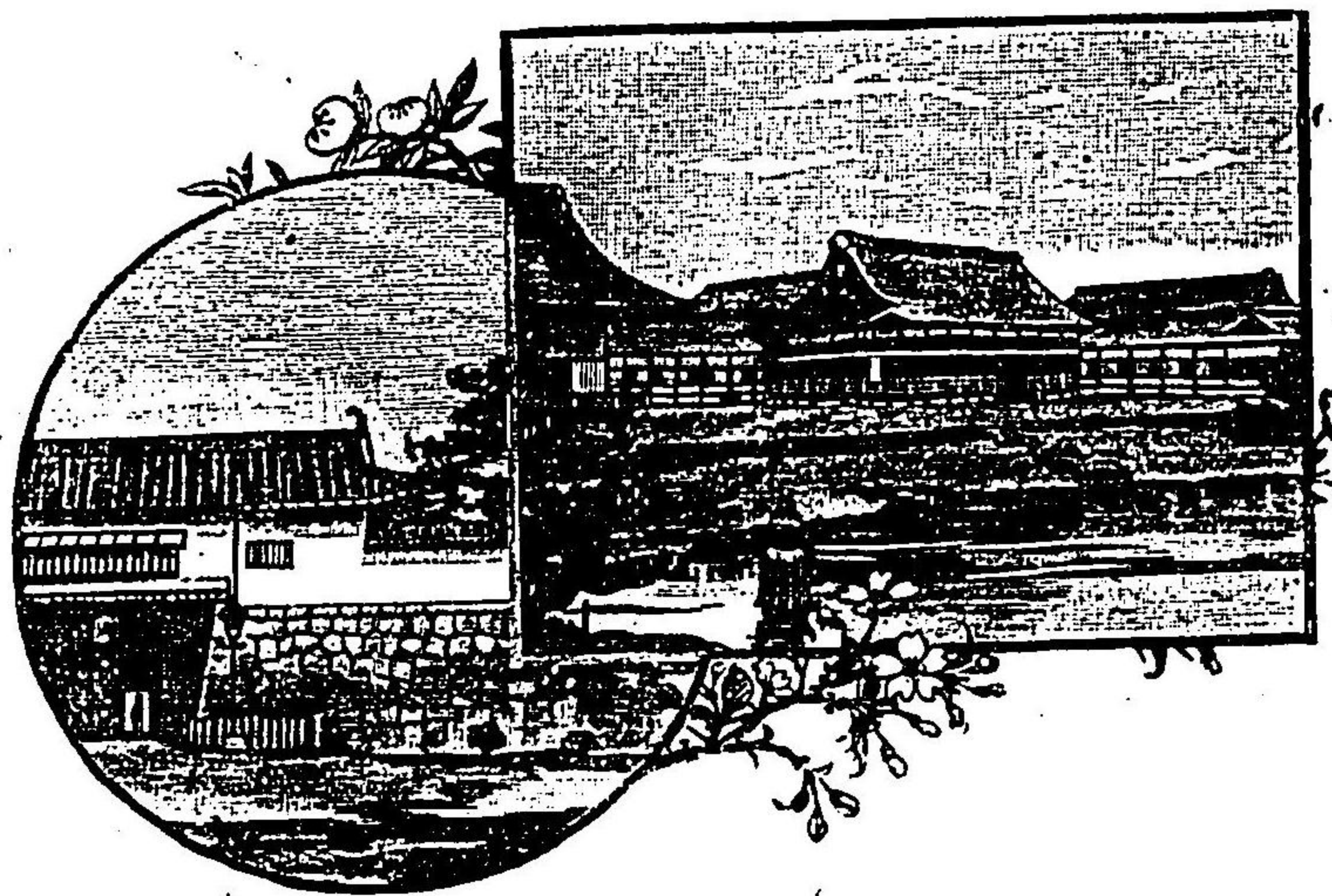
笠置山

關西鐵道は、伊賀より來り、後醍醐天皇の行在所なりし笠置山の麓を過ぎて二線に分れ、一は大和に入り、奈良を経て大阪に至り、一は河内に入り、四條畷を経て、また大阪に至る。また別に、關西鐵道線を横ぎりたる奈良鐵道あり、京都・奈良間に通ず、その線路に沿ひて宇治・伏見あり、この附近は、古より屢戦争ありしところなり。

宇治、伏見

京都市

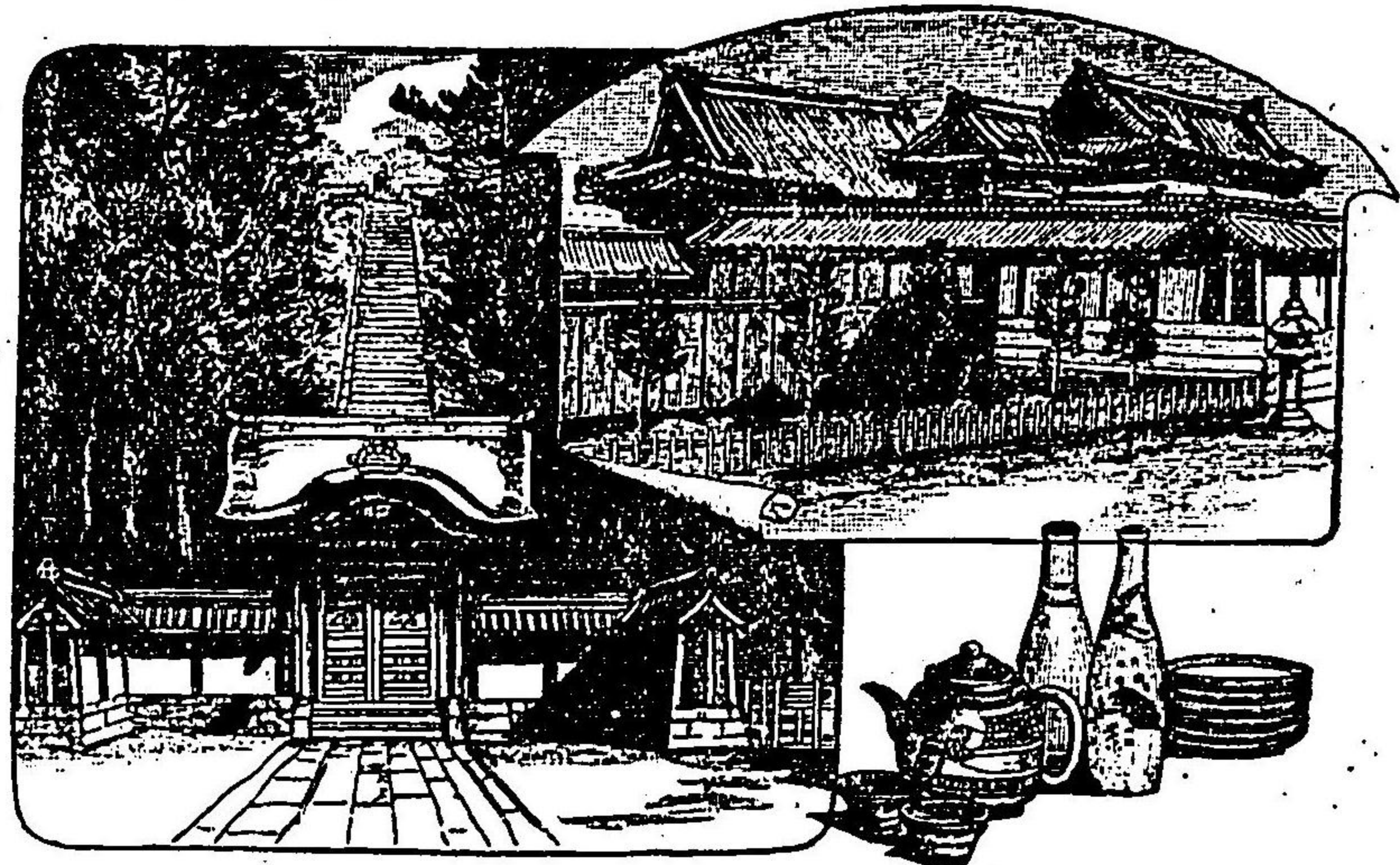
京都市は、桓武天皇より、明治の初めに至るまで一千餘年間、



京都舊御所 二條離宮

帝都のありし地にて、名所・舊跡・神社・佛閣甚だ多く、山水秀美なれば、東山・北山・西山など、遊覽の場所多し。人口三十五萬餘、今もわが國第三の大會にて、京都府廳・京都帝國大學・第三高等學校あり。市街端正にて、賀茂川その東部を流る。その東は即ち東山にて、風色よろしく銀閣寺・豊國神社・南禪寺・知恩院・清水寺・三十三間堂・泉涌寺などあり。また東

山を穿ちて琵琶湖の水を引き來り、運輸灌漑を利し、その水力を電燈電氣鐵道などに利用す。北山には金閣寺、および賀茂社などあり、西山には嵐山・高雄山などの名所あり。市の東北に北叡山聳え、山上に延曆寺あり、北方には鞍馬山、西北方に愛宕山聳ゆ。市の北部には舊御所あり、西部には二條の離宮あり、南部には東西の本願寺あり、さて



本願寺ト豊國神社

龜岡



京都の地は、美術工藝盛んにて、西陣の織物、友禪染、清水焼、粟田焼などを出だすこと多し。

東海道鐵道は近江より來り、京都を経て西南に走り、男山八幡宮を左方に見て、攝津に入る。また京都鐵道は京都より發し、西北に走りて丹波に入り、龜岡を経て園部に至る。なほ延長して福知山に至り、阪鶴鐵道と合し、丹後の舞鶴に至るべき豫定なり。阪鶴鐵道は、

舞鶴 宮津

すてに大阪より福知山に至れり。舞鶴は、與謝灣に臨む軍港にて、第四海軍鎮守府あり。その西北に宮津港ありて、開港場の一なり。北方には天橋立あり、青松白砂、あひ映じて風景絶佳なり。丹後縮緬は、この附近の地方より産出す。

滋賀縣

大津市

琵琶湖

(三)滋賀縣 京都より東方、蟬丸のこれやこのの歌をよみし逢坂山を越ゆれば、大津市に至る。大津市は滋賀縣廳の所在地なり。管内の四方は山にて圍まれ、中央に日本第一の琵琶湖あり、周回七十里、湖中に數島あり、竹生島は小なれども、島中に辨財天を祀れるゆゑ名高し。湖上には汽船往來し、湖中に諸種の魚類あり、源五郎鮒最も著名なり。河流は、みな湖水に注ぎ、平地よりは米を産す。湖邊はいづれも風景よろしく、八景の勝あり。湖水は、大津の東にて瀬田川となり、山城に

長濱

彦根

草津

入る、即ち宇治川なり。

東海道鐵道は、美濃より來り、米原にて支線を出だし、北に走りて、濱縮緬の産地なる長濱、および古戰場にて有名なる賤嶽の麓を過ぎて、越前の敦賀に至る。長濱の東北には、膽吹山聳ゆ。米原より本線の鐵道にて西南すれば、井伊直弼の居城たりし彦根、および織田信長の城趾ある安土を過ぎ、草津を経て大津に達す。草津は、東海道と中山道との分るるところにて、關西鐵



琵琶湖畔

日野

奈良縣

奈良市  
天の原  
りさけみ  
なれば春  
の山に三  
出笠

道來り會す。また彦根より近江鐵道によりて、關西鐵道に連接す。この鐵道に沿ひたる日野は、商業地にて、湖邊の八幡よりは蚊帳を産し、野洲川の近傍よりは晒布を出だす。

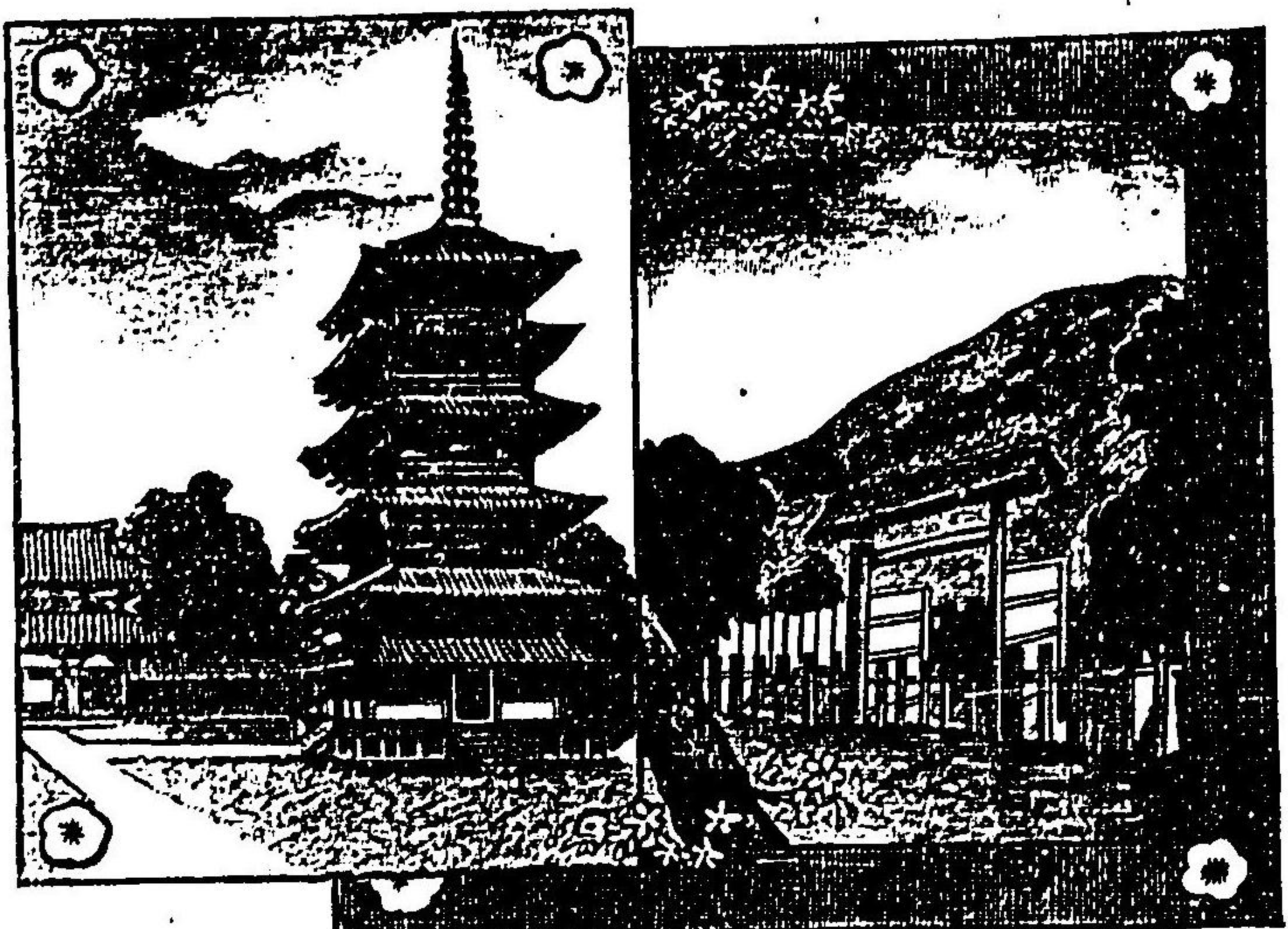
(四)奈良縣 管内は山嶽多く、殊に南部の吉野は山深し。されど、西北部の大和川流域には平野ありて、地味肥ゆ。また中部の谿谷には吉野川西流し、紀伊に入りて紀川となる。南部の水は十津川となりて南に流れ、紀伊に入りて熊野川となる。

すでに述べし如く、關西鐵道は、東より來り、奈良鐵道は、北より來り、いづれも奈良市に達す。奈良市は、昔、帝都のありし地にて、今は奈良縣廳の所在地なり。東に春日山、三笠山あり。山麓は優美なる公園にて、春日神社、東大寺の大佛などあり。關

でし月か  
も  
郡山、法  
隆寺

月瀬

吉野山



寺隆法ト陵御皇天武神

西鐵道にて西南に走れば、郡山、法隆寺に至る。法隆寺には、同名の古寺あり。その他管内には、神武天皇の都し給ひし橿原宮を始めとして、歴代の宮趾、山陵および藤原鎌足を祀る多武峯の談山神社などの舊跡多し。

川の水源地なり。櫻の名所なる吉野山は、吉野川の岸にあり、

梅花の勝地、月瀬は、東部の山地にて、伊賀に入る名張

鐵道

今は「一目千本」の櫻花のみを賞すれども、昔は南朝の行宮ありし地にて、楠木正行が「かへらじと」の歌を残したるもこの地なり。

關西鐵道は、奈良より西行して大阪に至り、奈良鐵道は、奈良より南に延びて櫻井に至り、これより關西鐵道の支線によりて西行し、高田に至りて南和鐵道に會す。南和鐵道は、高田より南に走りて五條に至り、紀和鐵道によりて紀伊



堂圓南ト池ノ澤猿

の和歌山市に達す。されば、大和の北半部は、交通頗る便利なり。

南部の山地よりは木材を出だし、また吉野紙、吉野葛、吉野漆などを産す。

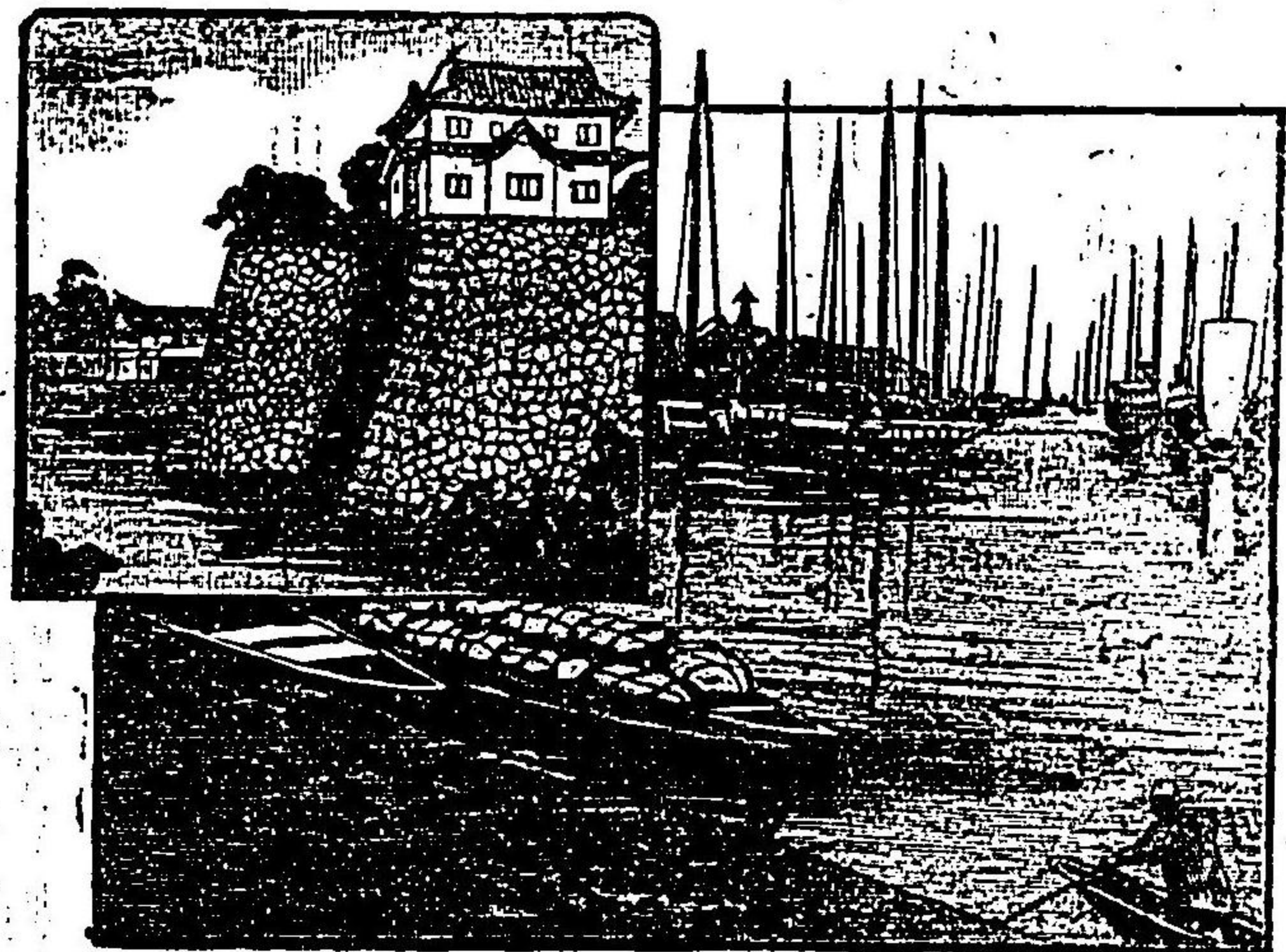
大阪府

(五)大阪府 管内の東南部には山脈連亘すれども、北部は畿内平野に連り、農産物に富み、淀川、大和川この間を流れ、運輸の利も少なからず。西方は大阪灣に臨み、船舶各所に輻湊す。

大阪市

大阪市は、淀川の河口にあり、この川は、安治川、木津川に分れて海に注ぐ。當市は、古の難波の地にて、神武天皇東征の時に船を著け給ひ、仁徳天皇は都をこの地に奠めさせ給ひぬ。後、豊臣秀吉城を築きしより、大いに繁盛に赴き、今はわが國第

二の都會にて、大阪府廳・造幣局・第四師團などあり、商業工業甚だ盛んに行はれ、紡績・燐寸・硝子などを製造す。市内には溝渠縱横に通じ、汽車絶えず發著して、水陸甚だ便なり。また市内に天満天神・高津神社・豊國神社・四天王寺などあり、高津神社は仁徳天皇を祀り、四天王寺は聖德太子の創建なり。

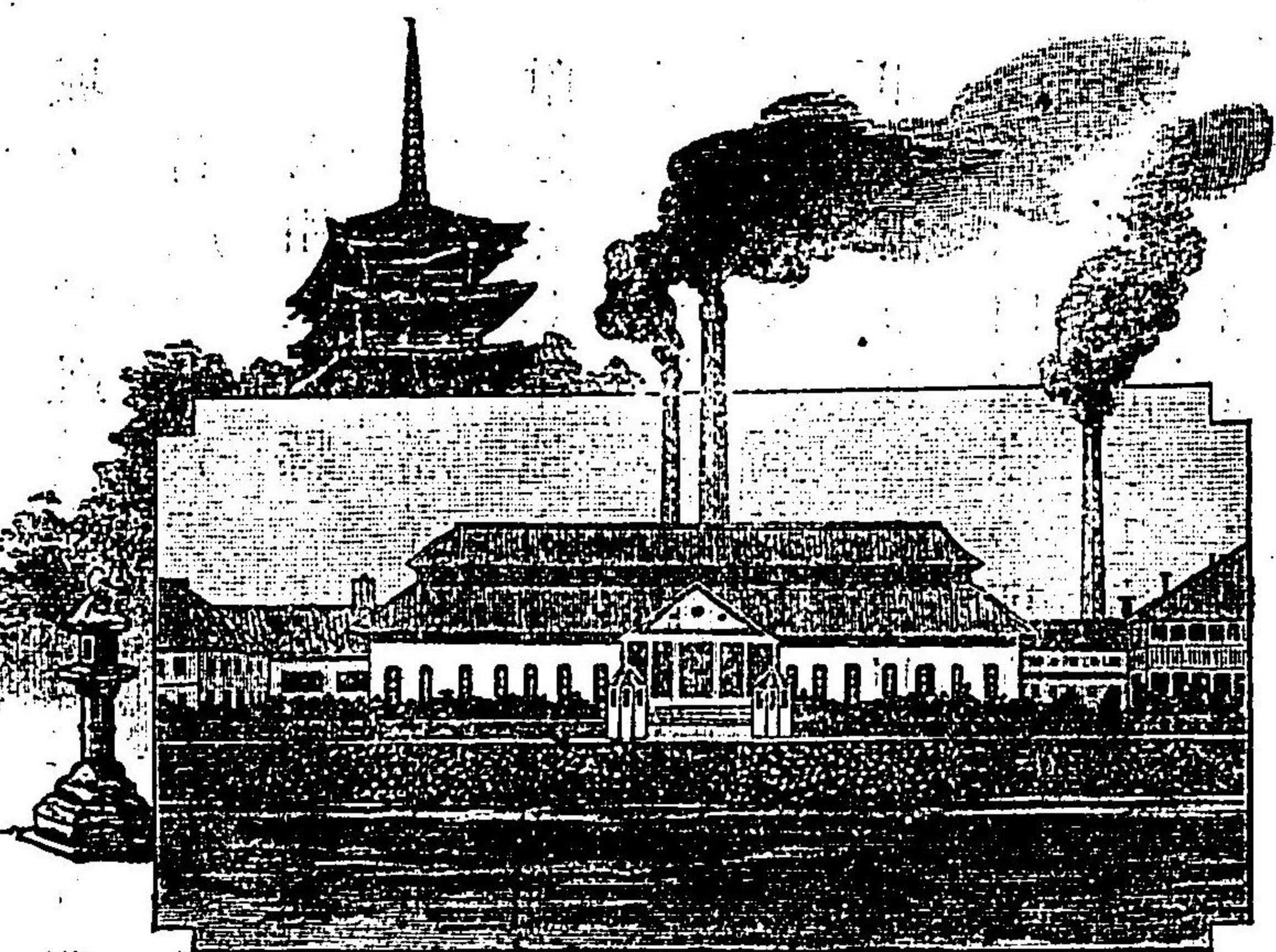


大坂城川口

鐵道

鐵道は、當市より諸方に通じ、東海道鐵道は、兵庫縣に入りて

四條驛



大坂造幣局と天王寺塔

神戸市に達し、阪鶴鐵道は、丹波に入り、關西鐵道は、二線とも東方に走る。南方に走るものに二線あり、一は南海鐵道にて堺市の西方を過ぎ、岸和田を経て紀伊の和歌山市に達し、一は高野鐵道にて堺市の東を過ぎ、紀伊の高野山の麓に至る。關西鐵道線に沿ひて、四條驛神社あり、東北方山城の

櫻井、金剛山  
堺市

池田

和歌山縣

境に櫻井驛あり、河内の南方大和の境に、金剛山聳ゆ。千早赤坂の二城趾は、その西にあり、和泉の堺市は、段通および刃物の名産を出だす。また大阪の北方池田は、造酒にて名高し。  
(六)和歌山縣 本縣は、本地方南端の半島なり。管内は山深く、有名なる熊野山中あり、西南東は海に臨み、海岸と河流の附近とに平地あり、氣候溫和、降雨多量なるゆゑ、植物能く繁茂し、良材を多く出だすこと、信濃の木曾に次ぐ、沿海の地方には漁業の利多し。

和歌山市

和歌山市は、もと徳川氏三家の一なる紀州侯の城下にて、今は和歌山縣廳の所在地なり。綿フラネルの本場たり。市の南方は和歌浦にて、古よりの勝地なり。和歌山より紀川に沿ひて、紀和鐵道を上れば、大和の境に近く高野山あり、山上の金

黒江港

田邊



剛峯寺は、弘法大師の創建なり。紀川の南方に、有田川あり、この附近は有名なる紀州蜜柑の産地なり。また和歌山の南方黒江港は、黒江椀の産地にて、その他、この國內より漆器を出

高野寺ト那智瀧

だす。更に南に進めば、田邊町あり、その東方を熊野地方と總稱す。大塔峯、那智山など聳え、那智山には有名な那智瀧あり。大和の十津川、この國に入



本宮、新

りて熊野川となり、沿岸に本宮、新宮の名邑あり。熊野浦にては鯨鯨などを漁し、熊野山中よりは良材を出たすこと多く、また熊野備長といふ炭を出だす。

第七章 中國地方

兵庫縣 岡山縣 廣島縣  
山口縣 島根縣 鳥取縣

總説

地勢

河流

(一) 總説 本地方は、近畿地方の西方一帯の狹長なる地を總稱す。中央に中國山脈、東西に走りて脊骨をなし、地勢南北の兩面に傾き、北は日本海、南は瀬戸内海に臨む。故に河流は、みな脊骨山脈に發源して南北に流れ、從ひて大河に乏し。ひとり江川は、流程五十里、中國第一の大河なり。その他、南面の加古川、揖保川、千種川、東大川、西大川、川邊川、北面の朝來川、日

海岸

野川など、やや大なり。

北方の海岸は、出入少なく、僅に出雲にこれあり。かつ冬季には、海波荒くて航行すること容易ならず、陸上にも、いまだ鐵道の設けなきゆゑ、交通不便なり。南方の瀬戸内海に臨む海岸は、到るところに岬灣出入して、良港多く、海中には無数の島嶼散在す。かつ海岸に沿ひて鐵道全通するゆゑ、海陸とも交通甚だ便利なり。

氣候

氣候は、中國山脈の南北によりて大いに異なり。南部は溫和にて、降雨少なく、北部は寒風多く、雨量も多し。南北の海濱と諸川の流域とには平地ありて、農産物を出だし、養蠶、牧畜、機業など盛んに行はれ、沿海地方は漁業盛んにて、殊に瀬戸内海沿岸の製鹽は有名にて、わが國製鹽高の半額を出だすと

産物

兵庫縣

いふ。

(二)兵庫縣 管内は西と北とに山多く、南部には平野ありて、米・綿などを産すること多く、山地には牧畜盛んに行はれ、但馬牛の名高し、海濱には魚鹽の利あり。

伊丹、池田、尼崎、有馬温泉

東海道鐵道は、大阪より神戸市に達し、神戸市よりは山陽鐵道これに連接して西に走る。阪鶴鐵道は管内の東部にて、東海道線と分れ、造酒にて有名なる伊丹、池田を過ぎ、丹波に入り、また南すれば尼崎に至る。池田の西方には有名なる有馬温泉あり。

神戸市

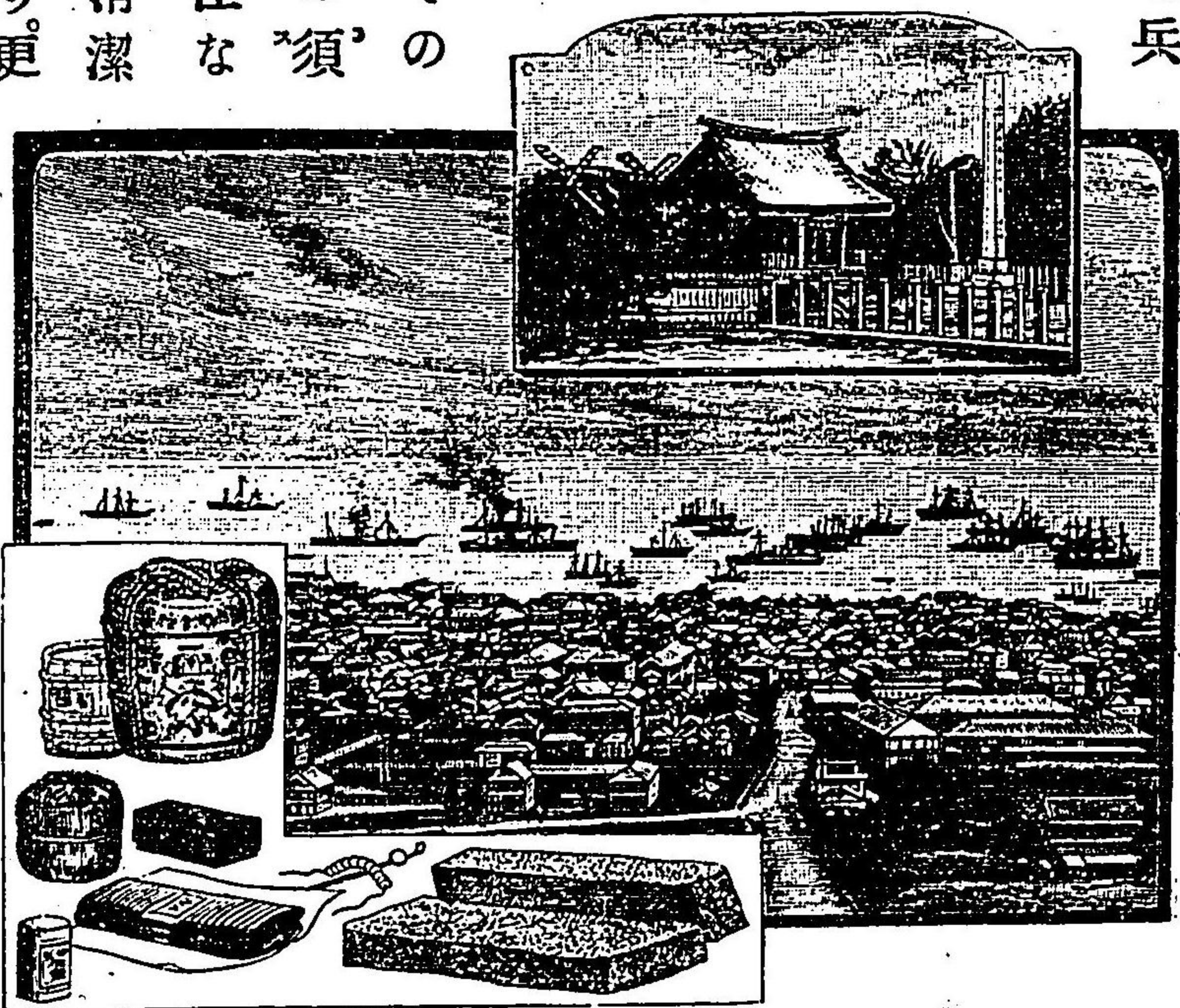
神戸市は、もと五港の一にて、三十餘年前に開港場となりしより、大いに繁盛に赴き、外國貿易の盛んなること、横濱と比すべく、今は人口二十一萬餘の大都會となり、兵庫縣廳の所

湊川神社

在地なり。市は、神戸と兵庫との二部に分れ、その界に湊川あり、川の東に湊川神社あり。

須磨、舞子

神戸の北東には、摩耶山、武庫山あり、西方には鐵樹峰あり、その麓に一谷あり、海岸の須磨、舞子は、風景甚だ佳なるのみならず、空氣清潔にて、保養の適地なり。更



神戸市・湊川神社

明石  
姫路市

に西すれば、鐵道は明石・姫路を経て岡山縣に入る。明石は、淡路を望みて風景よろしく、その間に明石海峽あり。姫路市には、第十師團あり、木綿および姫路革の産あり。播但鐵道ここより南北に通じ、北すれば銀の産地なる但馬の生野に至り、

龍野  
室津、赤穂

南すれば、飾磨津に至る。姫路の西方に、醬油にて有名なる龍野あり、その西方の白旗山は、古戰場にて、その南海岸には、室津・赤穂あり。赤穂は鹽の産地なり、但馬には、出石焼の産地なる出石・柳行李の産地なる豊岡あり。

出石  
豊岡

淡路は、大阪灣と播磨灘との間にある島にて、西南は鳴戸海峽を隔てて四國の阿波に對す。東南岸に洲本・由良あり、鳴戸海峽に近く、福良あり、産物には淡路焼・魚鹽等あり。

淡路國  
洲本、由良

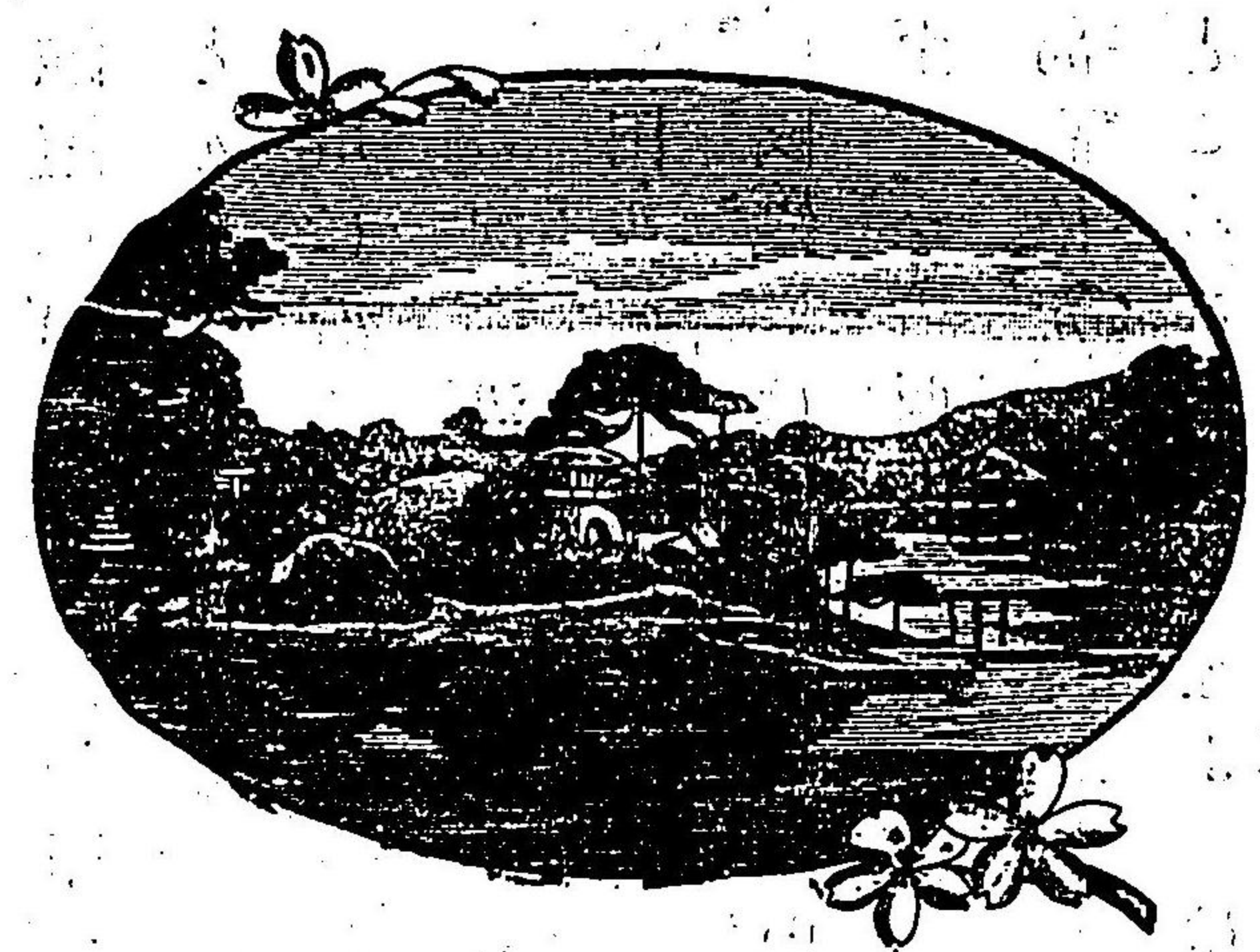
(三)岡山縣 管内の北部は山地なれど、南方は海に臨み、か

福良  
岡山縣

和氣町

伊部

岡山市



つ、河の流域には平野ありて、地味肥え、農産物豊かなり。また沿海の地方には、魚鹽の利あり。鐵道にて管内に入れば、和氣清麿の生れし和氣町を経て、東

大川を渡り岡山市に至る。東大

川の下流の東方に伊部焼にて有名なる伊部あり。岡山市は、西

大川の下流地にて、岡山縣廳お

後よび第六高等學校などあり。市

園内の後樂園は、日本三公園の一

と稱せらる。その南方は兒島灣にて、兒島半島西より東に出づ、この近海を水島灘といふ。

倉敷、玉島

高梁

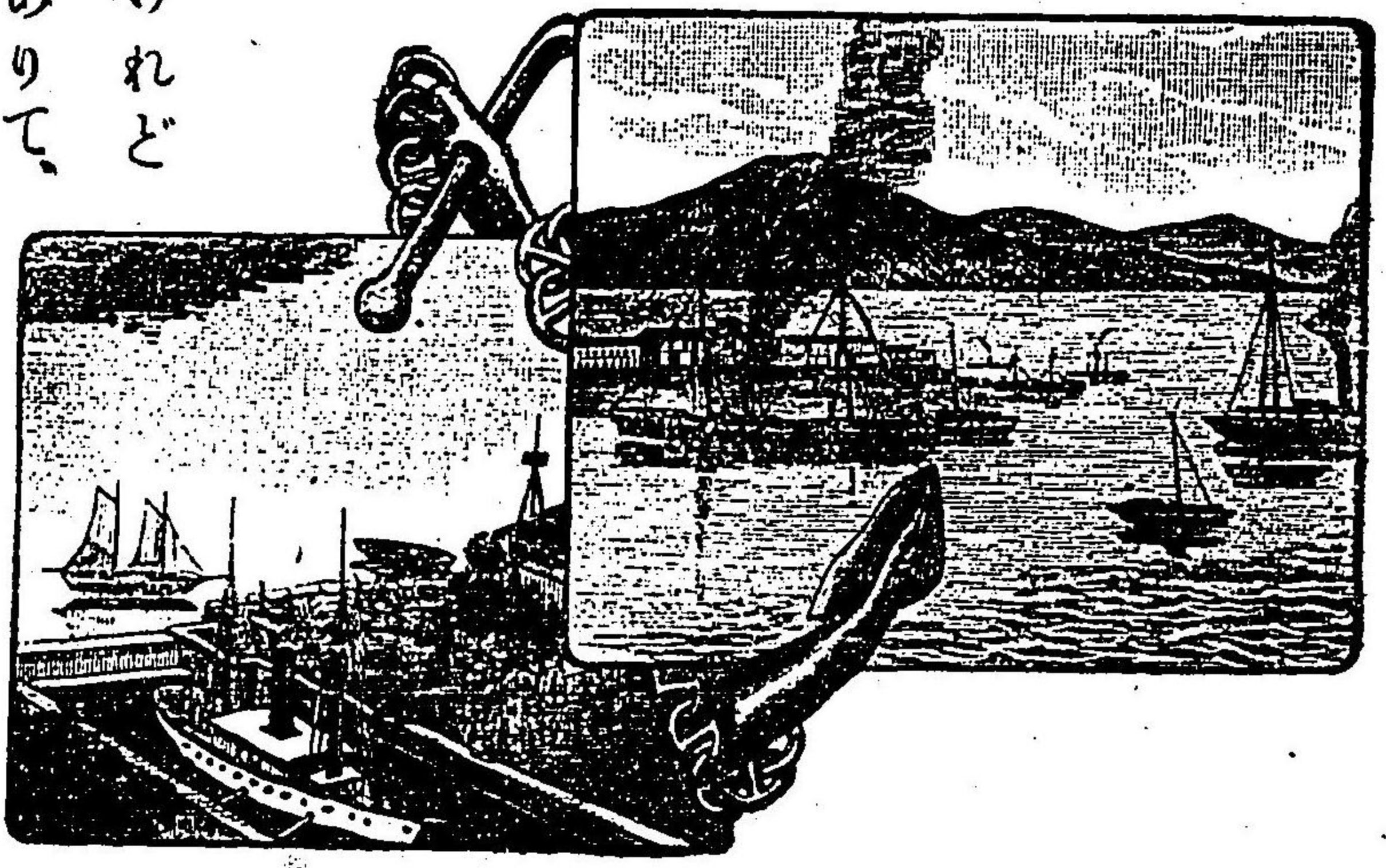
津山

院庄

廣島縣

鐵道は西に進み、倉敷、玉島などを経て、福山に至る。また川邊川に沿ひて高梁、高松あり、この河の沿岸地方より、麥、蘗、眞田、花菱、疊表などを産す。中國鐵道は岡山より津山に至る。その西方に院庄あり、兒島、高德が櫻樹に詩を題せしところなり。この邊よりは、雲齋木綿、烟草等を産す。

(四) 廣島縣 管内に山地多けれども、海岸と河の流域とに平野ありて、



宇品港、吳港

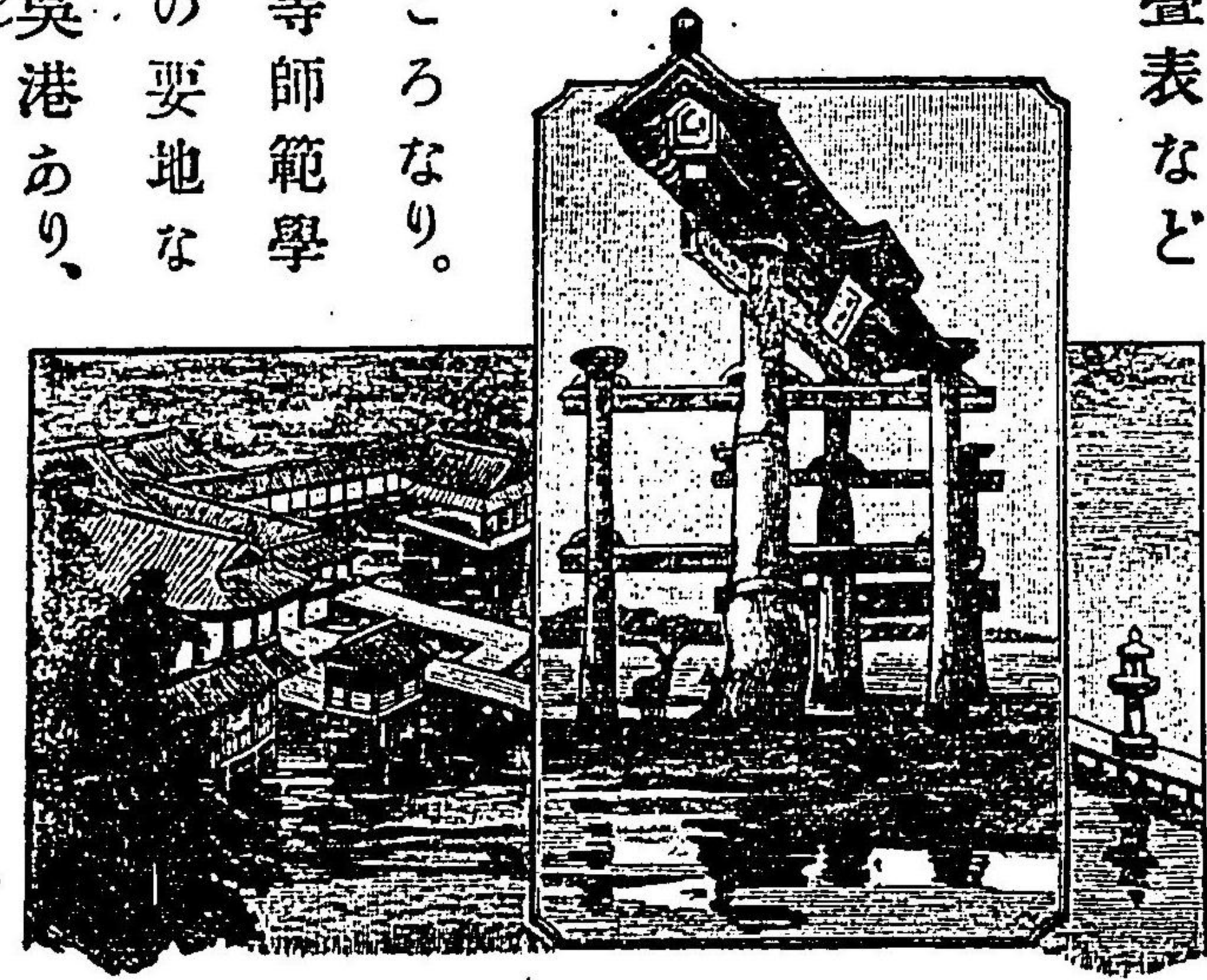
福山、尾道市

廣島市

宇品港、吳港

農産物を出だす。鐵道は福山、尾道を経て廣島を過ぐ。福山の西南に鞆、津あり、要津にて保命酒の名産あり。尾道市は瀬戸内海の要港にて、肥料、米穀、疊表などを輸出す。

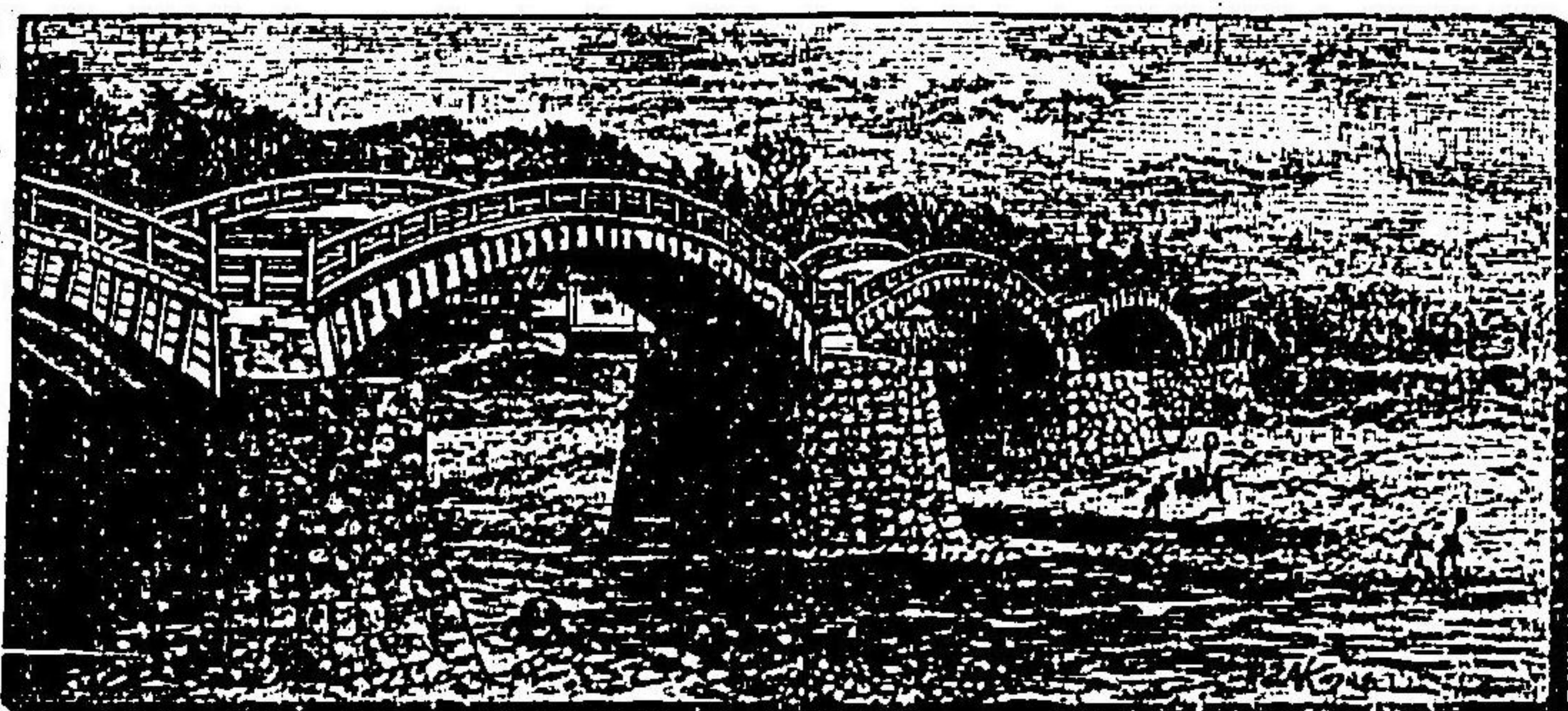
廣島市は、廣島灣頭太田川の下流にあり。人口十二萬餘、中國第一の都會なり。二十七八年の戦役には、大本營を置かせられたるところなり。廣島縣廳、第五師團、廣島高等師範學校などの所在地にて、中國の要地なり。南に宇品港あり、東南に吳港あり、



安藝ノ嚴島

嚴島

山口縣



吳は軍港にて、第二海軍鎮守府あり。その西方の海中江田島には、海軍兵學校あり、この近海には牡蠣の名産あり。

錦

江田島の西方に嚴島あり、島中の嚴島神社は、結構壯麗にて、風景絶佳、日本三景の一なり。

帯

(五)山口縣 山口縣は、本地方の西端にあり。管内山多くて平地少なく、北西南の三面海に臨みて、漁業盛んに良港多し。

橋

山陽鐵道は、東より來り、岩國、徳山、三田尻を経て、長門に入り、赤間關に達す。

岩國

三田尻

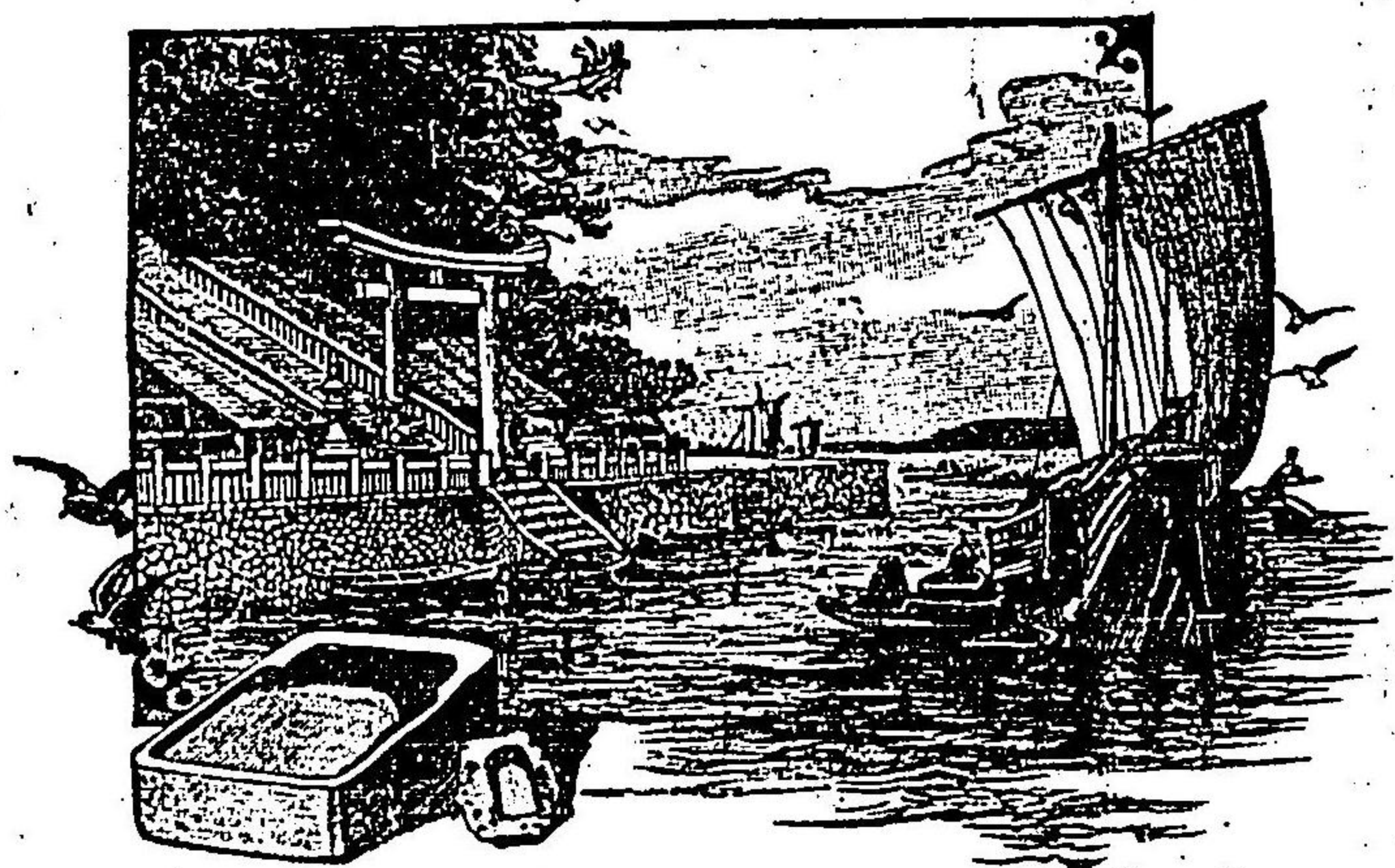
山口町

赤間關市

豊浦、檀浦

す。岩國は岩國川の下流にあり、錦帶橋と岩國縮とにて著名なり。三田尻は良港にて、また製鹽盛んなり。その西北に山口町あり、山口縣廳、山口高等學校などの所在地なり。

赤間關市は、馬關とも下關ともいふ。早瀬瀬戸を隔てて、豊前の門司港とあひ對す。この近傍より、硯石、石炭などを産す。また東方に豊浦あり、南海の檀浦は、平氏滅亡のところなり。早瀬瀬戸より東方の海を周防



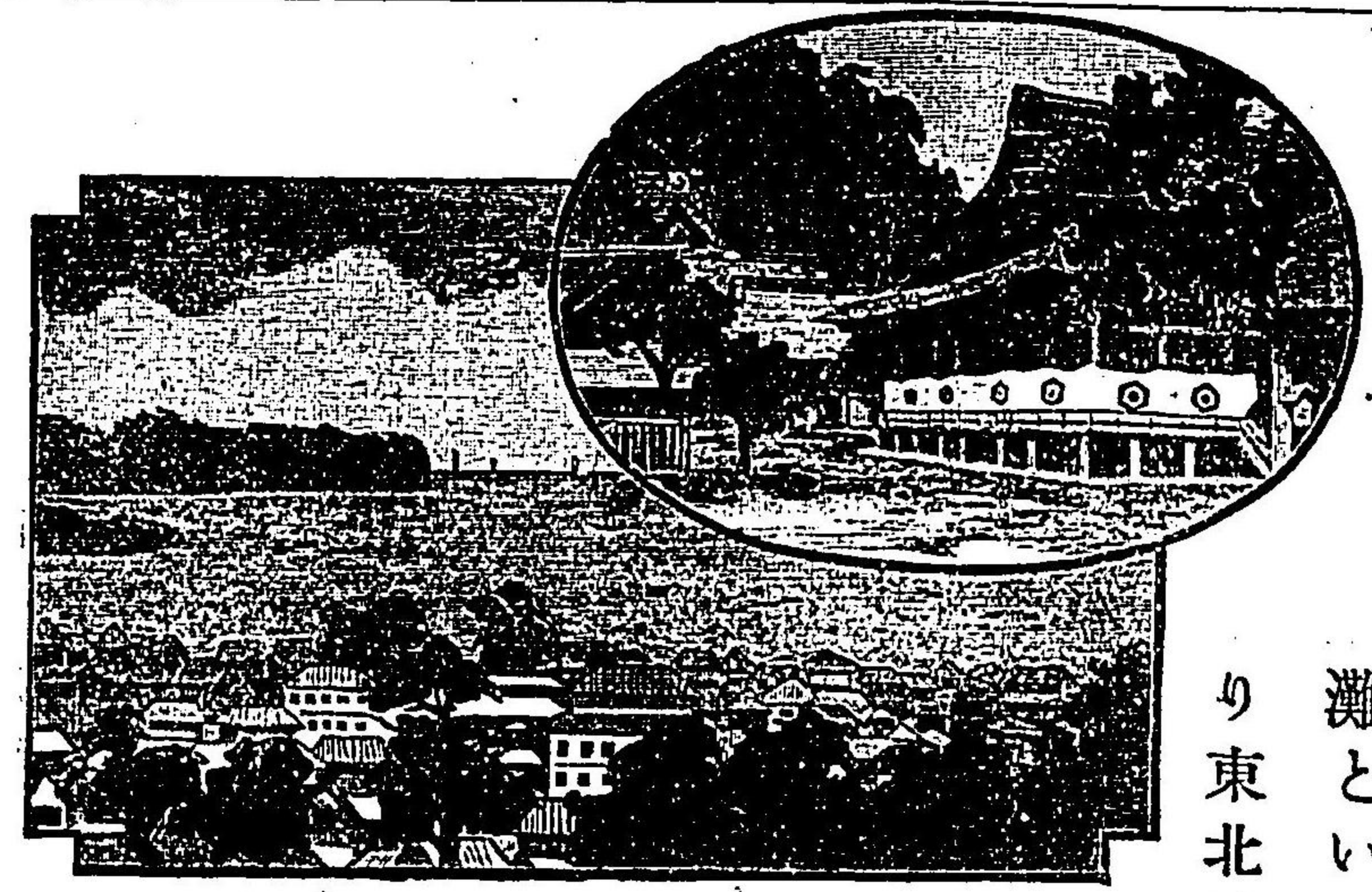
赤間關

萩町

島根縣

濱田

杵築町



灘といひ、北方の海を響灘といふ。響灘より東北は、即ち日本海にて、沿岸に萩町あり、夏橙を産すること多し。

(六) 島根縣 管内の中部および南部には、山脈東西に連れども、江川、簸川の流域には平地あり、海岸には漁業の利多し。

濱田は、開港場の一にて、石見半紙の市場なり。杵築町には出雲大社あり、大國主命を祀る。その東方に、宍道湖あり、鱸

出雲大社ト松江市街

松江市

隠岐國

西郷港

後鳥羽天皇の御製  
われこそよ  
は新島守の  
よおきの  
海のあら  
き浪風心  
鳥取縣

鰻、白魚を産す。簸川上は、叢雲の劔の古蹟なり。宍道湖の東岸には松江市あり、山陰道第一の都會にて、島根縣廳の所在地なり。その東に中海あり、その北に島根半島、西より東に出づ。

隠岐は島根半島の北方海中にあり、島後と島前とに分る。島後には西郷港あり、島前には西島、中島、知夫里島の三大島あり。中島には、後鳥羽天皇の山陵、西島には、後醍醐天皇遷幸の宮趾あり。この國は、平地少なければども材木を出だし、また漁業盛んにて、殊に錫の産多し。

(七) 鳥取縣 管内の南方と西方とには、山嶽あひ連り、大山は中國第一の高山なり。されど北方一帶海に臨み、千代川、天神川、日野川の流域などには平地ありて、綿藍などを産す。ま

後醍醐天皇  
長祿元年  
に賜ひし  
御製ひし  
わすれめ  
やよるべ  
も浪の荒  
磯をみ船  
の上にと  
めしこと  
ろを  
米子  
境港  
鳥取市

た牧牛盛んにて、海よりは白珊瑚を産す。大山の東北方なる  
船上山は、名和長年が、後醍醐天皇を奉じて義兵を擧げしと  
ころなり。  
中海に臨みて、米子あり、その東方より、夜見濱、西北に向ひて、  
突出し、島根半島に對す。北端に開港場、境港あり、更に返りて  
山陰街道を東に進む時は、千代川の下流に鳥取市あり、鳥取  
縣廳の所在地なり。

第八章

四國

香川縣 高知縣

愛媛縣 徳島縣

總説

(一)總説 四國は、中國と瀬戸内海を隔てて南方にあり、四  
周みな海をめぐらし、北海岸は出入甚だ多し。まづ東北方、淡

地勢

路との間の鳴戸海峡を西に出づれば、讃岐の海岸にて、海中  
にふくれ出で、西方に箱崎突出す。伊豫の北岸は、凸字形をな  
し、中央に高繩半島突出し、その東方は、燧灘にて、西方は、硫黄  
灘なり。また西方に長く突出するは、佐田岬にて、九州の地藏  
岬とあひ對し、その間を速吸海峡といふ。これより南は、海岸  
の出入多く、海中の日振島は、天慶の亂に、藤原純友の據りし  
ところなり。土佐は、南方に大灣を抱き、兩端に岬あり、西を蹠  
踏岬といひ、東を室戸岬といふ。室戸岬より、海岸、北東に折れ  
て、阿波の蒲生田岬に至り、更に北方に向ひて、鳴戸海峡に至  
る、海岸は概ね砂濱なり。  
四國山脈、東西に連亘して、地勢を南北に分つ。されば、河流は、  
多く南北に流るれども、阿波の川は、東に流る。全體よりいふ

河流	氣候	産物	香川県	高松市	丸龜市
時は、山多くて平地少なく、内地の交通不便なり。河流にては、吉野川、仁淀川、渡川、肱川など大なり。	氣候は一般に温暖なり、南海岸は、わが國多雨の一地方なれども、北海岸には雨少なし。平地には農産物多く、海岸には漁業盛んに行はれ、殊に瀬戸内海沿岸の製鹽と土佐の鱧珊瑚とはいづれも名高し。		(二)香川県 本縣は、南方に山脈を貫ひ、その他は、瀬戸内海に濱す。海上に島嶼散布し、小豆島最も大なり。平地には、盛んに甘蔗を植ふ、砂糖を製し、海岸には、魚鹽の利多し。	高松市は、香川県廳の所在地にて、その東方の屋島は、源平の古戰場なり。また西方の白峰には、崇徳天皇の陵あり。讚岐鐵道は、高松より西に走り、丸龜市を経て多度津に至る。善通寺	

善通寺 多度津 琴平町 金刀比羅宮 愛媛縣



田鹽ト社神羅比金

子の西北には、市川、鑛山ありて、安質母尼を産す。また沿海の

は、弘法大師の生れし地なりといふ。今、第十一師團あり。多度津は、良港にて、船舶常に出入す。その東南に琴平町あり、鐵道、多度津より通ず。町の西方象頭山には、金刀比羅神社あり。

(三)愛媛縣 管内中央の石槌山は、四國第一の高峰なり。その東方に別子、銅山あり、産額の多きこと足尾に次ぐ。別



松山市

三津ヶ濱

今治

八幡濱、  
宇和島

高知縣

高知市、  
浦戸港

須崎

各地には魚鹽の利多し。

松山市は愛媛縣廳の所在地にて、伊豫綿を産す。鐵道にて、三津濱および道後の温泉に達す。松山より土佐の境に至る山地より、伊豫簾を産出す。高繩半島の東岸に、今治あり、米、木綿などの集散地なり。また佐田岬の南方には、八幡濱および宇和島あり。八幡濱は九州に渡る要港にて、宇和島は大阪と定期航海あり、この近傍より半紙を産出す。

(四)高知縣 管内西北は山地なれども、南方沿海の地には平野ありて、農産物を出だす。海岸は良港に乏しく、かつ風波荒し。

高知市は高知縣廳の所在地にて、その南に浦戸港あり。高知附近より、土佐半紙を産出すること多し。浦戸の西南に須崎

中村

徳島縣

徳島市



鯨 捕

中村あり。蹉跎岬近傍にては鯨を捕へ、室戸岬近傍よりは珊瑚を産し、その他漁業盛んにて、殊に土佐節の名高し。

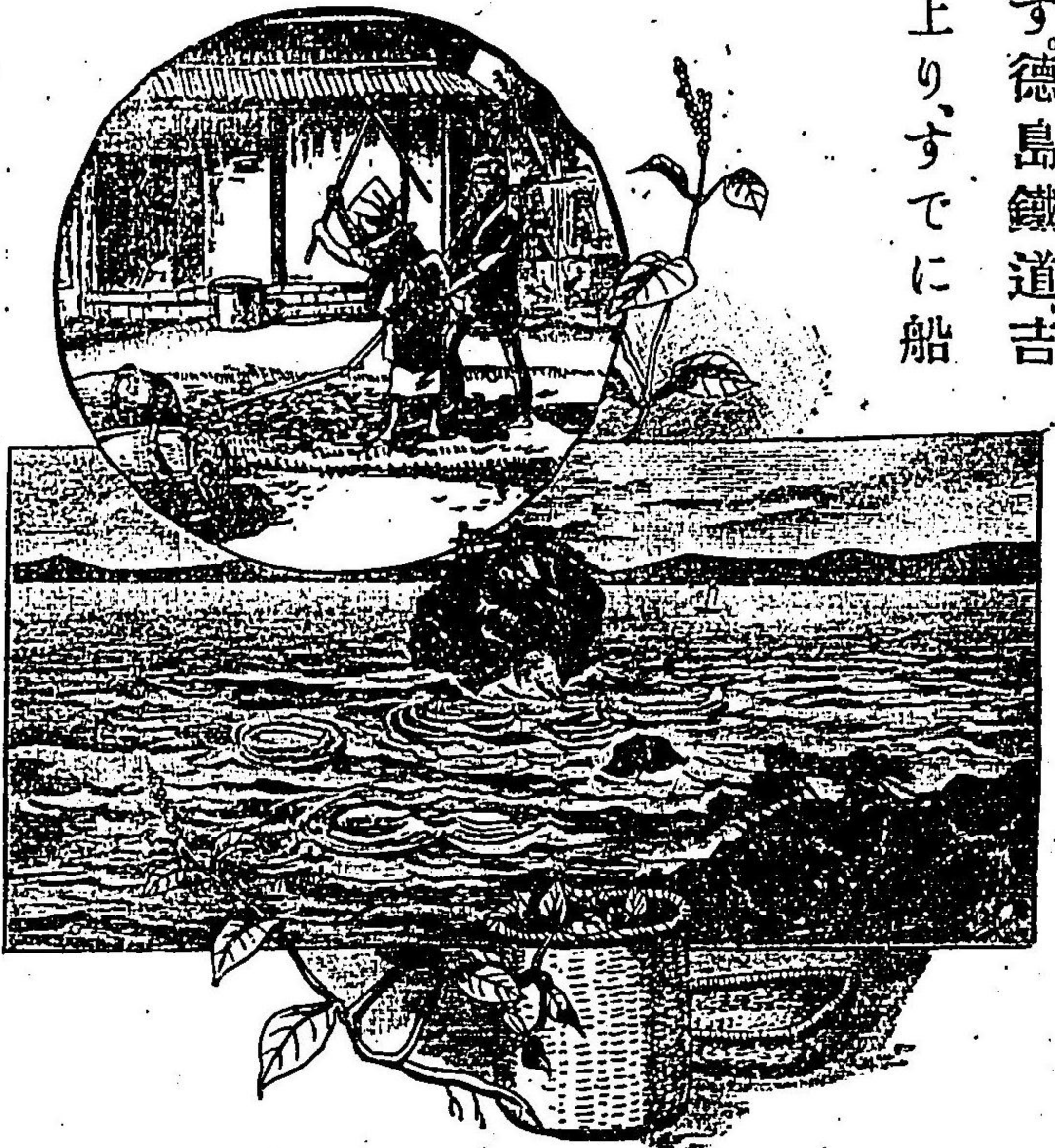
(五)徳島縣 本縣は四國の東部にあり。吉野川と那賀川との流域に平地あり。殊に吉野川沿岸は、有名な

藍の産地なり。また那賀川の沿岸地と共に、砂糖を産出す。海岸の地方には魚鹽の利多し。

吉野川の河口に徳島市あり。徳島縣廳の所在地にて、絨織綿

池田

フランネルを産す。徳島鐵道吉野川に沿ひて上り、すでに船戸まで成れり。後には伊豫讚岐および土佐に達せむ。豫定なり。吉野川の上流に烟草の産地なる池田あり、その東南祖谷の谿谷ありて、祖谷川流れ、蔓橋の奇あり。



藍 ト 門 鳴

撫養  
小松島  
富岡

徳島の北方に撫養あり、この近傍は、齋田鹽の産地なり。また徳島より南方に、小松島、富岡の名邑あり。近海は、漁業盛なり。

總説

海岸

第九章 九州及沖繩

福岡縣 佐賀縣 長崎縣 熊本縣  
鹿兒島縣 宮崎縣 大分縣 沖繩縣

(一) 總説 九州は、四國の西方にありて、本島と多くの屬島とより成り、中國と早瀬、瀬戸を隔つ。瀬戸を西に出づれば、波荒き立界灘なり。總じて九州の北および西海岸には、出入最も繁く、島嶼最も多し。博多灣、唐津灣、伊萬里灣、大村灣、筑紫瀨などあり。松浦半島、彼杵半島、島原半島、その間に突出して、良港多し。肥前の西北方海上に、壹岐對島の二島あり、對島は朝

鮮半島に對し、その間を朝鮮海峽といふ。

地勢 肥後の内海岸には、宇土半島あり、前面に天草島横はる。南部には薩隅半島あひ並び、中に鹿兒島灣を抱き、近海に屬島多し。日向の海岸には出入少なく、その海を日向灘といふ。これより以北の海岸には出入多く、國東半島は大分灣をいさぐ。九州には、北部山脈、南部山脈、および阿蘇火山脈、霧島火山脈ありて、高山峻嶽多く、殊に中央は、山最も深くして、おのづから分水界をなし、河水は東西南北に流る。さて川の北に流るるものには、遠賀川あり、西に流るるものには、筑後川、白川、球摩川、川内川あり、東に流るるものには、大淀川、高鍋川、美美津川、五個瀬川、大野川などあり。

河流 河の流域には平地あり、殊に肥筑の平野は、地味肥えて良米

産物

氣候

を産す。その他、甘藷は各地に産し、烟草および甘蔗は、南部地方に産し、海濱には、漁業盛んなり。氣候は一般に溫暖にて雨量は多し。

九州の西南に、琉球群島あり、臺灣近海にまで及ぶ。沖繩縣にて管す。大抵山地なり。

福岡縣

(二)福岡縣 管内中央より東南部には山多く、英彦山最も著はる。その他には平地ありて、都邑多く、鐵道縱横に通じ、交通便利なり。

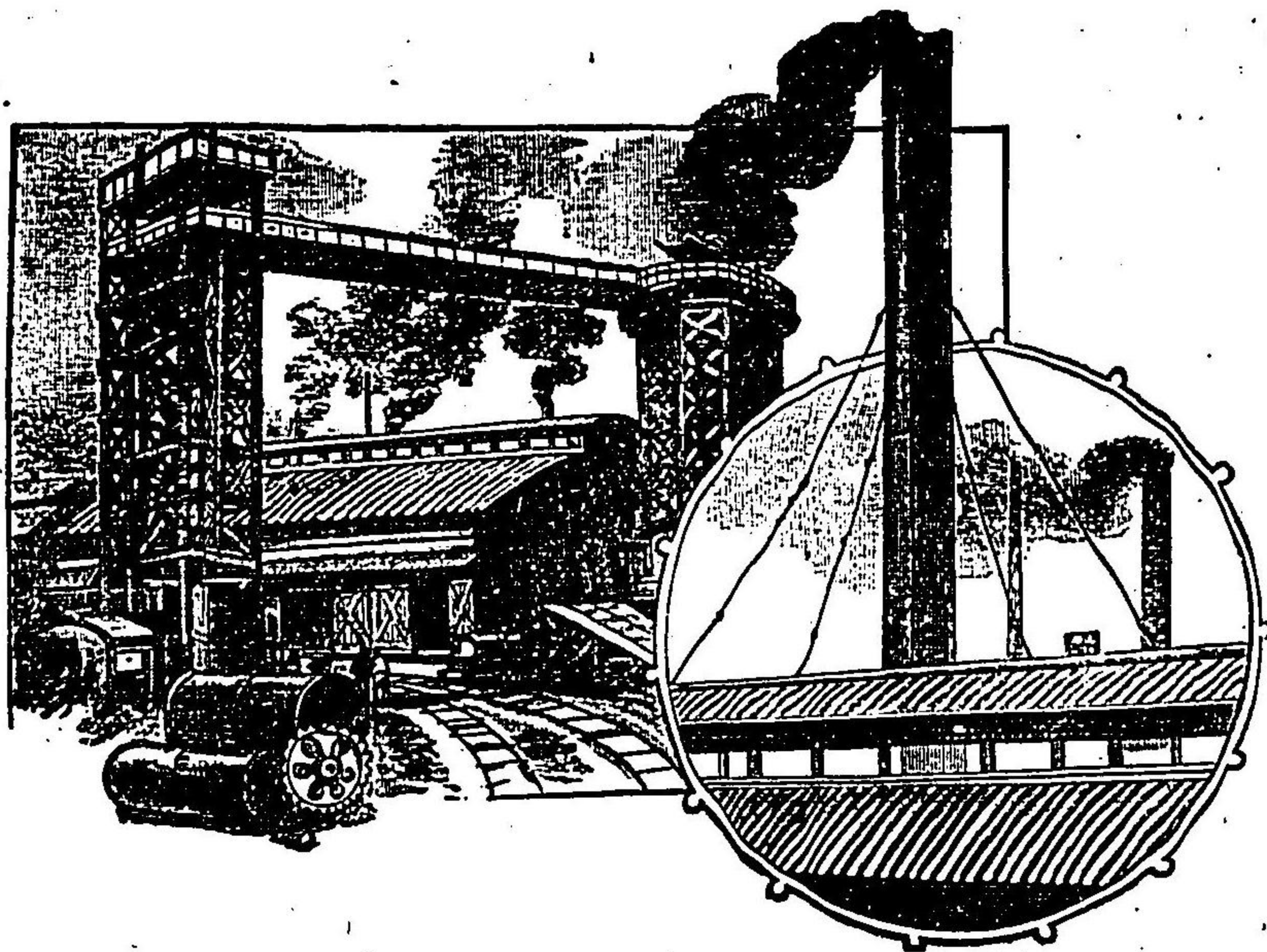
門司市

門司市は、赤間關と對し、瀬戸内海の咽喉にて、開港場たり。九州鐵道ここに起り、小倉を経て、博多に至り、更に南に走りて二線に分る。一は西に向ひて佐賀縣に入り、一は南に走りて熊本縣に入る。

小倉市

若松港

福岡市



小倉市は、小倉織の産地にて、また第十二師團あり、小倉の西北海岸に若松港あり、ここより筑豊鐵道南に向ひ、九州鐵道を横ぎりて、炭坑地方に通ず。福岡市は、福岡縣廳の所在地にて、もとの福岡、博多の兩市街を合せたるものなり。故に港を博多と云ひ、開港場の一なり。この地より、有名な

香椎宮

箱崎神社

太宰府町

久留米市

柳河

る博多織を出だす。福岡の北方に、香椎宮、および箱崎神社あり、また南方に、太宰府町あり、古の太宰府のありし地にて、太宰府神社には、菅原道眞を祀る。久留米市は、久留米緋にて聞え、その西南に柳河あり、肥後の境に有名なる三池の炭山あり、その西海岸の



太宰府天満宮と箱崎宮

大牟田

大牟田は、石炭を積み出だす要港なり。また小倉より豊州鐵道、東海岸に沿ひて、東南に走り、大分縣に入る。

佐賀縣

(三)佐賀縣 本縣は、南および北の一部は海に臨み、北西部には山嶽多く、東南部の筑後川の流域、および沿海の地に平野ありて、米麥を産す。

佐賀市

九州鐵道は、鳥栖にて長崎線を西に出だし、佐賀、有田などを經て、長崎に達す。佐賀市は、佐賀縣廳の所在地にて、有田は、有名なる有田燒の産地なり。また唐津鐵道分れ出で、唐津燒の産地たる唐津に達す。ここは開港場の一なり、近傍より石炭を産す。その西北の名護屋は、豊臣秀吉征韓の時に陣營を設けしところなり、また有田より鐵道支出して、伊萬里に至る。

唐津

名護屋

伊萬里

伊萬里は、陶器を輸出するところなり。

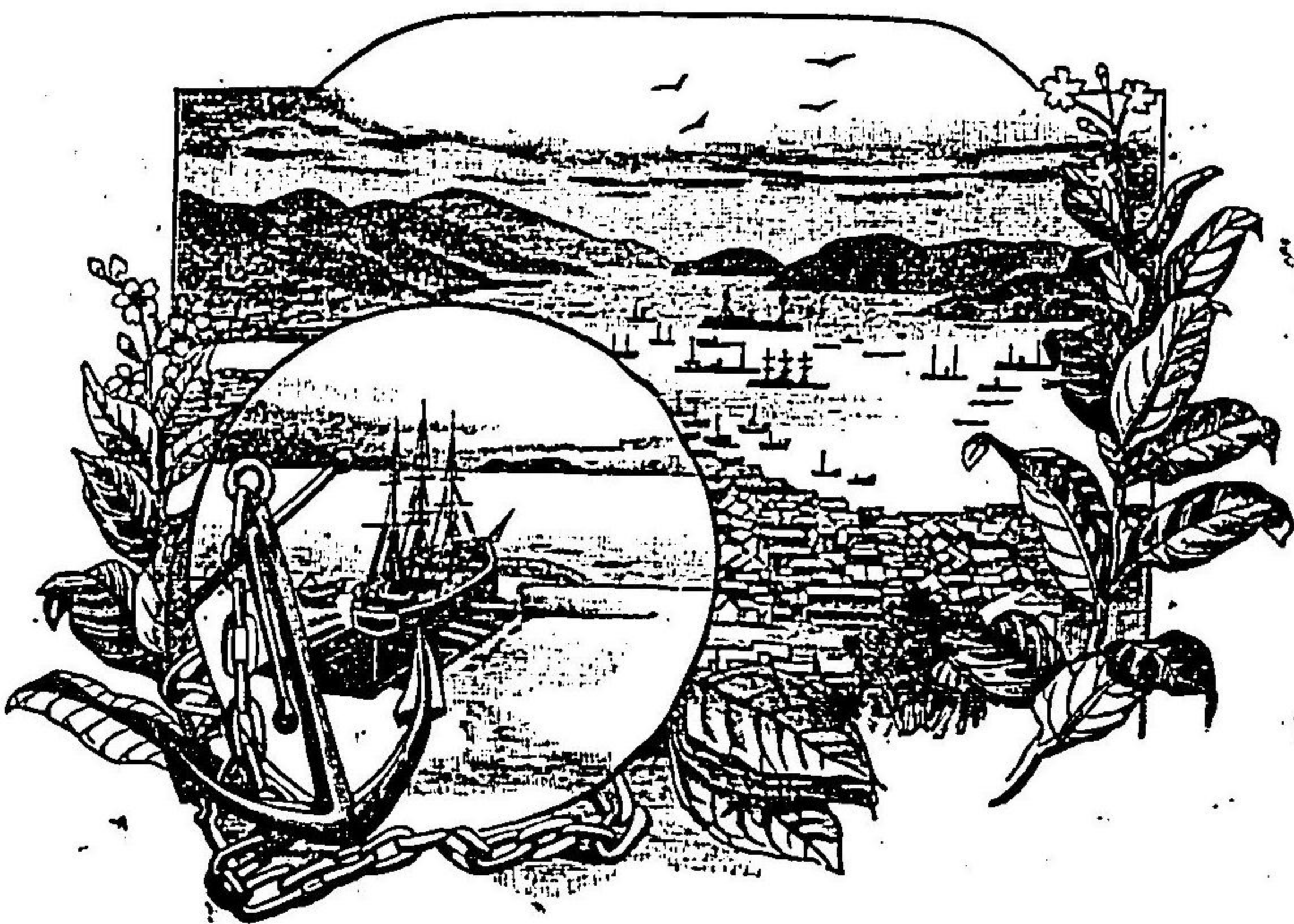
長崎縣

伊萬里は、陶器を輸出するところなり。

(四)長崎縣 管内到るところに山ありて、平地少なく、殊に島原半島には、温泉嶽といふ火山あり、海岸の港出入甚だ多く、從ひて良港に富み、漁業の利多し。

佐賀鐵道は、有田を過ぎて後、南世北に分れ、北すれば佐世保に至り、南すれば大村を過ぎて長崎に至る。佐世保は、軍港にて、第三海軍鎮守府

佐世保



平戸

あり。その西北の平戸島の東北岸に平戸港あり、始めてホルトガル人と貿易せし地なり。

長崎市

長崎市はもと五港の一にて、徳川氏初世の時より、外國貿易場たり。今は人口殆ど十一萬あり、九州第一の都會にて、長崎縣廳の所在地なり。その西南海中の高島よりは、良質の石炭を出だす。島原半島の南端なる口津も、開港場にて、石炭を輸出す。西方にある五島にては、鯨を捕へ、鰯を産す。

口津

壹岐國

壹岐は、僅に八方里の小島なり。郷浦勝本は、島中の名邑なり。

對馬國

對馬は、上島下島の二島より成る。鹿見佐須奈嚴原の三開港場あり。嚴原には、島司廳および警備隊を置く。

熊本縣

(五)熊本縣 本縣は、北東南の三方は山嶽に圍まれ、阿蘇山常に烟を吐く。西方は内海に臨み、沿海の地および菊池川白

熊本市



熊本市 阿蘇山 噴火口

川・緑川の流域には平野ありて、肥後米を産し、また粟・麥などを産す。

鐵道は北より來り熊本市に達す。熊本市は白川の下流地にあり、熊本縣廳第六師團第五高等學校などあり。その城は、加藤清正の築きしものにて、明治十年の役、谷干城の籠城せし所なり。北方の田原坂山鹿などは、この時に激戦ありし地なり。菊池川の上流に、

菊池神社

隈府あり、その菊池神社には、南朝の忠臣菊池氏を祀る。

八代

鐵道にて南すれば八代に達す。今はなほ延長して、鹿兒島に

三角

至る線路の工事中なり。宇土半島には支線ありて、開港場の

人吉

一なる三角に通ず。天草諸島は、上島下島に分る。初秋の際、近

五箇ノ莊

海上に火光を見ることあり、これを不知火といふ。

鹿兒島縣

球摩川は急流にて、その中流に人吉あり、上流に五箇莊あり、

平家の隠れしところなりといふ。

鹿兒島市

(六)鹿兒島縣 本縣は、九州の南部にあり。管内には、山嶽多

く平地少なし。鹿兒島灣内に櫻島あり、島内より蜜柑・大根を

産す。灣口の西に開門岳あり、薩摩富士と稱す。

城山

八代より九州街道を來る時は、川内川を渡り、鹿兒島市に至

る。市は、鹿兒島灣に臨み、本縣廳の所在地なり。近傍の城山は、

谷山

西郷隆盛の戦死せしところなり。薩摩緋烟草竹細工などを産す。鹿兒島の南に谷山あり、錫馬を産す。南部の海濱には名

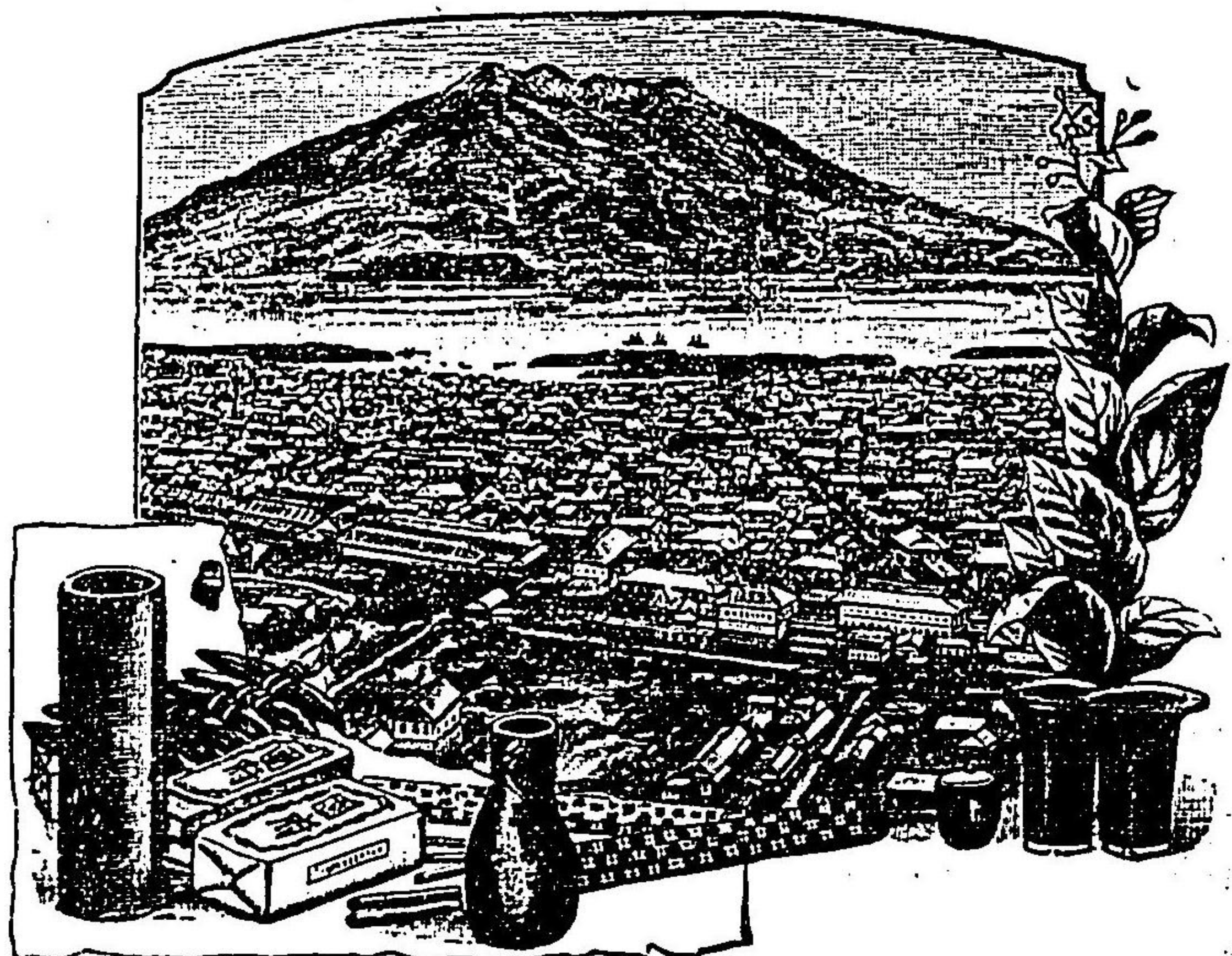
高き薩摩節の産地あり。鹿兒島市より北東に、加

治木を経て烟草の名産地なる國府に至る鐵道

あり。これより八代に至る線路は、今工事中なり。

管内各處より、烟草・黄金・甘藷を産出す。

國府



鹿兒島市街ヨリ櫻島ヲ望ム

薩南諸島  
宮崎縣



西方には甌島あり、南西にはホルトガル人の始めて鐵砲を傳へし種子島、鯉節の産地たる屋久島、七島表を出だす川邊十島、砂糖と紬とに名高き大島、諸島などあり。これを總稱して薩南諸島といふ。

鹿兒島縣下ノ物産  
(七)宮崎縣 本縣は、上古、皇孫瓊杵尊降り給ひ、神武天皇も東征の途に上り給ひし地方なれば、神代の遺跡甚だ多し。管内山多け

都城  
宮崎、高鍋、延岡  
細島  
大分縣  
大分町  
宇佐

れども諸川の流域には穀野あり。鹿兒島縣の境に霧島山といふ、名高き火山あり。

加治木より國道を東する時は、都城をへて、大淀川の下流の宮崎に至る。宮崎縣廳の所在地なり。それより北方に高鍋、延岡などの名邑あり、延岡の南方なる細島は、九州東岸唯一の良港にて、大阪との間に定期航海あり。

(八)大分縣 管内は大野川の流流、および沿海に平地あれども、西方一帶山多し。豊後の南西境に祖母嶽あり、國東半島に文珠嶽あり、その西南に豊後富士の稱ある由布嶽あり。

大分町は、大分灣の南岸にあり、大分縣廳の所在地なり。その東方に佐賀關あり、南すれば臼杵、佐伯ありて、魚鹽の利あり。また大分の西方に別府の溫泉あり、豊前に入りて宇佐あり。



中津

沖繩縣

琉球

沖繩群島  
那覇區



も多し。沖繩群島、先島群島の二に分つ。  
沖繩群島の主島を沖繩島といふ。島の南西岸に那覇區あり、

五十餘島羅列す、これを總稱して琉球といふ。島内、山多けれども氣候溫暖にて、草木茂り、また海産物

その八幡宮は、古より著名なり。中津は、山國川の河口にあり、上流に耶馬溪の奇景あり。  
馬溪 (九) 沖繩縣 薩南諸島より、西南の方、臺灣近傍に至るまで、大小

管内第一の都會にて、人口三萬五千、沖繩縣廳の所在地なり。

首里區  
運天港  
先島群島



琉球ノ風俗

港は、水淺くて大船を入るること能はざれども、開港場にて、船舶常に出入す。緋上布、泡盛、漆器などを産出し、また砂糖の市場なり。那覇の東方一里に首里區あり、北方に運天港あり。

先島群島を、宮古群島、八重山群島の二に分ち、宮古島、石垣島、入表島の三は大いなり。

産物

琉球人は甘藷を常食とす。米は耕作に適せず。産物には甘藷、  
紬、木綿、絹、上布、芭蕉布、泡盛、疊表、砂糖、漆器などあり。

第十章 北海道

總説

(一) 總説 北海道とはわが國の最北にありて、本島と千島  
列島とを合せたる稱なり。本島は殆ど斜方形をなし、東端と  
西南とには出入多かれども、その他の海岸には少なし。陸奥  
の青森より津輕海峽を渡れば、函館灣に入り、函館港に達す。  
函館灣の左右に半島あり、東端を惠山岬といひ、西南端を白  
神岬といふ。それより西北に廻り、奥尻島を見て、なほ北に進  
むときは、積丹半島に至る。その端に神威岬、積丹岬あり、その

海岸

東北は石狩灣なり。

本島の最北端を宗谷岬といひ、宗谷海峽を隔ててカラフト  
島とあひ對し。日本海とオホク海とを分つ、その西方には禮  
文島、利尻島あり。オホク海の海岸には殆ど出入なく、ただ海  
岸に猿間湖、網走湖など多し。知床半島は東北に突出し、根室  
海峽を隔てて、千島の廻後島に對す。またその南は根室灣に  
て、根室半島突出し、その端を納沙布岬といふ。これより南岸  
は厚岸灣を除きては、襟裳岬をへ、繪鞆岬に至るまで、平直に  
て出入なし。繪鞆岬の西方の灣入を、噴火灣といふ。

地勢

蝦夷山脈は樺太より來り、宗谷岬より南東に走りて、襟裳岬  
に達し、千島火山脈は、千島列島より本島に入り、蝦夷山脈と  
十字形にあひ交はり、遂に噴火灣に達す。この兩山脈は、分水界

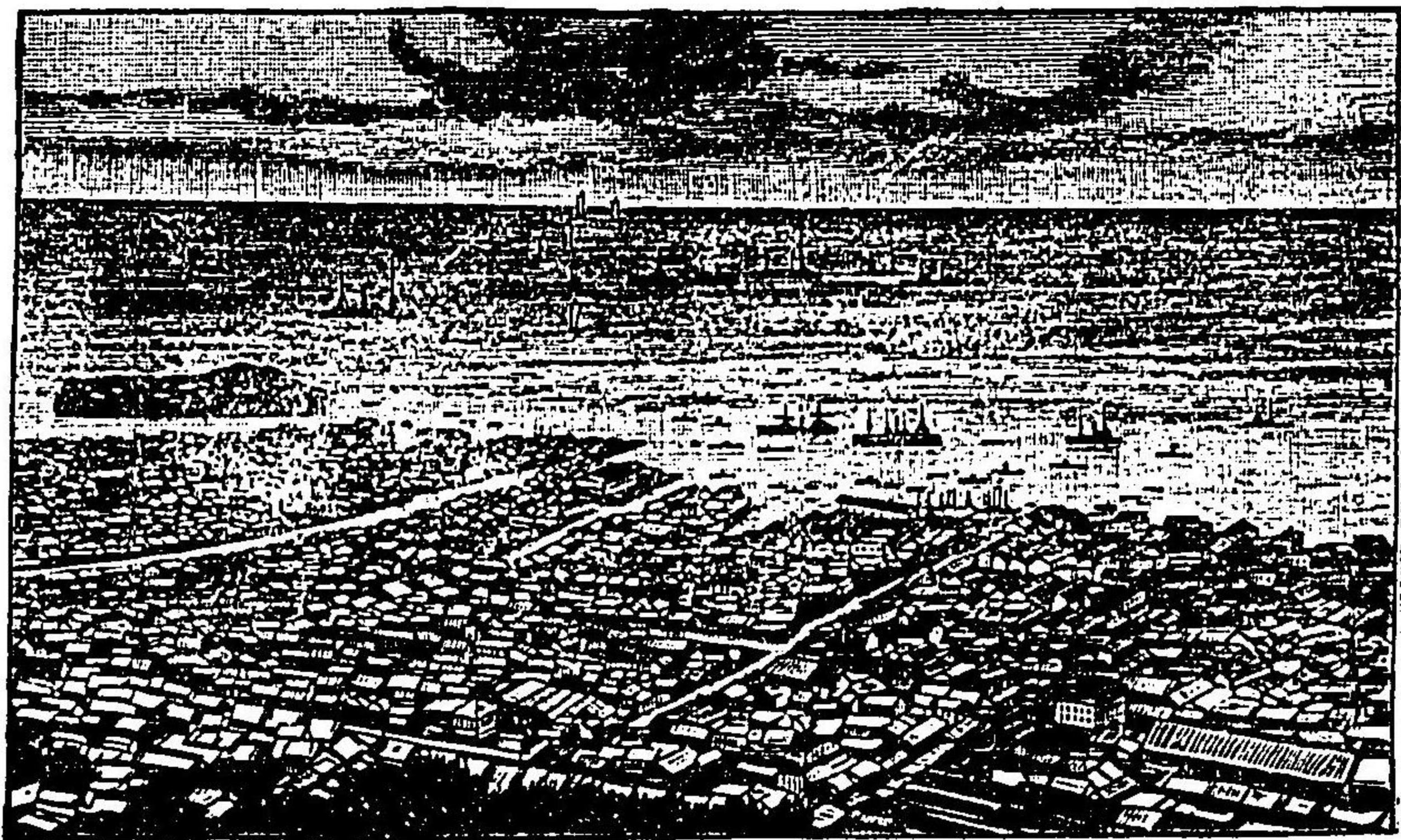
千島 河流 氣候 産物

をなし、河水は東西南北に走る。中央は、地勢最も高峻にて、石狩嶽、十勝嶽などの高峯あり。中央より、西北の蝦夷山脈中に、天鹽嶽、宗谷嶽などあり。東方の千島火山脈中に、雌阿寒嶽、雄阿寒嶽あり。西南には、夕張嶽、有珠嶽、後方羊蹄山などあり。また噴火灣の南岸に、駒嶽、惠山などあり。

河流の大なるものには、石狩川、天鹽川、十勝川などあり。その流域には、平野ありて、地味肥え、耕作に適す。本道の氣候は寒冷なれども、川と海とには、漁業の利多く、鮭、鱒、鱈、鱚、混布、および鯨、海豹、獺、虎、膾、豚、臍などを漁獲すること甚だ多し。農産物にては、馬鈴薯、麥、豆などにて、山林より木材を出だし、鑛物には石炭を出だすこと多く、また各地に牛馬を牧養す。

千島は、根室の東北海上に列れる大小三十餘島の總稱なり。

北海道廳 三區、十八支廳 函館區 渡島區 五稜廓



函 館 港

(二) 北海道廳 北海道は、北海道廳にて管し、その下に三區十八支廳あり。三區とは、函館、小樽、札幌にて、府縣の市の如く、支廳は各地にありて、恰も府縣の郡役所の如し。

函館區は、北海道第一の都會にて、人口七萬あり、港内水深くて、大船を泊し得べし。もと五港の一にて、貿易繁昌なり。東北の五稜廓には、製氷盛んなり、この近傍は戊辰戦争の

福山 江差 後志國 壽都、岩 小樽區 石狩區 札幌區 鐵道

時、榎本録二郎らの據りしところなり。函館には、また函館支廳あり。白神岬の西方に、福山あり、もと松前といひ、今、松前支廳あり。福山の北方江差には、檜山支廳あり。後志に入りて、壽都、岩、内、いづれも支廳あり。北岸に小樽區あり、開港場の一にて、小樽支廳あり。炭鑛鐵道にて、石狩の札幌區に至る。札幌區には、北海道廳、および札幌農學校あり、また麥酒の製造所あり。鐵道にて、空知支廳のある岩見澤に至れば、鐵道三方に分れ、一は幌内炭山、幾春別炭山に至り、一は北して砂川に向ひ、一は南して膽振の室蘭に至る。砂川より東に一支線を出だし、歌志内炭山に至る。官有鐵道は砂川より始りて北東に走り、旭川に至りて、二線に分れ、一は天鹽川に沿ひてその河口に達せむとし、一は十勝川に沿ひて十

天鹽國 増毛港 天鹽 北見國 枝幸、網走 根室國 根室港 花咲港 釧路國 厚岸港 釧路港

勝に入らむとす。旭川は離宮豫定地のあるところにて、その近傍に第七師團設けらる。天鹽の南部に増毛港ありて、増毛支廳あり。北部天鹽川の河口に、天鹽あり。北見の海岸は、冬季に至れば、氷りて船を通ずること能はず。海岸に枝幸、網走あり、枝幸には、近年、砂金の發見せられて、來り集るもの多く、網走には支廳あり。根室の海岸は出入多く、根室灣の根室港は、千島に渡る要港にて、根室支廳あり。その反對の海岸に花咲港あり。釧路の厚岸灣に臨みて、厚岸港あり。釧路川の河口なる釧路港は、開港場の一にて、また支廳あり。釧路より白糠まで鐵道の設あり。旭川より來る十勝線と連絡せむとする計畫なり。その北境に釧路湖あり、その東方より硫黃を産出す。

日高國

日高の沙流川の沿岸には、北海道の土人アイヌの村落多し。

膽振國  
室蘭港

膽振の室蘭は開港場の一にて、室蘭支廳あり、また第五海軍鎮守府を開かるべき指定地なり。

鐵道はこの地より東北に走り、

追分にて支線は夕張炭山

に至り、本線は岩見澤に至

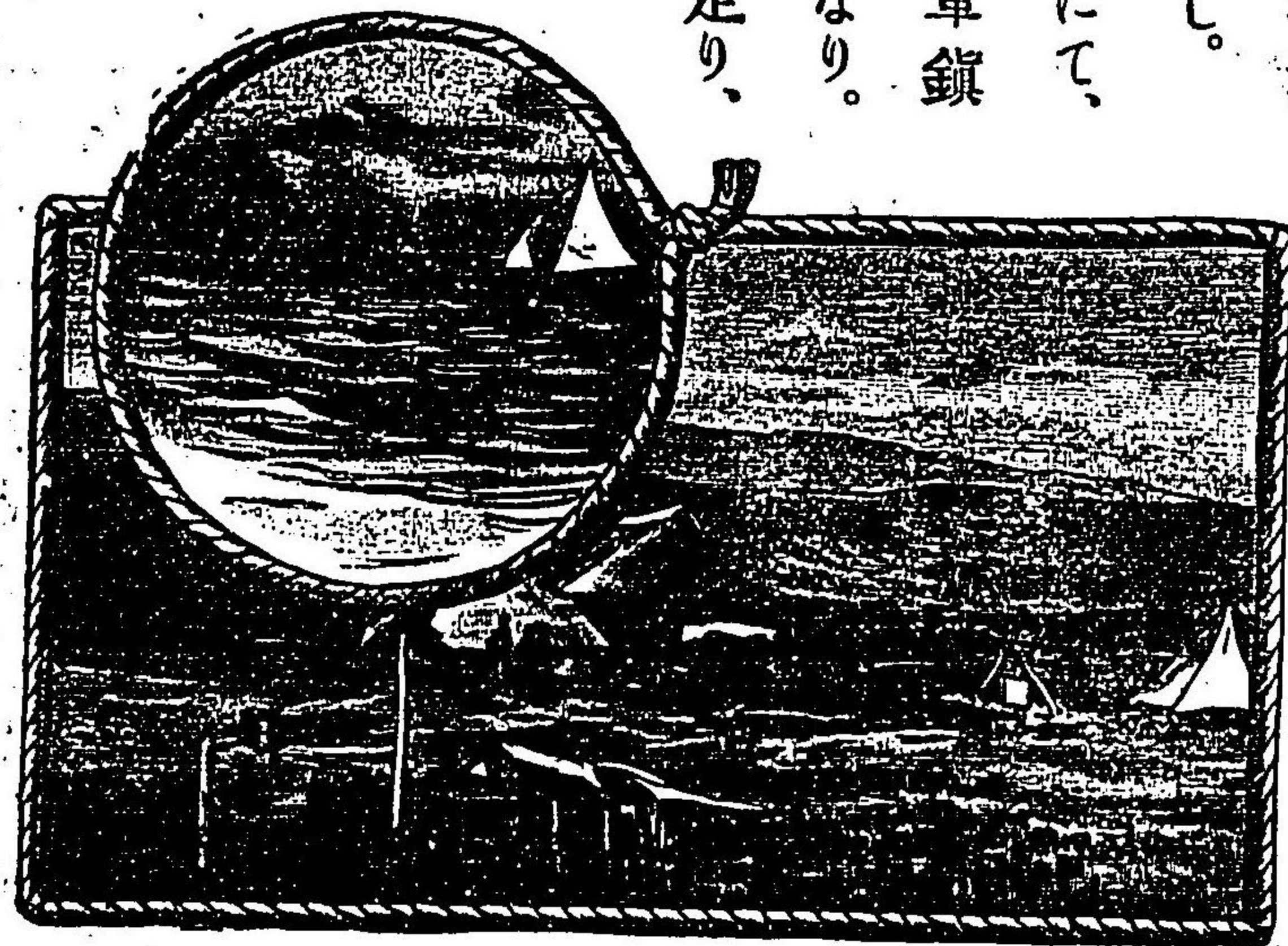
る。これらの鐵道は、みな炭

鑛鐵道なり。

千島列島

千島列島は、明治八年、露西

亞と條約を結び、樺太島と



占守島

交換したるものなり。全島みな火山脈にて、平地少なく、海岸波荒くて良港なし。されど、近海漁業の利甚だ多し。國後、擇捉、得撫、幌筵などは、列島中の大なるものにて、擇捉島には紗那支廳あり、占守島は最東北にあり、報效義會の人々、この島に移住せり。

第十一章 臺灣

總說

臺灣の略史

(一)總說 臺灣は、琉球の西南にあり、臺灣海峽を隔てて支那と對す。もと清領なりしが、明治二十七八年戰役の結果、臺灣本島および澎湖列島などを合せて、全くわが領地となりぬ。

海岸

臺灣島は、恰も馬鈴薯の如き形をなし、その廣さは九州より少しく小なり。海岸には出入少く、最北端を富貴角といひ、その東南に三貂角あり、東海岸は、一帯に斷崖にて、直立五六千尺に及ぶところあり、最南端を南岬といふ。西海岸は、多く沙濱にて、北海岸には良港あり。

地勢

臺灣の中央より、やや東方に寄りて、新高山脈南北に連亘し、處處に高峯聳ゆ。新高山は直立一萬三千尺ありて、日本第一の高山なり。この山脈にて、地勢を東西に分ち、東部には山多く、西部には平野南北に連る。河流の大なるものなく、北部の淡水河を第一の大河とし、下流には小蒸氣船を上下せしめ得べし。その他、西部に大甲溪、大肚溪、東部に卑南溪、花蓮溪などあれども、水少なくて運輸の利なし。

河流

氣候

産物

住民

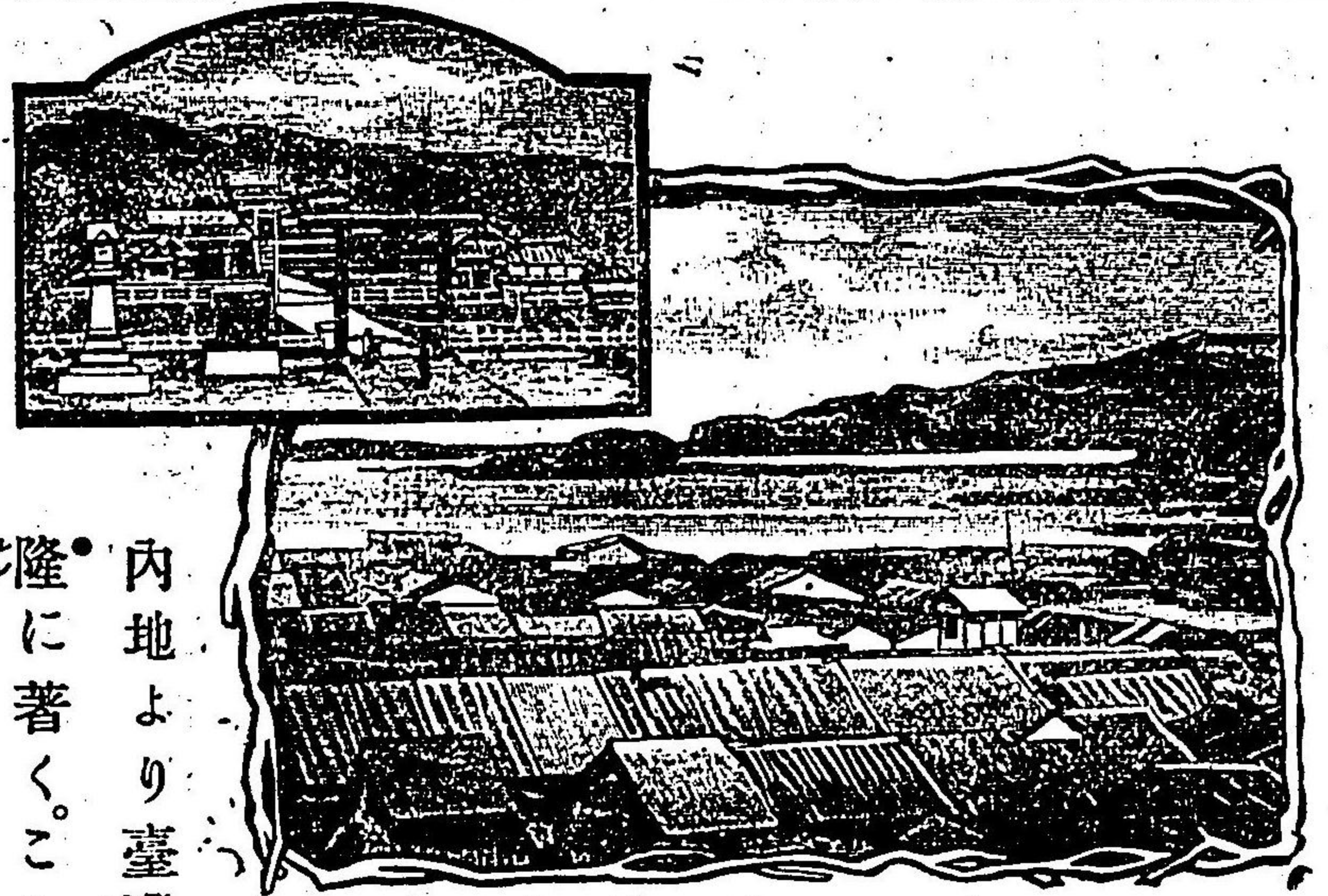
氣候は暖熱にて、南部は熱帯に入り、暑氣強し。夏季には、西南風と共に、急雨の來ること多く、夏秋の際には颶風あり。地味肥え、農産物多く、米は一年に二回又は三回收穫し得べし。米の外に、茶、甘蔗、甘藷、麻などに富み、山中より良材を出だし、北部には樟樹多くて、樟腦を産出す。また、鑛物に富み、石炭、石油、硫黄、砂金などを出だし、海岸にては鹽を製す。

臺灣には、支那人種と、蕃人との二



臺灣總督府

基隆  
臺灣總督府



基隆港と臺灣神社

種あり。蕃人に生蕃と熟蕃とあり。熟蕃は、やや開けたるものにて、支那人等と業を共にし、生蕃は、兇暴にて、東部山中に住む。されど、今は次第に皇化を蒙る。

(二) 臺灣總督府 臺灣には、臺灣總督府ありて、全地を管し、その下に二十廳を置きて、各地方を治めしむ。

内地より臺灣に至る船は、多く北東岸の基隆に著く。ここには、基隆廳あり、また開港場

臺北  
淡水港  
新竹  
舊港  
臺中、彰化、嘉義、臺南  
鹿港

の一にて、近傍より産出する石炭を輸出す。鐵道は、この地より起りて西に向ひ、臺北を経て苗栗に達し、また南方打狗より起りて嘉義に達す。

臺北は淡水河に沿ひ、臺灣總督府の所在地にて、臺灣第一の都會なり。その附近に艋舺および大稻埕あり、いづれも商業盛んにて、大稻埕は製茶にて著名なり。また臺北の西北、淡水河の河口に淡水港あり、開港場の一にて、茶、石炭、樟腦などを輸出す。臺北との間に鐵道あり、新竹には、新竹廳あり、その近傍の舊港は、開港場の一なり。

新竹の西南に苗栗ありて、樟腦を産し、その西南には臺中、彰化、嘉義、臺南等あり、いづれも同名の廳を置く。彰化の西方にある鹿港は、開港場の一なり。臺南は、久しく臺灣の首府たり

安平港	鳳山	打狗港	恆春	臺東	宜蘭	澎湖列島	媽宮港
-----	----	-----	----	----	----	------	-----

しところにて、歴史上の關係多く、今も人口四萬五千あり、南部商業の中心たり。その西方の安平港は、開港場の一にて、砂糖・樟腦などを輸出すること多し。更に南方の鳳山には鳳山廳あり、砂糖を製すること甚だ盛んなり。西方の打狗港は、開港場の一にて、砂糖を輸出すること多し。南端に恆春ありて、恆春廳の所在地なり。

東部は、生蕃の住地にて、臺東の臺東廳あれども、この地方の状況は、いまだ詳に知ること能はず。更に北方に至れば、宜蘭廳の所在地、宜蘭あり、この附近は平野にて、熟蕃住居す。

澎湖列島にては、澎湖島・白沙島・漁翁島最も大なり。澎湖島には、澎湖廳のある媽宮港ありて、開港場の一なり。安全なる碇泊地なれば、船舶は暴風の難をここに避く。

### 第三編 人事約説

#### 第一章 住民

種族 (一)種族 わが國の住民は、大體よりいふ時は、蒙古人種なれども、これを分つときは、大和種族・アイヌ種族・支那種族・臺灣種族の四種あり。

大和種族は、國民中最も多數を占め、性質極めて活潑鋭敏にて、忠勇の志厚く、技藝に巧なり。されど體軀の小なることと耐久の念乏しきこととは、その缺點なり。

アイヌ種族は、もと本土にも住みたりしが、今は北海道の一部に住居す。男子は鬚髪を蓄へ、女子は口の周圍に弦月形の



支那種族

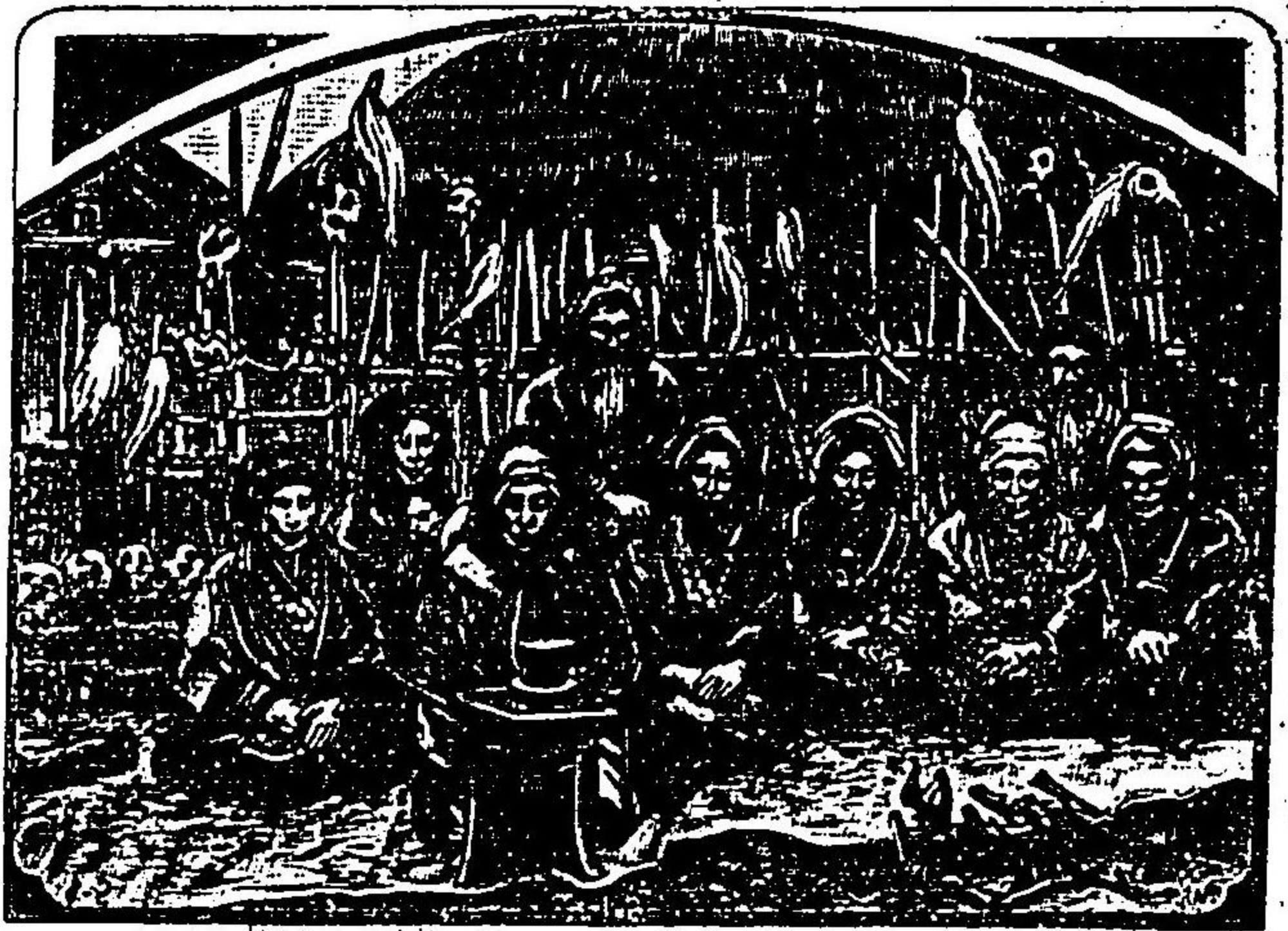
入墨を行ふ、上古強暴なりし性質は、今は蠢愚無氣力の民となりたり。

臺灣種族

支那種族とは、主として支那人の臺灣に移住せるものをいふ。臺灣種族とは、臺灣の土民にて、生蕃と熟蕃とあり。

人口

(二)人口 わが國の人口は、年々に増加す。明治十年西南の役の軍歌に、三千餘萬と歌ひしに、今は四千五百餘萬となりたり。氣候溫暖にて、天産に富むこととて、増加の速度最もはやく、世界中人口最も稠密



俗風ノ人土ヌイア

教育



俗風ト人土灣臺

なるものの一に居る。これを全國の戸數八十七萬に配當すれば、平均一戸の人員五人餘なり。

(三)教育 教育進歩すれば、國家おのづから開明に赴くべし。されば明治五年學制を定めら

れてより、現今は寒村僻地に至るまで、小學校を設け、男女いづれの兒童も必ず學ぶべきこととなりぬ。また大學・高等學校・中學校・女學校および各種

女子教育

の専門學校・師範學校などの設けあり。

女子のためには、各府縣に、高等女學校を設けられ、また女子師範學校・師範學校・女子部・女子高等師範學校および女子教育を施す各種の學校數多あり。

軍事教育

軍事教育のためには、陸軍大學校・士官學校・幼年學校・海軍大學校・海軍兵學校・海軍機關學校などあり。また教育の進歩に伴ひて、圖書の出版、新聞雜誌の發行も、年々に増加し、博物館・圖書館も各地に設けらる。

圖書出版等

宗教

佛教

(四) 宗教 わが國に行はるる宗教のおもなるものは、佛教と基督教となり。佛教は、欽明天皇の御代に、百濟より傳はり來れるものにて、國民の大部分は、みなこれを信ず。その宗派は頗る多く、天治宗・華嚴宗・眞言宗・淨土宗・眞宗・日蓮宗・禪宗などあり。

基督教

と十餘派あり。

基督教は、足利氏の末に、西洋人の傳へしものにて、その後全く禁ぜられしが、近年その禁を解き、自由に信ずることを許されしかども、いまだ廣く行はれず。

## 第二章 政治

國體

(一) 國體および政體 わが國は、萬世一系の 天皇これを統治し給ひ、君臣上下のあひ和すること、恰も一家族の如くにて、わが君主國體の善美なることは、實に世界各國に比類なきものなり。

政體

政體は、立憲政體にて、帝國憲法に従ひ、天皇は國家の大權

を總へ給ひ、その下に立法司法行政の三機關あり。

立法部は帝國議會にて、貴族院と衆議院とより成り、貴族院は皇族華族および勅選并に多額納税の議員より成り、衆議院は各府縣より選舉したる議員にて成る。

司法部

司法部は裁判所にて掌る、各府縣道廳の所在地および函館根室に地方裁判所あり、その他各地におよそ三百の區裁判所あり、これらの上に控訴院あり、控訴院は東京大阪名古屋廣島長崎仙臺函館の七地方に置き、更にその上に大審院あり。

行政部

行政部は中央と地方とあり、中央政府は東京にありて、内閣および外務内務大藏陸軍海軍司法文部農商務遞信の九省あり、内閣は内閣總理大臣と各省の大臣とにて組織す、この外に宮内省ありて、帝室のことを掌り、樞密院ありて天皇の顧問に應ず、地方には北海道に道廳ありて、その長を長官といひ、その下に支廳および區あり、支廳長および區長これを掌る、臺灣には總督府ありて、その長を總督といひ、その下に廳あり、廳長これを掌る、各府縣には、知事あり、その下に郡市ありて、郡市長これを掌る、また島廳には島司あり、更に町

地方政治

兵備

村には町村長ありて、各その地方の事務を掌る。

(二)兵備 兵備は、陸軍海軍より成り、大元帥陛下これを統率し給ふ。

陸軍、海軍

陸海軍は、全國の壯丁中より、その體格を檢査して、兵役に服せしむ、兵役には、常備兵役後備兵役補充兵役國民兵役あり、常備兵役を、更に現役と豫備役とに分ち、現役は、滿二十歳より陸軍は三年、海軍は四年間、豫備役は、その後陸軍四年、海軍三年、後備兵役は、その後五年間なり、補充兵役とは、現役兵員に超過せしものこれに服し、國民兵役は、以上の外のものこれに服す、また男子滿十七歳より、滿四十歳までを國民軍といふ。

兵備の組織

後備兵役(陸海軍とも)五年||常備兵役を終へしものに服す。

常備兵役  
 現役(陸軍)三年 満二十歳に至りしものこれに服す。  
 (海軍)四年 年 現役を終へたるものこれに服す。  
 豫備役(陸軍)四年四月 月  
 (海軍)三年 年

補充兵役  
 (陸軍) 第一補充兵役七年四月 月||その年の現役兵員に超過せしものこれに服す。  
 第二補充兵役一年四月 月||その年の第一補充兵員に超過せしものこれに服す。  
 (海軍) 一年 ||その年の現役兵員に超過せしものこれに服す。

國民兵役  
 第一國民兵役 ||後備兵役および第一補充兵役を終へしものこれに服す。  
 第二國民兵役 ||常備兵役後備兵役補充兵役および第一國民兵役にあらざるものこれに服す。

また兵備の組織を観るに、陸軍は、全國を東部・中部・西部の三都督部に分ち、これを更に近衛師團と、十二師團とに分つ。一

海軍

師團の下に二旅團あり、一旅團に二聯隊を置く。  
 海軍は、全國の沿海を五海軍區に分ち、各區に軍港あり、軍港に鎮守府を置き、軍艦・水雷艇などこれに屬す。室蘭には、いまだ鎮守府を開かざるゆゑ、横須賀鎮守府にて、その海軍區を兼ね管す。なほ左の表を見よ。

都督部	師團并に司令部所在地	旅團并にその所在地
東部	近衛師團 (東京)	近衛第一旅團 (東京)
中部	第一師團 (東京)	第一旅團 (東京)
中部	第二師團 (仙臺)	第二旅團 (仙臺)
中部	第七師團 (旭川)	第三旅團 (旭川)
中部	第八師團 (弘前)	第四旅團 (弘前)
中部	第三師團 (名古屋)	第五旅團 (名古屋)
中部	第四師團 (大阪)	第六旅團 (大阪)
中部	第十七師團 (伏見)	第七旅團 (伏見)
中部	第十九師團 (伏見)	第八旅團 (伏見)

部 督 都 部 西		部 督	
第十二師團 (小倉)	第十一師團 (丸龜)	第六師團 (熊本)	第五師團 (廣島)
第十師團 (姫路)	第九師團 (金澤)	第八師團 (敦賀)	第七師團 (福知山)
第六師團 (熊本)	第五師團 (廣島)	第四師團 (山口)	第三師團 (大村)
第二十二師團 (小倉)	第二十三師團 (丸龜)	第二十四師團 (久留米)	第二十五師團 (松山)

海軍區	軍港并に所在地	所	管
第一海軍區	横須賀港 (相模國)	横須賀鎮守府	
第二海軍區	吳 港 (安藝國)	吳 鎮守府	
第三海軍區	佐世保港 (肥前國)	佐世保鎮守府	
第四海軍區	舞鶴港 (丹後國)	舞鶴鎮守府	
第五海軍區	室蘭港 (膽振國)	室蘭鎮守府 (未開)	

(三)外交 古は、朝鮮・支那の外に、外國と交通せしことなく、

外交の略史

足利氏の末に、西洋の諸國より商船來りしかども、徳川氏は、支那・和蘭の外には交通を許さず、全く鎖港の國なりしに、嘉永年間、北米合衆國の使節、伊豆に來りしより、他の西洋諸國も來り、終に港を開き交通をなすに至れり。

維新後の外交

明治維新後には、大いに外國との貿易を盛んにし、次第に諸外國と條約を結び、その數二十三國に及べり。また國內にては、横濱・神戸・長崎の三港最も外國との貿易盛んにて、その他諸國に開港場と定められしもの、臺灣のを合せて三十餘港に及べり。

輸出品

輸出品の重要なものは、生絲を第一とし、絹布類・石炭・米・茶・綿布類・マナ・海産物・陶磁器・樟腦など頗る多し。輸入品にては、綿・綿絲・綿布類・毛絲・毛織物・砂糖・鐵および諸種の器械類・石油

輸入品

藥種米・豆類などなり。

財政	租税、國	府縣稅	市町村稅	歲入・歲出金	國債
----	------	-----	------	--------	----

(四)財政 國家を治むるには、多くの費用を要するものなり。この費用は、宜しく國民より出だすべきものにて、これを租税といふ。租税には、國稅、府縣稅、市町村稅の別あり。國稅とは、全國の政務に關する費用、即ち地租、および所得稅、酒造稅、海關稅などにて、その歲入、歲出は、帝國議會の協賛を要し、府縣稅は、その府縣内、市町村稅は、その市町村内の費用にて、府縣會および市町村會の議決を要す。

全國に關する歲入、歲出の金額は、もと八九千萬圓なりしに、二十七八年の戰役後には、大いに増加して、二億七千萬圓以上に及べり。また内外の國債を合せて、五億二千萬圓あるに至れり。

### 第三章 生業

農業

(一)農業 人類に最も必要なる衣食住は、天産物の多さと、農工・商業の發達とによりて、都合よく良き物を得らるるなり。

米

わが國は、古より農業を國本とし、米穀能く實りしかば、瑞穂の國と呼べり。かつ國民は、米を常食とするゆゑ、その産額は農産物の第一に位し、毎年およそ四千餘萬石を産す。産額が多きは、新潟縣、福岡縣、兵庫縣、千葉縣、愛知縣などにて、米質の良きは、肥後米、伊勢米、美濃米、近江米、播磨米などなり。米に次ぎて多きは、麥にて、その産額およそ二千萬石なり。埼玉縣、茨

麥

茶

城縣・兵庫縣・熊本縣などより多く産出す。

烟草

茶も、主要なる産物の一にて、外國に輸出す。その産額の最も多きは静岡縣にて、京都府・三重縣などこれに次ぐ。臺灣よりも産出すること多し。また玉露など、その質の良きものは、京都府下の山城を第一とす。烟草は、全國各地より産出し、産額の多きは、茨城縣・岡山縣・神奈川縣・徳島縣・鹿兒島縣・新潟縣・福島縣などなり。砂糖は、臺灣と香川縣とを第一とし、鹿兒島縣・沖繩縣より黒砂糖を出だす。砂糖の原料は、主として甘蔗なり。また酒の醸造は、兵庫縣・福岡縣・愛知縣に多く、醬油は、千葉縣・兵庫縣・愛知縣より製出すること多し。

砂糖

酒、醬油

甘蔗

右の外、豆・粟・黍・蕎麥・小豆・綿・麻・藍・甘藷・馬鈴薯などの農産物多し。その中、甘蔗は、鹿兒島縣・長崎縣・熊本縣・愛媛縣より産す。

綿、麻

藍

牧畜

水産業

ること最も多く、綿は、鳥取縣・廣島縣・大阪府。麻は、栃木縣・廣島縣・新潟縣より出だすこと多く。藍は、徳島縣を第一とし、福岡縣・愛知縣・岡山縣よりも出だす。

牧畜は、いまだ振はず、牛は、廣島縣・岡山縣・兵庫縣・長崎縣などにて飼ひ、馬は、福島縣・岩手縣・鹿兒島縣・熊本縣などにて飼ひ、豚は、臺灣・琉球・九州の南部、および東京府・千葉縣・神奈川縣などに飼ふ。されど、その頭數いまだ少なし。

(二)水産業 わが國の四面みな海にて、魚族に富む。殊に北海道の沿海は、世界三大漁場の一と稱せらる。その他、各所より諸種の海産物を出だし、その産額、毎年九千餘萬圓なれども、なほその方法を改良せば、多くの利益を得らるべく、實にわが國無盡藏の一大財源たるべきなり。また川湖沼などよ

魚類

り、魚類を漁することも少なからず。魚類の重なるものは、鯡、鱈、鯉、鯛、烏賊、鮭、鱒、鱈などにて、乾物に

乾物

ては、鯉、節、鰯、乾鰹、海苔、昆布などなり。瀬戸内海の沿岸を始め

鹽、海獸

として、鹽を製することも多し。また北海道より、獵虎、臘、臍、臍

その他、各所の沿海より鯨を捕ふ。されど、この業は、いまだ盛んならず。

森林業

(三) 森林業 わが國は家屋、家具等木を用ふること多きに、

木材薪炭

古より森林に富めるは甚だ便利なり。木曾、紀伊、大和、天城などの森林よりは、最も良材を出だし、その他、陸奥、山林、羽後、山林、兩毛、山林、立山、山林、駿河、山林、伊勢、山林、日向、山林などよりも、木材、薪炭を産すること多し。また、山林の副産物として、臺灣および九州の南部地方より、樟腦を産すること多く、福岡

山林の副産物

縣、愛媛縣などよりは、檀、蠟、長野縣、群馬縣などよりは、漆汁を産出す。

鑛業

(四) 鑛業 鑛物にては、石炭を第一とし、九州の西北部、北海

道の西南部より出だすこと多く、銅は、下野の足尾、伊豫の別子、および秋田縣、岡山縣、島根縣などより産し、硫黃は、北海道に多く、石油は、越後を第一とす。銀は、秋田縣、岐阜縣、兵庫縣、金は、新潟縣、鹿兒島縣、鐵は、岩手縣、島根縣などより産す。

工業、養蠶

(五) 工業 養蠶は、長野縣、群馬縣、福島縣などを始めとして

綿絲

諸國に行はれ、生絲、真綿など製出すること年々に多く、綿絲

織物

の製出は、大阪府最も盛んにて、岡山縣、兵庫縣などこれに次ぐ。絹、および木綿の織物は、諸國より産出し、殊にわが國は美術工藝に長じ、美麗なる織物、染物、漆器、陶器などを出だす。そ



の他、紙類、銅器、鐵器などを製出し、また摺附木は、神戸、大阪、愛知、東京などにて、盛んに製造し、外國へ輸出す。

商業

二大商業地

(六) 商業 昔は、交通不便にて、商業は一地方に限られたれども、今は、廣く諸方と取引をなし、内國のみならず、諸外國と互に商業を營む。東京と大阪とは、いづれも最も多く商品の集散するところにて、二大商業地なり。横濱、神戸、長崎は外國貿易の三大港なり。その他、鐵道および汽船の交通に便利なるところは、その地方にて、商業の中心となり、商品の市場となる。かかるところには、商業會議所の設けあり、かつ銀行、運送會社などを設け、商業をして便利ならしむ。

第四章 交通

道路の通過地

(一) 道路 道路は、多く河川の流域、湖海の沿岸を通ず。例へば、東海、北國、中國地方などは、海岸に沿ひ、中山道は、琵琶湖の沿岸、および木曾川、荒川の流域を通過するが如し。而して道路は、都會を中心として、諸方に向ひ、また都會と都會とを連接せしむるを常とす。わが國の道路には、國道、縣道、里道の三等あり。

鐵道

(二) 鐵道 鐵道は、明治五年に、東京と横濱との間に設けられしを初めとし、その後、年々に増設せられ、今は、東西南北の都會を連絡するに至り、その延長三千八百餘哩に及び。殊に東京および大阪を中心とする鐵道最も多し。今、本州にては、羽前の海岸、北國地方の一部、中國地方の北岸、飛騨、信濃、甲

航路

斐などの山地并に紀伊南部の外は、大抵の都會を連絡し、その他、四國および九州の東南部、北海道、臺灣の東部には、いまだ鐵道少なし。されど、漸次官設と私設とによりて敷設せらるべき豫定なり。

(三)航路 航路は、鐵道とあひ待ちて、必要なる交通機關なり。航運業を營むもの各地に多けれども、日本郵船株式會社および大阪商船株式會社を最も重要なりとす。

郵船會社の重なる航路は、横濱を中心として、西は神戸・赤間、關を経て、日本海に出で、沿岸の諸港を経て、函館・小樽に至り、東は、荻濱・函館を経て、小樽に至る。この外に、横濱より四日市および神戸に至るもの、函館・小樽等より北海道の沿岸を廻るもの、并に小笠原島および臺灣に至るものあり。また外國

郵便

に至るものには、東はアメリカ、西は神戸・長崎を経て、露領のウラヂボストク、韓の釜山・仁川、清の天津・上海などを経て、ヨーロッパに至る。

商船會社も、大阪を中心として、瀬戸内海・四國・九州および、韓清などの諸港に至る。その他の小會社は、各その近海を航し、また川および湖上を通行するものもあり。

(四)郵便 明治維新の後、郵便の法を設けられしより、寒村僻地に至るまで、僅の郵税にて自由に通信することを得、また郵便爲替にて、各地に金錢を送り、小包郵便にて、一貫五百目以下の荷物を送ることを得、郵便を扱ふところは、全國に四千所、郵便線路の延長は二萬里あり。

電信

(五)電信・電話 電信は、明治二年に、東京・横濱間に設けられ

電話

しを初めとし、今日は、各地の都邑の間に通じ、電信線路は延  
 長一萬九千里に及び、また本土と島地との間に海底電信線  
 を設け、長崎より韓の釜山、清の上海、露領のウラヂボストク  
 にも海底電信線あり。

電話も、近年、東京、大阪、京都、横濱、神戸を始めとして、有名なる  
 市街には、次第に設けられ、かつ一市街内のみならず、東京、大阪、  
 神戸その他の間に、長距離の電話ありて、ますます便利とな  
 り。かかる開明の世に生れしもの、豈幸福の至りならずや。

地理教本 (日本編) 終

明治三十五年十一月一日印刷  
 明治三十五年十一月一日發行

定價 金六拾錢  
 各府縣特約賣捌所

明治三十五年十一月一日印刷  
 明治三十五年十一月四日發行

(地理教本日本編)全壹冊  
 定價 金六拾錢



不許複製

著作者

瀧本 燈三

著作者

槇山 榮次

印刷發行

東京市日本橋區吳服町一番地  
 株式會社普及舍

代表者

取締役  
 中川 九郎

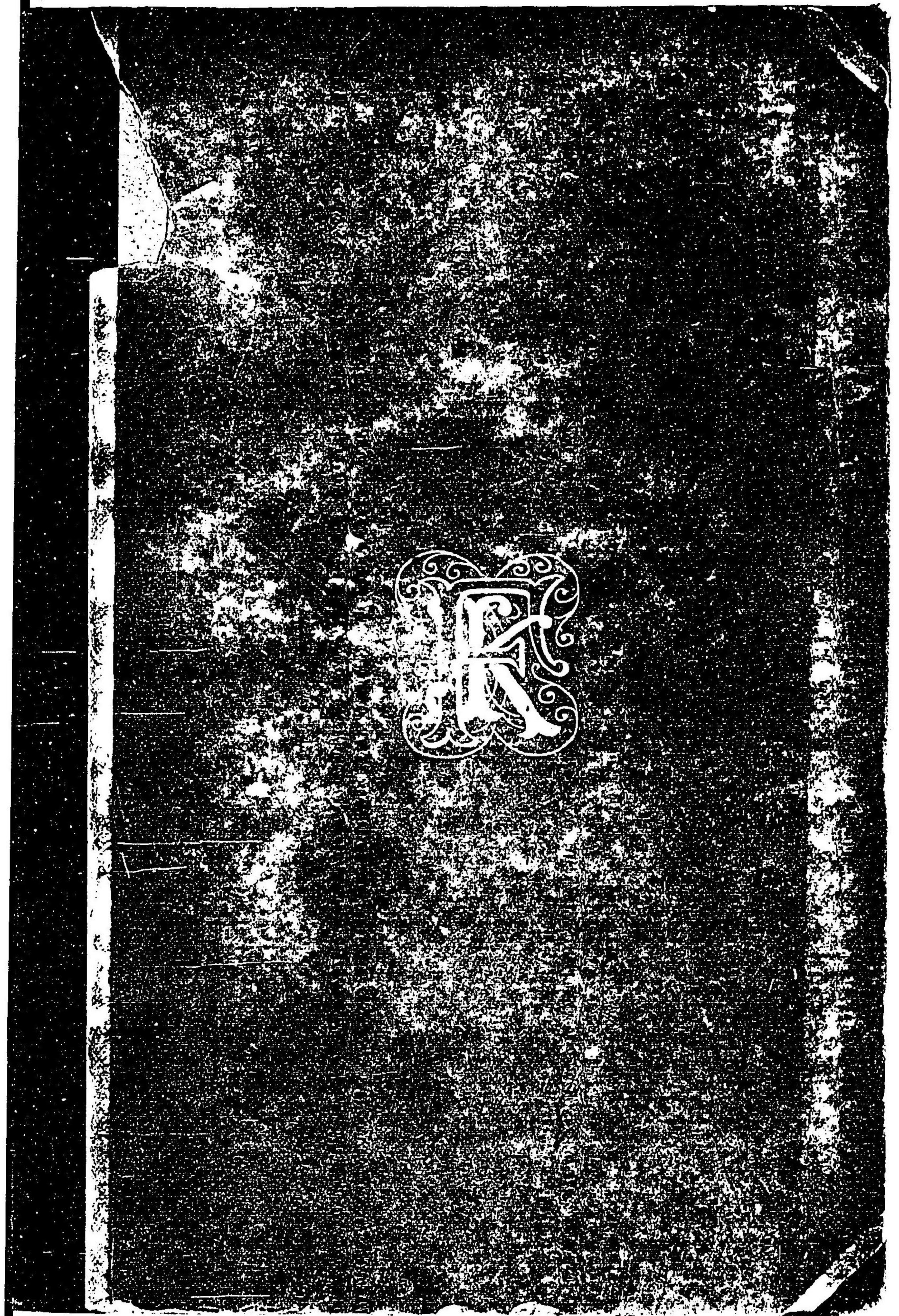
賣捌所

各府縣特約賣捌所

[The left page of the manuscript is mostly blank, showing only faint, illegible traces of text.]

[The right page of the manuscript contains a large rectangular frame. Inside the frame, there are several columns of text written in a vertical orientation. The text is extremely faint and illegible. The frame is defined by a double-line border.]

86  
231



022151-001-9

86-234

地理教本

滝本 鏡三/著

M35

ADA-0568



86

234

其  
著

日  
南



